HONDA

ACTY

取扱説明書

ご使用のまえに よくお読みください。

このたびはホンダ車をお買い上げいただき、
ありがとうございます。
この本は、下記の車種の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。

名　称	型　式	エンジン型式	排気量(cm³)	車体形状		タイプ	
アクティ	V-HA3	E07A	656	トラック	一方開	STD	2WD
					三方開	STD	
						SDX	
						SDX II	
						TOWN	
	V-HA4					SDX	4WD
						ATTACK	
						TOWN	

●この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明し、また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

●とくに、**「安全・快適ドライブのための必読12ポイント」**や 

と 

のマークのところは重要ですからしっかりお読みください。

●運転はルールを守り、マナーよく。
- シートベルトを締めましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- 子供やお年寄りをいたわりましょう。
- 駐停車は、ルールに従いましょう。
- 迷惑運転はやめましょう。
- 自然環境保護に気をくばりましょう。

●安全、快適にご使用いただくために、点検整備は必ず行ってください。

●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

●取扱説明書は別冊の「整備手帳」とともに、いつもお車に保管してください。

●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのために、この本を車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

Contents(目次)

2 ビジュアル目次①②

6 安全・快適ドライブのための必読12ポイント


14 1、車を運転するまえに ●各部の開閉●運行前点検●各部の操作


26 2、車を運転するときに ●メーターのはたらき●表示灯、警告灯●スイッチの使いかた ●エンジンのかけかた、運転のしかた


46 3、ドライブを快適にする装備 ●ヒーター・エアコン●室内装備品


60 4、万一のとき ●工具●故障したとき●パンクしたとき●バッテリーあがりのとき ●オーバーヒートしたとき●ライト類が点灯しないとき

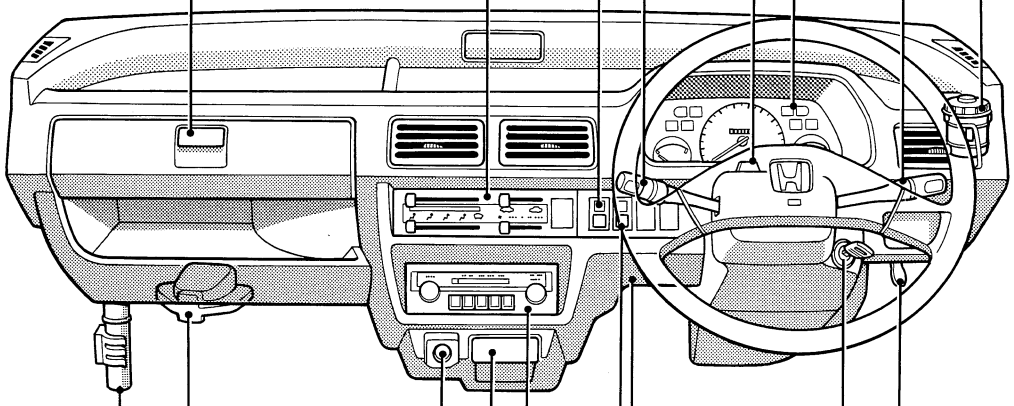

72 5、車の手入れ ●6か月点検●簡単な整備


90 6、車との上手なつきあいかた ●純正部品●車にあった部品の使用 ●経済走行のために●積雪・寒冷時の取り扱い

96 サービスデータ

99 さくいん

名称別ビジュアル目次



荷台作業灯スイッチ(33ページ)
タイプ別装備

ヒーター・エアコン(47ページ)

グローブボックス(58ページ)

発炎筒(62ページ)

ラジエーターカバー(81ページ)

シガレットライター(57ページ)
タイプ別装備

灰皿(58ページ)

ラジオ(52ページ)
タイプ別装備

ワイパー／ウオッシャー液噴射スイッチ
(32ページ)

非常点滅表示灯スイッチ(33ページ)

メーター(27ページ)
表示灯・警告灯(28ページ)

ライトスイッチ(30ページ)
方向指示器スイッチ
(31ページ)

ブレーキリザーバー
タンク(21ページ)

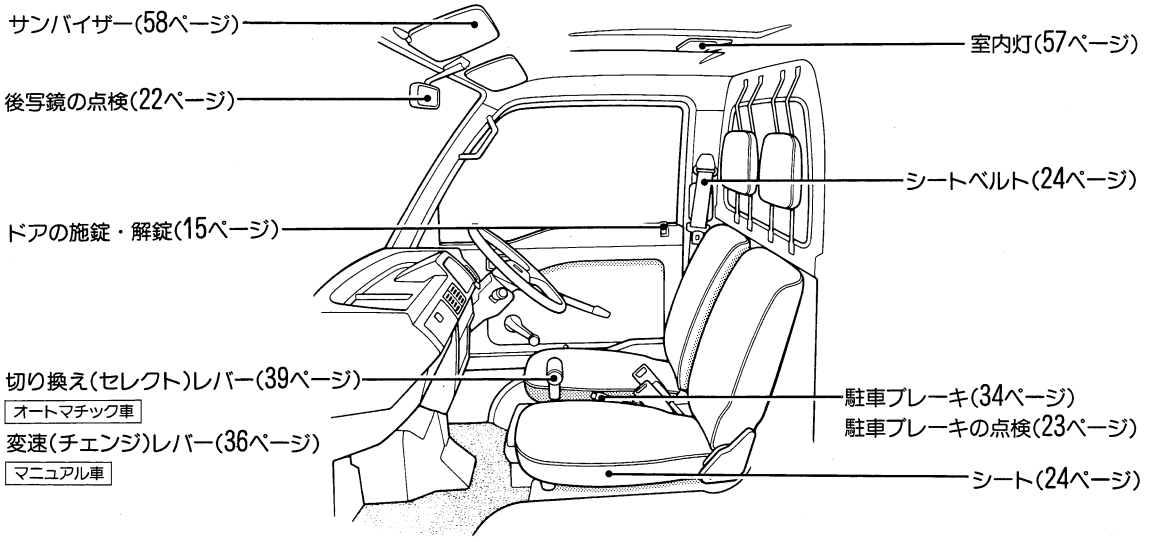
換気レバー(47ページ)

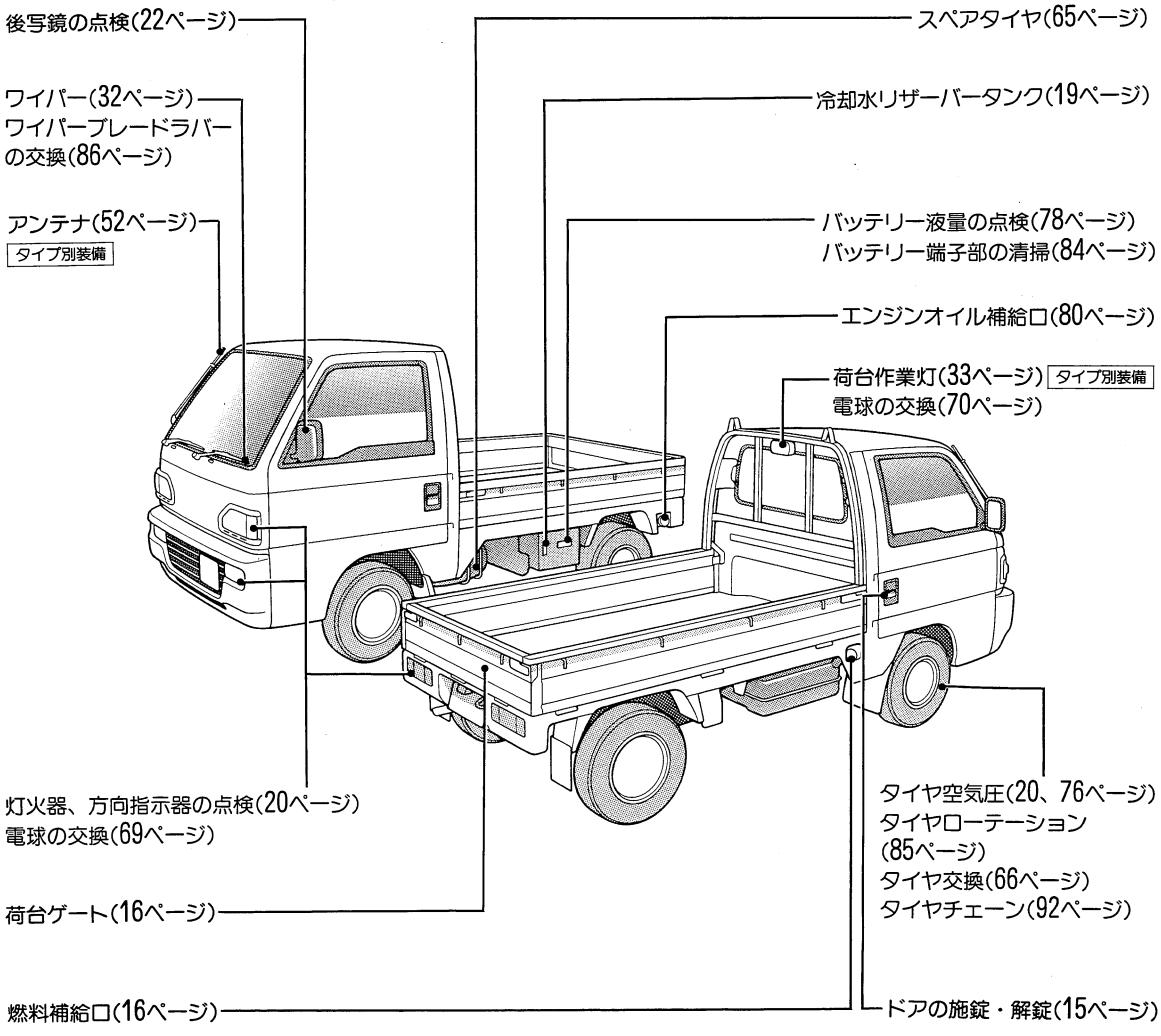
エンジンスイッチ(30ページ)

ヒューズボックス(68ページ)

デフロックスイッチ(38ページ)
ATTACK

Visual Contents.1





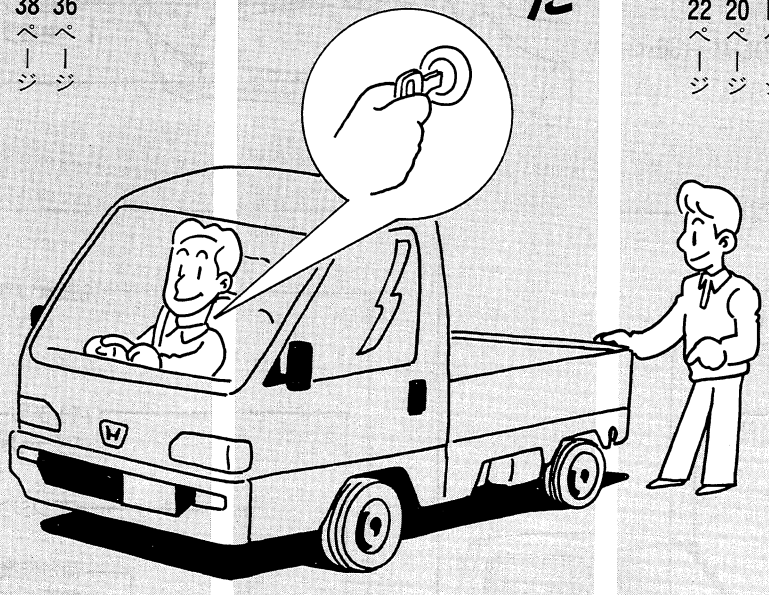
動作別ビジュアル目次

運転前の点検

- 車の下をのぞいて……18ページ
- 車のまわりを回りながら……20ページ
- 運転席にすわって……22ページ

エンジンのかけかた

- エンジンをかける前に……34ページ
- かけかた……35ページ



運転のしかた

- 変速レバー（チェンジレバー）の操作……36ページ
- 差動制限装置（デフロック）……38ページ
- 切り換えレバー（セレクトレバー）の操作……39ページ
- オートマチック車の運転のしかた……41ページ
- 経済走行……91ページ

万一のとき

- 工具が必要なとき……61
- 故障したとき……62
  - 高速道路で故障したとき……62
  - 踏切でエンストしたとき……62
  - 発炎筒について……62
  - 故障の修理について……63
  - けん引について……63
- パンクしたとき……65
- バッテリーあがりのとき……67
- オーバーヒートしたとき……68

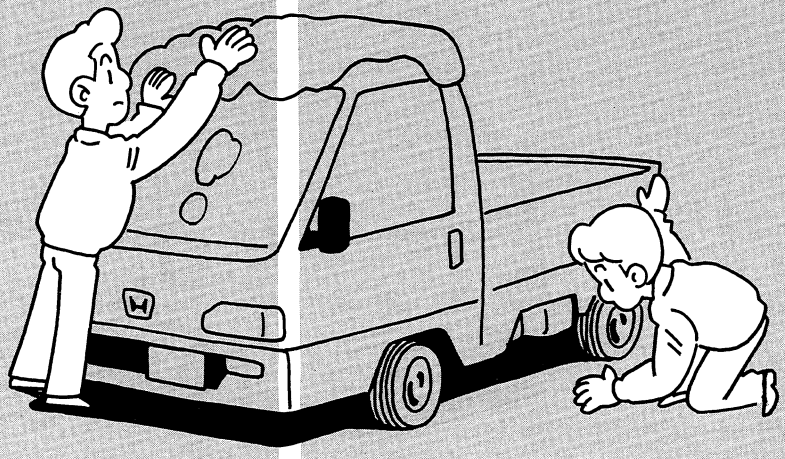
Visual Contents.2

車の手入れ

- 6か月点検……73ページ
- 簡単な整備
  - エンジンオイルの補給……80ページ
  - 冷却水の補給……81ページ
  - ウォッシャー液の補給……82ページ
  - ブレーキ液の補給……82ページ
  - トランスミッションオイル量の点検……83ページ
  - バッテリー液の補給……83ページ
  - バッテリー端子部の清掃……84ページ
  - タイヤの位置交換……85ページ
  - エアクリーナーろ紙部（エレメント）の清掃・交換……85ページ
  - ワイパーブレードラバーの交換……86ページ
  - 塗装の手入れ……86ページ
  - 内装の手入れ……87ページ
  - エアコンの手入れ……88ページ
  - 冬期の整備……89ページ
- 純正部品……91ページ

積雪・寒冷時の取り扱い

- 走行前の点検……92ページ
- タイヤチェーンの取り付けかた……92ページ
- 車の積雪、凍結について……93ページ
- 走りかた……94ページ
- 駐車のしかた……94ページ



ライト類が点灯しないとき……68
- ヒューズ交換のしかた……68
- 電球（バルブ）交換のしかた……69

エンジンがかからないとき……34
- 正しいエンジンのかけかた……34
- ガソリンは……23
- バッテリーあがり……67

タイヤチェーンをつけるとき……92

警告灯がついたとき……28

セレクトレバーが動かないとき……10

1 点検整備を忘れずに。

安全、快適にお使いいただくために、ホンダ車の点検整備方式に従って点検整備を行ってください。

点検整備には、

- 自動車を使う人が、1日1回、運転する前に行う運行前点検
- 自動車を使う人が定期的に行う6か月、12か月、24か月ごとの定期点検
- 定期的に行う部品交換整備
- ホンダ指定の初回1か月目の無料点検

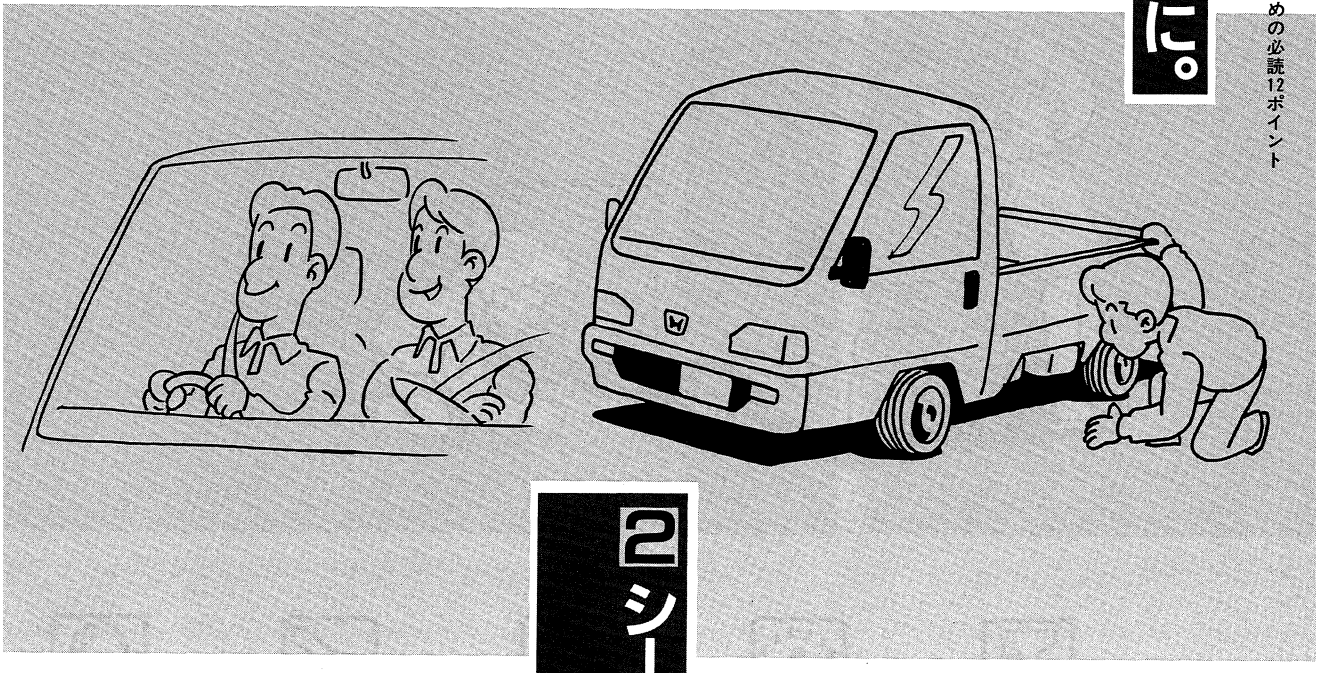
があります。

これらの点検整備は、法令で定められているものと、ホンダが推奨するものに基づいています。必ず行ってください。くわしくは別冊の「整備手帳」をご覧ください。

運行前点検 →17ページ
6か月点検 →73ページ

- エンジンや触媒装置などに悪影響を与えないため、ご自分でエンジン調整や部品、配管の取り外しを行わないでください。

また、配線容量以上の負荷がかかる電気部品の取り付けや誤った配線、不確実な接続、配線の固定不良などは思わぬトラブルを起す危険があります。ホンダ販売店にご相談ください。



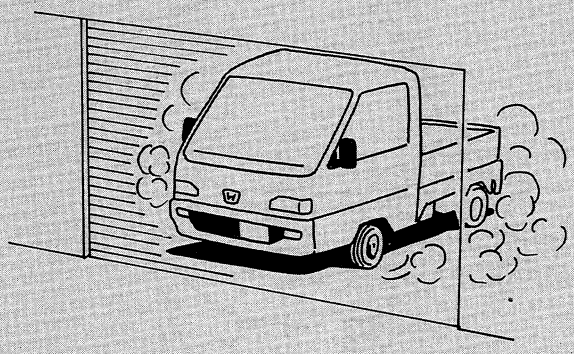
2 シートベルトが身を守る。

- 車を運転するまえ、運転者は必ず着用し、となりの同乗者にも必ず着用させてください。
- 上腹部を避け、腰骨にぴったり着用してください。

シートベルト →24ページ

3 火気や換気に注意。

●燃料補給時は火気厳禁です。
エンジンは必ず止めてください。
●エンジンを始動する前に燃えやすいものが排気管などに巻きついていないか点検してください。
●走行後の排気管付近は、かなり高い温度なので枯草、紙、油など燃えやすいものの近くには駐停車しないでください。
●車の後方に木材、油などの燃えやすいものがある場所への駐停車は避けてください。
やむを得ず駐停車する場合はエンジンを必ず止めてください。
●タバコの吸殻はきちんと火を消し灰皿の中に入れてください。灰皿を使った後は、必ず閉めてください。





●車内にはガソリンなどの可燃物は乗せないでください。
●換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒をおこす危険があります。
●エンジンをかけたまま仮眠をしないでください。
無意識に変速レバーや切り換えレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたりエンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
●ガラス面にアクセサリーを取り付けないでください。運転のさまたげになるばかりでなく、アクセサリーの吸盤がレンズのはたらきをして、火災など思わぬ事故をまねくことがあります。

4 正しい知識で、最適運転。

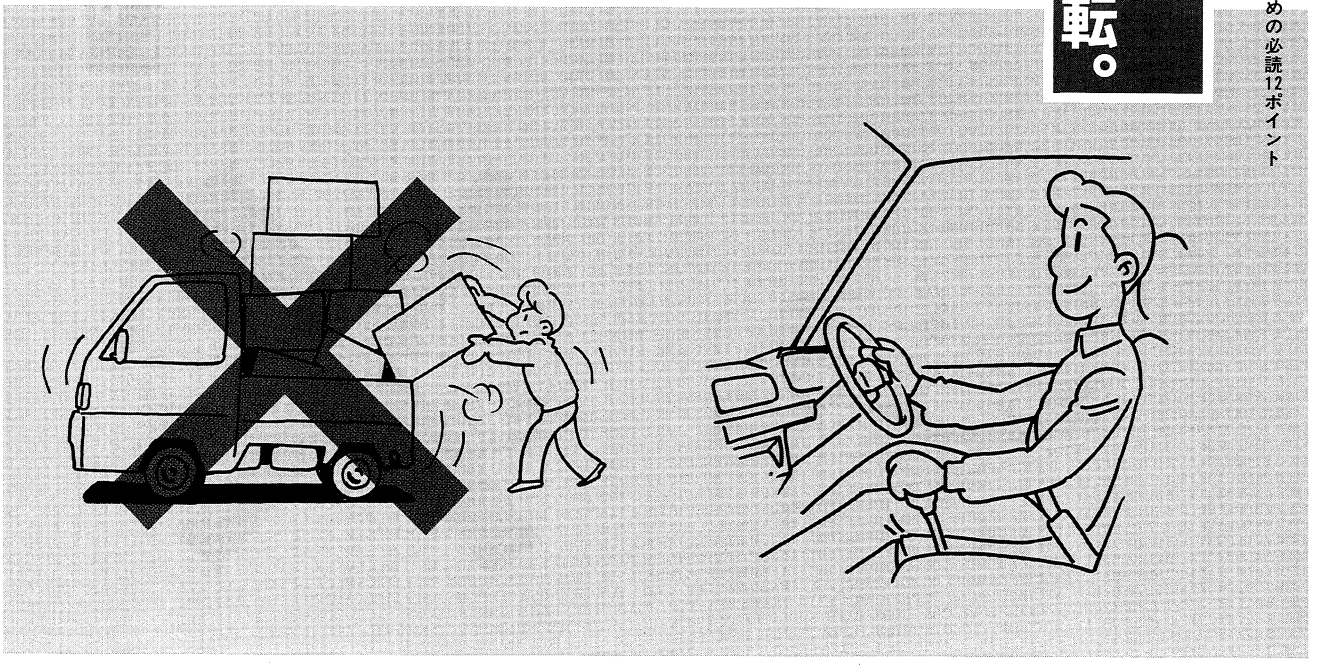
●1000km走行するまでは、急発進、急加速は避け、控えめな運転をしてください。

●ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。ハンドル操作のさまたげとなり、たいへん危険です。

●運転者の足もとに操作をさまたげるようなものを置かないでください。また、フロアマットがアクセルペダルに引っかからないように注意してください。

●変速位置の選択は走行速度に応じて適切に行ってください。

マニュアル車 →37ページ
オートマチック車 →40ページ



●小さい荷物はカバーをかけ固定してください。

●小さくて重量のある荷物は、できるだけ運転室側に近づけて積んでください。また荷物はしっかりとロープをかけてください。
ロープがゆるむと急ブレーキ、急カーブおよびバウンドしたとき荷物が飛び出して思わぬ危険物となることがあります。

●荷物を積むときは過積載しないでください。車両重量が極端に増すと制動距離その他の運転感覚が狂います。

●エンジン停止後、エンジンルーム内の温度が高い時にサブ冷却ファンが作動することがあります。（20分間以内）

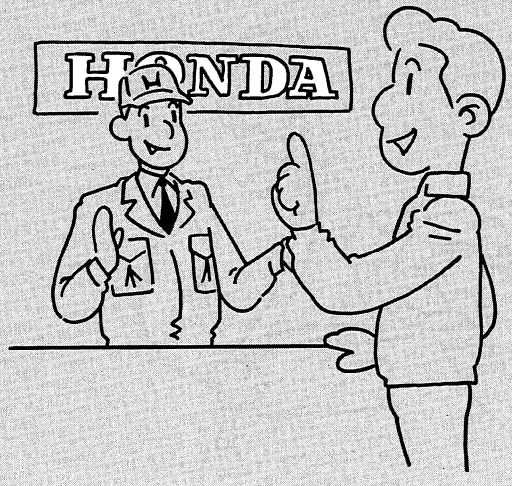
■四輪駆動車(4WD車)について

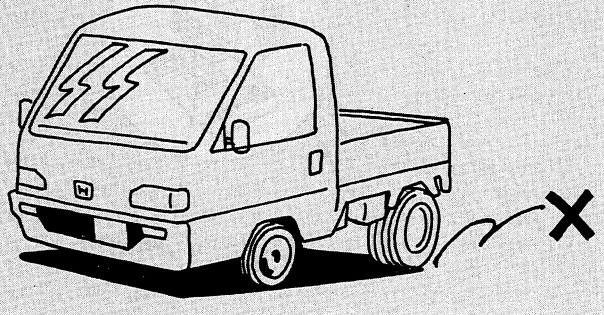
アクティ4WD

●四輪駆動車(4WD車)は積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、二輪駆動車(2WD車)に比べて走破性にすぐれていますが、荒地走行専用車ではありません。

●四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗差の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。

●積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面での走行性は、二輪駆動車(2WD車)に比べすぐれていますが、ブレーキ性能にはあまり差がありません。従って滑りやすい路面での走行は、十分車間距離を取ってください。





■使用ガソリンについて

●必ず無鉛ガソリンを使ってください。有鉛ガソリンを使うと触媒装置などを損います。
また、粗悪ガソリンや不適切な燃料添加剤を使うとエンジンなどに悪影響をあたえます。

■ホイールの交換について

●この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずホンダ販売店にご相談ください。

※別冊の"SAFETY DRIVING SAFETY POINTS"もあわせてお読みください。

5 シフトロック装置を正しく理解。

オートマチック車

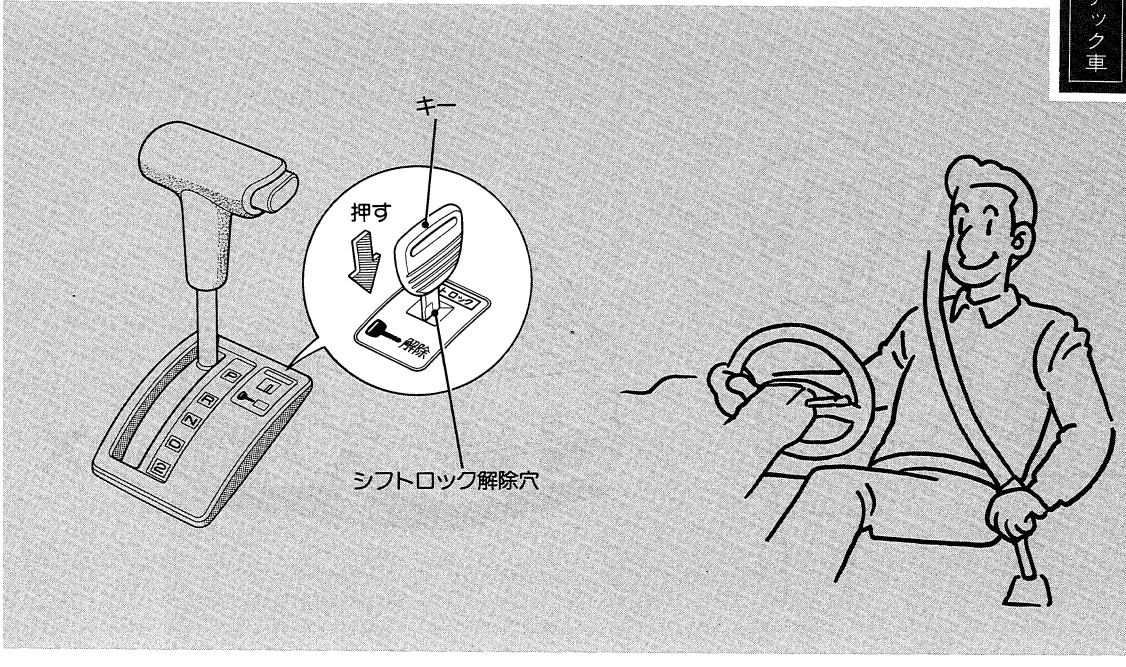
ブレーキペダルを踏んでいないとPから他の位置に切り換えられません。

●エンジンスイッチが〝ACC〟または〝OFF〟のときは、ブレーキペダルを踏んでも、Pから他の位置に切り換えられません。

●切り換えレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。

エンジンスイッチからキーを抜くときは、Pの位置に。

●切り換えレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが〝ACC〟の位置から〝OFF〟の位置まで回らないので、キーを抜くことができません。



Rに入れるとチャイムが鳴ります。

●切り換えレバーがRのときはチャイムが鳴り、Rに入っていることを知らせます。

●車外の人には聞こえませんので、ご注意ください。

■シフトロックの解除のしかた

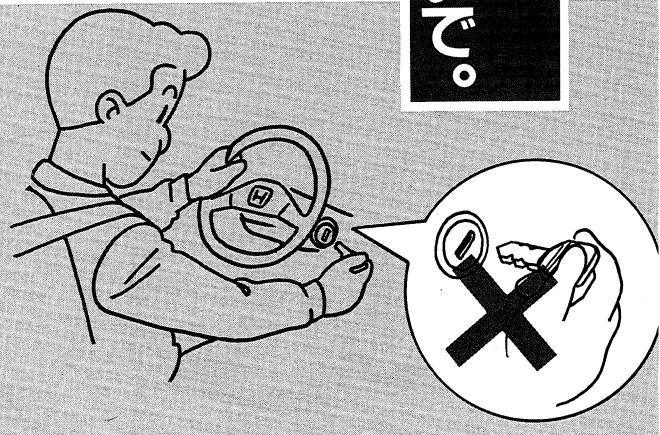
●万一、ブレーキペダルを踏んでも、切り換えレバーがPから他の位置に切り換えられないときなどは、次の方法で操作してください。

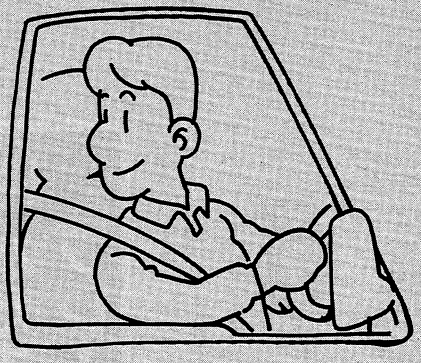
1. エンジンスイッチからキーを抜き取ります。
2. キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながら、切り換えレバーを操作します。

切り換えレバーの操作 →39ページ

6 走行中は、エンジンを切らないで。

●走行中にエンジンを止めないでください。
ブレーキ倍力装置が作用しないのでブレーキのききが悪くなります。
万一、走行中にエンジンが停止したときは、ブレーキペダルを強く踏めば、ブレーキはききます。通常よりブレーキペダルを強く踏んで、安全な場所に停車させてください。





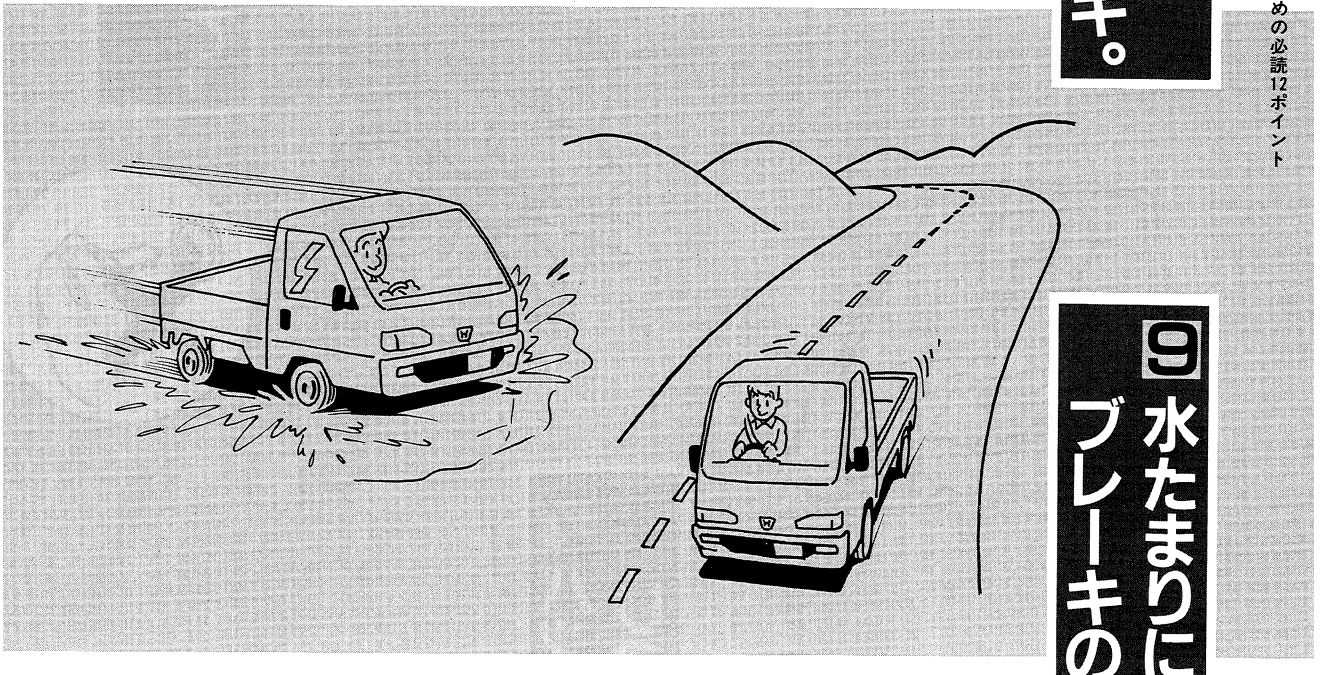
7 バックのときは、しっかりと後方確認。

●後退するときは子ども、障害物に注意してください。後写鏡では確認できない死角(車の直後など)があります。
●後退時は体をうしろにひねった姿勢をとることが考えられますが、ブレーキペダルは確実に操作してください。
●少し後退したときなどは、リバース(後退)に入れたことを忘れてしまうことがあるので、後退後はすぐにニュートラルにもどすよう習慣づけてください。

変速レバーの操作 →36ページ
切り換えレバーの操作 →39ページ

8 下り坂では、※エンジンブレーキ。

●長い下り坂などでは走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落としてエンジンブレーキを併用してください。
オートマチック車は[2]を使ってください。
ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ部の温度が上がりブレーキのききが悪くなるおそれがあります。
※**エンジンブレーキ**…走行中、アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよくききます。
●坂道に駐車するときは駐車ブレーキをかけ、マニュアル車は、変速レバーを平地や下り坂では[R](後退)に、上り坂では1速に入れてください。
オートマチック車は切り換えレバーを[P]に入れてください。
さらに輪止めをすると効果があります。

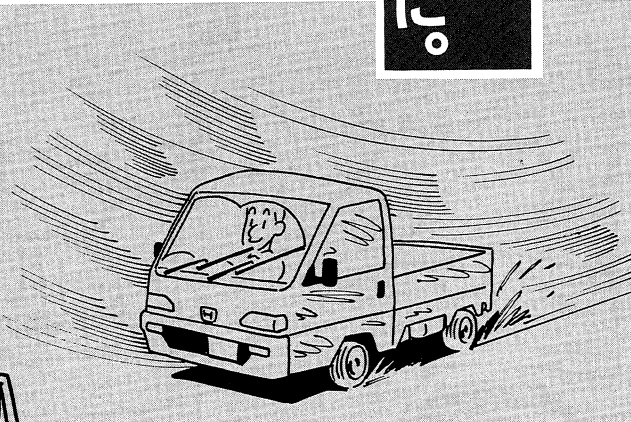


9 水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

●水たまり走行後や洗車後はブレーキのききが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。ブレーキのききが悪いときは前後の車に十分注意してブレーキペダルを軽く踏みながらしばらく低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。
万一、冠水路を走行しなければならないときは、対向車の波を受けないように注意しながら、ゆっくりと波を立てないようにして、なるべく浅いところ(水深20cmまで)を選んで走行し、途中でエンジンを止めないよう気をつけてください。水中から出たあとは必ずブレーキのきき具合を確かめ、長く水中を走行したときは点検を受けてください。
●滑りやすい路面では急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルを避けてください。
横滑りして方向性を失い危険です。
●ブレーキのきき具合、ペダルの作動具合など、ブレーキ系統に異常を感じたら、ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

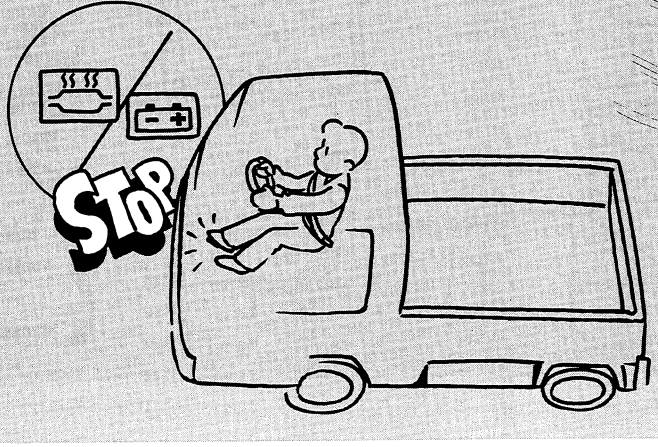
10 雨、風の強い日は、スピードを控えめに。

●風の強い日や雨天ではスピードを控えめにしましょう。横風を受け車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握りスピードを徐々に下げて進路を立て直しましょう。
●トンネルの出口、橋や土手の上、山を削った切通しの部分では特に横風が発生しやすいのでご注意ください。



11 お子さまに思いやりを。

●車を離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。いたずらによる車の発進、火災、また炎天下においては車内の高温などにより思わぬ事故を招くことがあります。
●ドアを閉めるときやシートを操作するときは、お子さまに十分注意してください。



12 触媒装置をたいせつに。

●不適当な取り扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので次のような取り扱いはしないでください。
1.走行中はエンジンスイッチを絶対に切らないでください。
2.エンジンを止めるときは、空ぶかし直後にエンジンスイッチを切らないでください。
3.排気温警告灯や充電警告灯が点灯した状態で運転を続けないでください。

充電警告灯 →28ページ
排気温警告灯 →29ページ

4.押しがけ、けん引によるエンジン始動をしないでください。

●点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響しますので、エンジン不調を感じたときはただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

1 車を運転するまえに



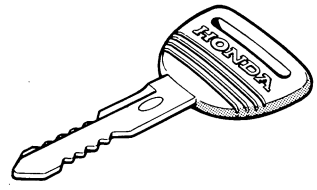
各部の開閉
キー……15
ドアの施錠・解錠……15
荷台ゲート……16
燃料補給口……16

運行前点検
①前日の異状箇所の点検……18
②車の下をのぞいて……18
③車のまわりを回りながら……20
④運転席にすわって……22

各部の操作
シート……24
シートベルト……25

各部の開閉

キー



キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアや燃料補給口の施錠・解錠に使います。



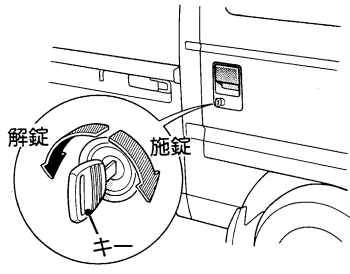
ドアの施錠・解錠

アドバイス
●車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。

●車外からの施錠・解錠

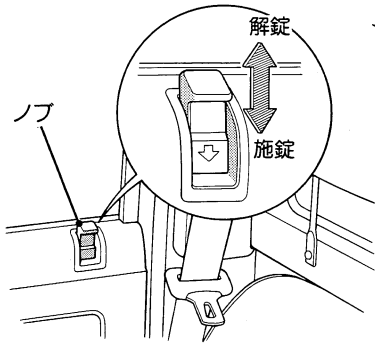
助手席側はタイプ別装備

キーを確実に差し込んで回します。



●車内からの施錠・解錠

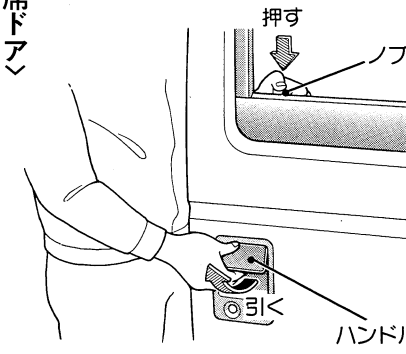
ノブを矢印の方向に押すと施錠または解錠できます。



●車外からキーを使わない施錠

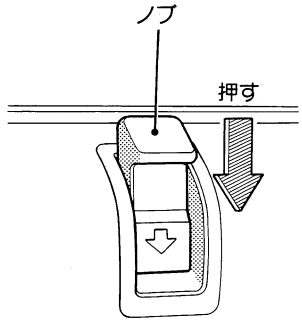
〈運転席ドア〉

ドアハンドルを引いたまま車内のノブを矢印の方向に押して、ドアを閉めると施錠できます。



〈助手席ドア〉

ノブを矢印の方向に押して、ドアを閉めると施錠できます。



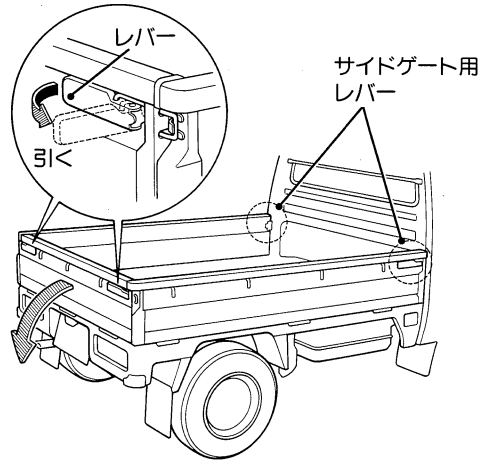
アドバイス
●キーを車内に置き忘れないようにしてください。

安心ドライブ「運行前点検」。

荷台ゲート

●ゲートの倒しかた

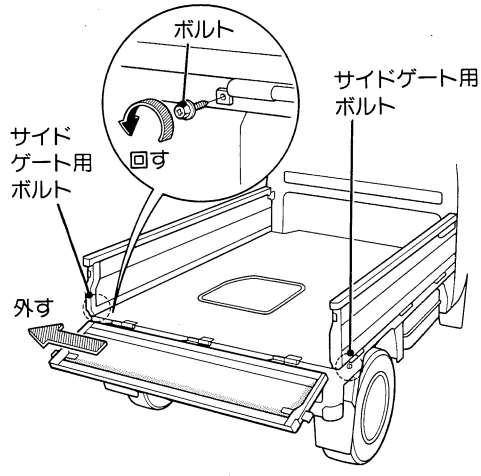
レバーを引き、テールゲートを静かに倒します。



可倒式サイドゲート(タイプ別装備)も同じ要領で倒せます。

●ゲートの取り外しかた

ボルトを外してからレバーを引き、テールゲートを静かに倒します。テールゲートをしっかりと持ち、左方向にずらして外します。

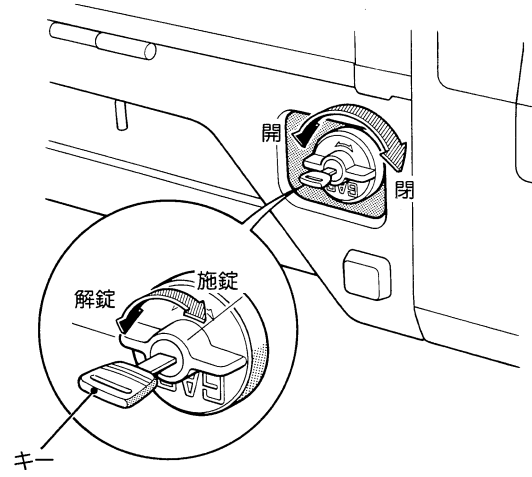


可倒式サイドゲート(タイプ別装備)も同じ要領で後方にずらせば外れます。取り付けは逆の要領で行い、ボルトを確実に取り付けます。

注意

- ゲートを倒したまま走行しないでください。ゲートを倒したまま走行すると、ゲートがバタついたり、尾灯や制動灯などが後方から見えず危険です。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。

燃料補給口



燃料補給口は車の右側中央にあります。キーを差し込み解錠後、抜き取ってからキャップを手で左に回して開けます。キャップを右側に回し、確実に締め付けてから施錠します。

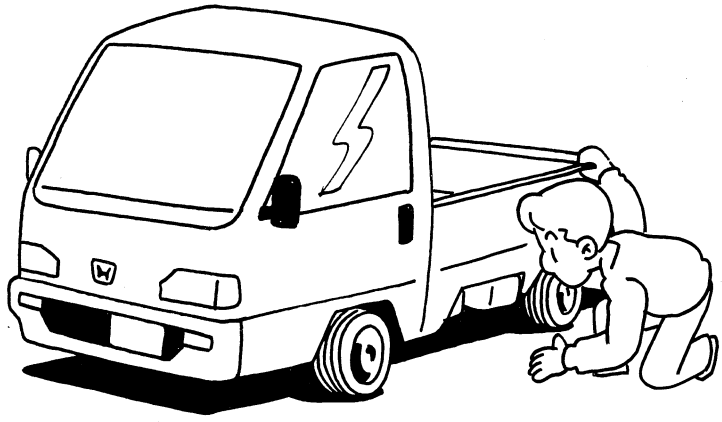
アドバイス

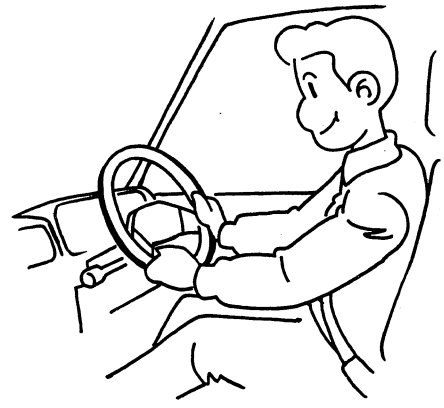
- 使用燃料は無鉛ガソリンです。
- タンク容量は37ℓです。

注意

- 燃料補給時は火気厳禁です。エンジンは必ず止めておいてください。

運行前点検





運行前点検は、自動車を使う人が、1日1回、運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。
この点検は車の下をのぞいたり、車のまわりを回ったり、また、運転席にすわって車の状態をみることによって容易に出来るものです。運行前点検を確実に行うためには一定の順序で行うことが効果的です。
点検作業は車を水平な場所に置いて行って下さい。
下に点検順序を示します。

アドバイス
●異常が認められた場合は、事故や故障を防ぐため、必ずホンダ販売店で点検を受けてください。

運行前点検の順序

❶前日の異状箇所の点検
※冷却装置の点検 →18ページ
※エンジンオイル量の点検 →19ページ
※発電機ベルトの点検 →19ページ

❷車の下をのぞいて
灯火装置、方向指示器の点検→20ページ
タイヤの点検 →20ページ
（※溝の深さの点検）
ブレーキ液量の点検 →21ページ

❸車のまわりを回りながら
反射器、ナンバープレートの点検 →20ページ

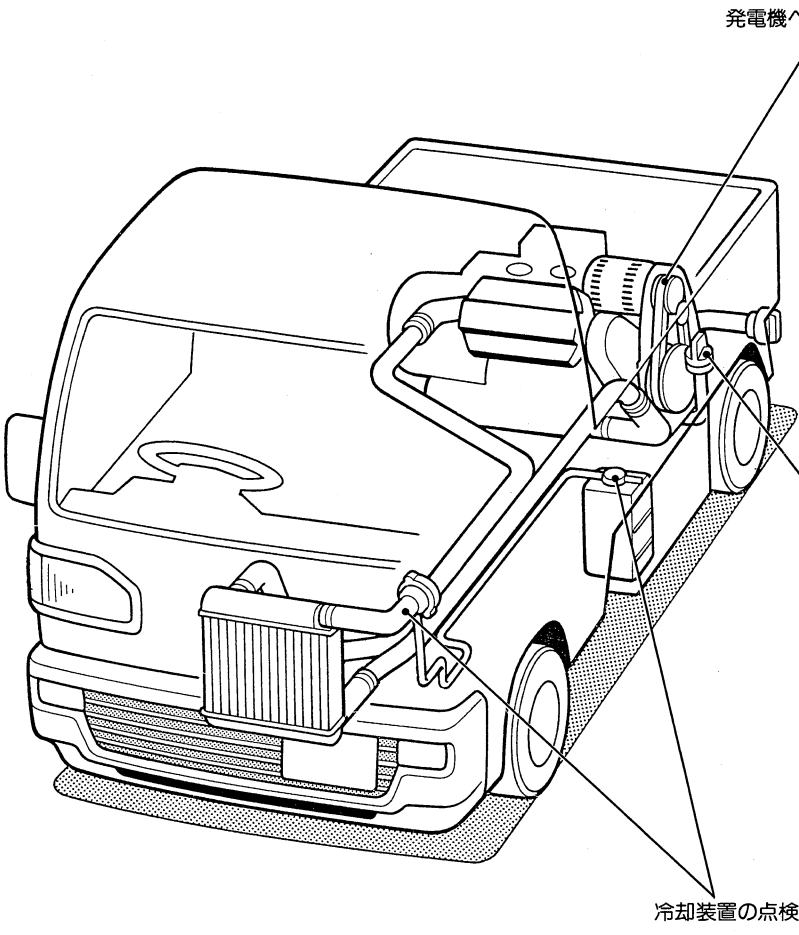
❹運転席にすわって
後写鏡の点検 →22ページ
駐車ブレーキの点検 →23ページ
ブレーキの点検 →23ページ
※燃料の量の点検 →23ページ

※印の点検項目は、80km／h以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、行わなくてもよい項目です。

車の心臓部は、念入りにチェック。

❶前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

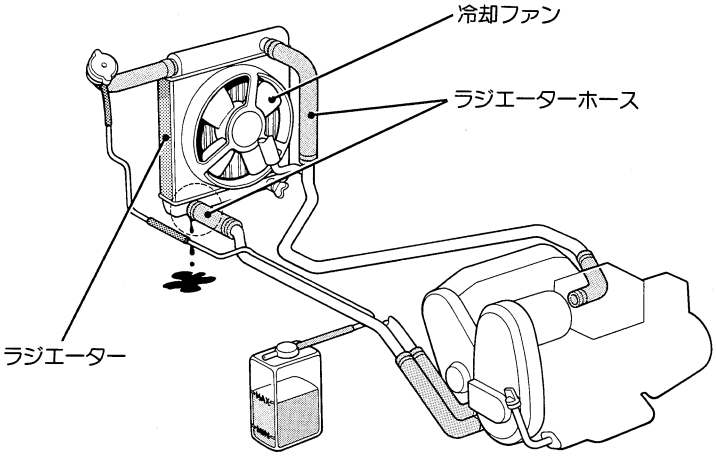


❷車の下をのぞいて

※冷却装置の点検

●水漏れ

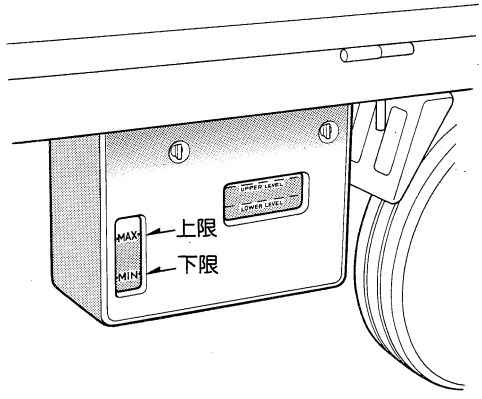
ラジエーター、ラジエーターホースなどから水漏れがないかを点検します。このとき、車を停めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。



●冷却水の量

リザーバータンク内の冷却水の量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。
液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

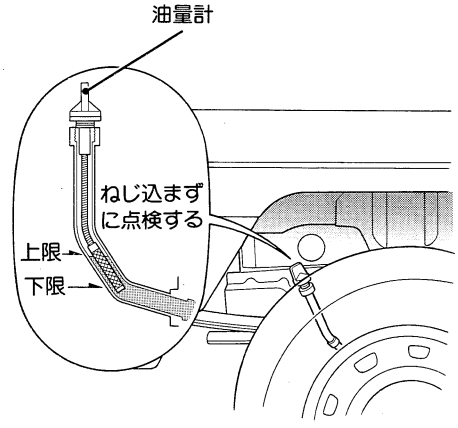
冷却水の補給 →81ページ



※エンジンオイル量の点検

エンジンオイルの量が、油量計(オイルレベルゲージ)の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。
点検は、油量計を取り外し、付着しているオイルをふいて、ねじ込まず差し込んで、そのまま引き抜きオイルの量をみます。
下限に近くなったら上限まで補給してください。

エンジンオイルの補給 →80ページ

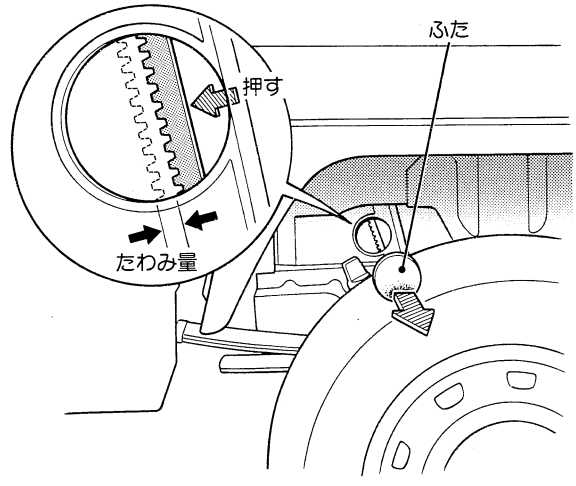


アドバイス

- 点検するときは、車を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
- オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

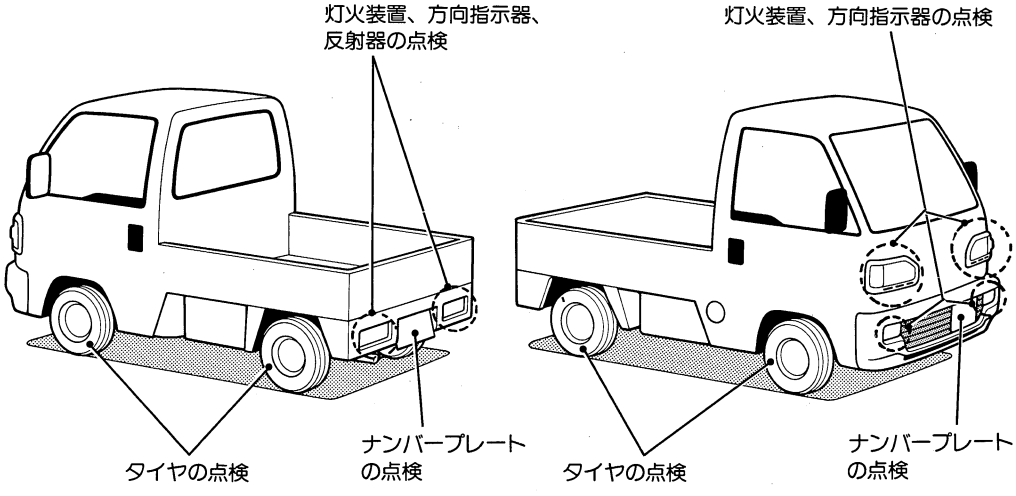
※発電機ベルトの点検

点検窓のふたを外し、発電機ベルトの中央部を強く押して(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷がないかも点検します。
たわみ量は9~11㎜が適正です。



車の外観、身だしなみ。

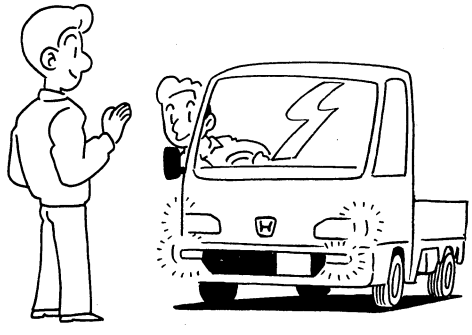
❸車のまわりを回りながら



反射器、ナンバープレートの点検

反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。

灯火装置、方向指示器の点検

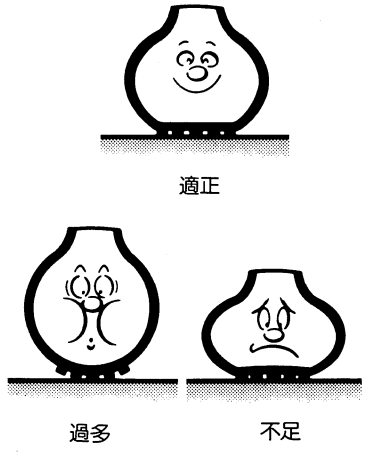


前照灯、車幅灯、尾灯、番号灯、後退灯、方向指示器などを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。このとき、レンズに汚れや損傷がないかも調べます。ブレーキペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点滅するかを点検します。点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。

タイヤの点検

●空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。



(単位kg/cm²)

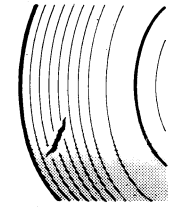
空気圧 / サイズ	一般及び高速走行時共			
	2名＋100kg以下		定積載	
	前輪	後輪	前輪	後輪
5.00-12-4PR ULT	1.8	2.0	2.0	2.4
145R12-6PR LT	1.8	2.0	2.0	2.4

アドバイス

●タイヤの空気圧やサイズは、運転席側ドア開口部に表示してあります。

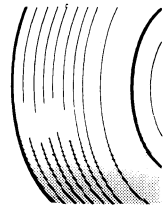
●亀裂、損傷

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



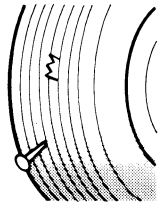
●異状な摩耗

タイヤの接地面に、極端にすり減っている箇所がないかを点検します。

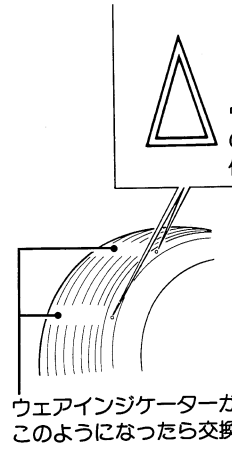


●異物のかみ込み

タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



※タイヤの溝の深さ



タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケーター(摩耗限度表示)により点検します。
ウェアインジケーターが表われたらタイヤを交換してください。

タイヤ交換 →66ページ

アドバイス

- ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1・6㎜だけ浅くなっています。
- 高速走行時(80㎞／h以上)の場合は安全のため溝の深さは2・4㎜以上を厳守してください。(165R12-6PR LTタイヤのみ)

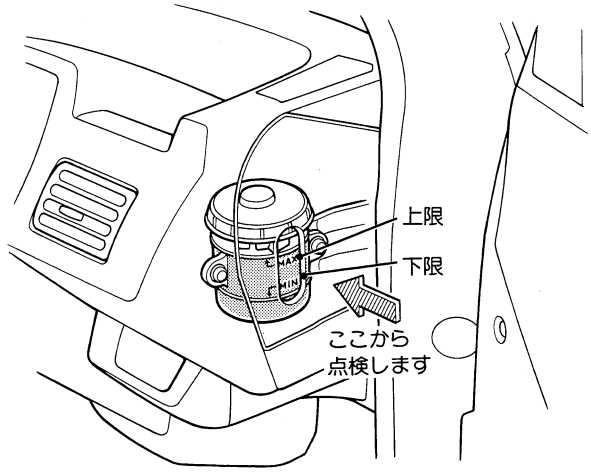
注意

- タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外のタイヤ空気圧は、タイヤの寿命や乗り心地、操縦性を損ないます。

ブレーキ液量の点検

リザーバータンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。
液面が下限より下がっていたらすぐに補給してください。

ブレーキ液の補給 →82ページ

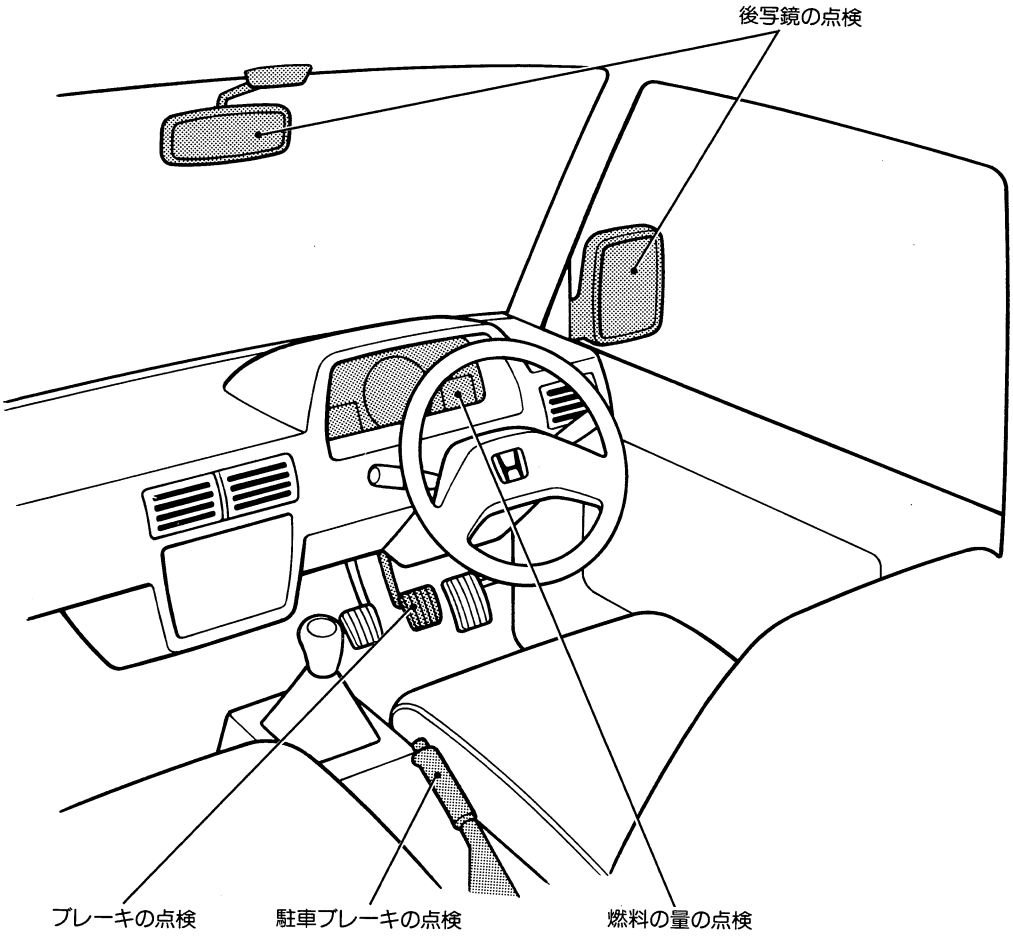


アドバイス

- 万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

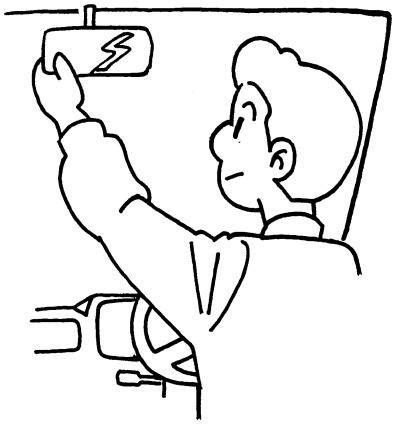
シートにすわって、ぐるっとチェック。

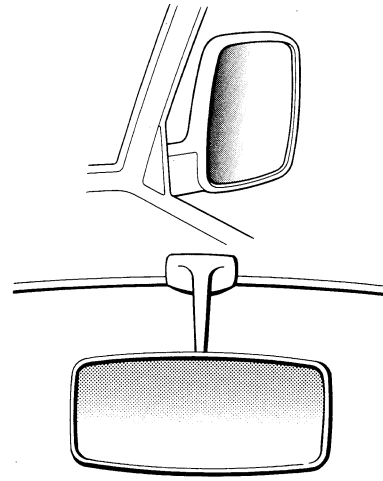
❹運転席にすわって



後写鏡の点検

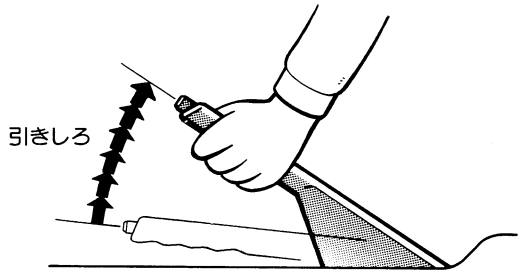
運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置に、後写鏡が調整されているかを点検します。





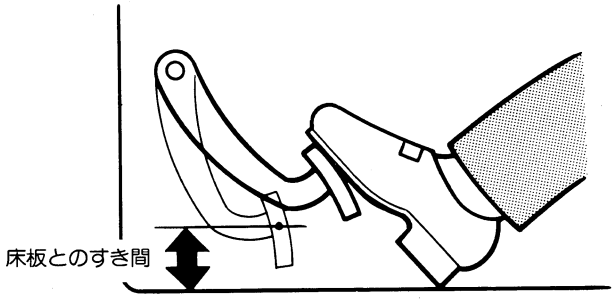
駐車ブレーキの点検

レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて（操作力20 kg）、8～12回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。



ブレーキの点検

エンジンを始動し、2～3回ペダルを踏み込んだのち、ペダルを力強く（踏力20 kg）5秒以上踏み続けて床板とのすき間を点検します。
床板とのすき間は101 mm以上が適正です。



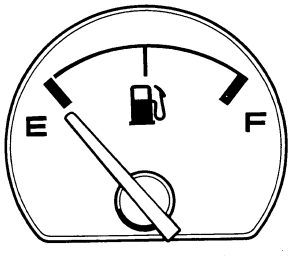
注意

- 踏み込んだとき、ふわふわする感じがする場合、または踏み続けたとき、ペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。
  このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきのおそれがあります。
  ブレーキの片ぎきは、ブレーキをかけたときにハンドルをとられて危険です。
  ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

※燃料の量の点検

燃料計により燃料の量が目的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

燃料補給について →16ページ



あなたに合わせて、シートを調節。

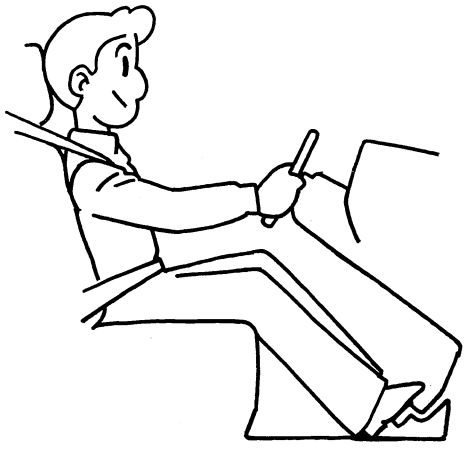
各部の操作

シート

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

●正しい運転姿勢

シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。

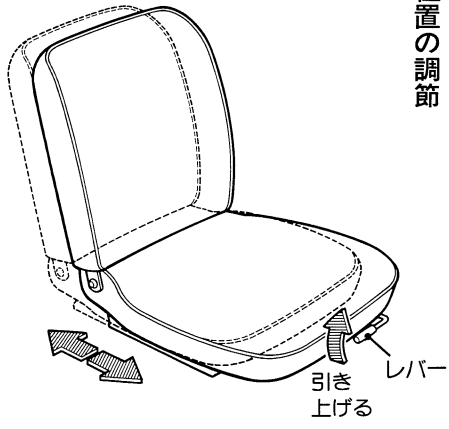


注意

- シートの調節は走行する前に行ってください。走行中はシートが急に動いて危険です。
- 調節後は固定されていることを必ず確認してください。

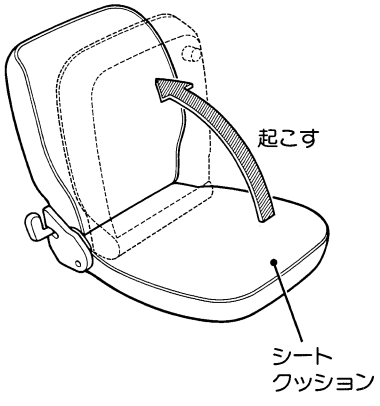
●位置の調節

レバーを引き上げながら、前後にシートを動かして調節します。

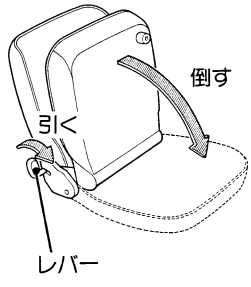


●はね上げシート

助手席シートクッションを直立するまで引き起こすと、固定されます。



シートクッションを元に戻すときは、レバーを引いて、シートクッションを前方へ倒します。



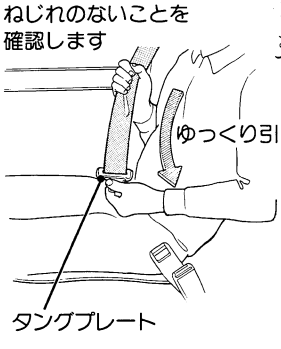
注意

- シートクッションをはね上げた状態で、人や荷物をのせたまま走行しないでください。ブレーキをかけたときに危険です。

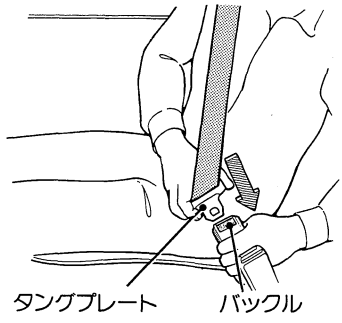
シートベルト

シートベルトは車を運転するまえ、運転者は必ず装着し、となりの同乗者にも必ず装着させてください。法律でも義務づけられています。

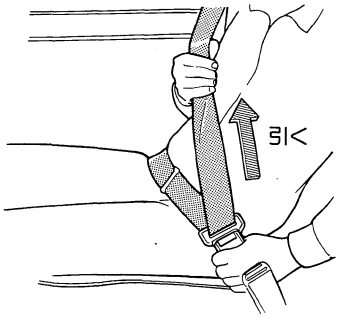
1. 正しい運転姿勢でシートにすわります。
2. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



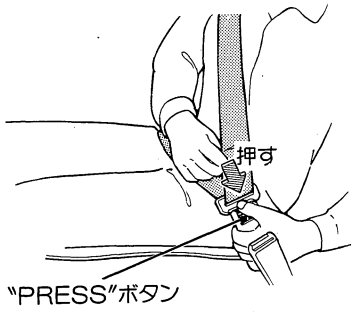
3. ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ〝カチリ〟と音がするまで差し込みます。



4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



6. 外すときはバックルの〝PRESS〟ボタンを押します。



ベルトが自動的に収納されますのでひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

注意

●シートベルトは、くび・あご・顔などに当たらないように着用してください。
小さなお子さまなどは、万一のとき危険ですので、装備されているシートベルトを直接使わないでください。
なお、ホンダ販売店では、生後10か月～4才位の小さなお子さま用として、ホンダ純正アクセサリーのチャイルドシートを取り扱っておりますので、ご使用をおすすめします。
＊右記チャイルドシートは、この車の助手席への後ろ向き取り付けには適しませんのでご注意ください。

注意

●ベルト締め付け力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨にぴったり着用してください。
●ベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使わないでください。本来の機能が発揮されず危険です。
●ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて危険です。
ねじれないように使ってください。
●シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。十分な機能をはたさなくなることがあります。
●ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。
ベルトを弱めます。
●ベルトを着用した状態で万一、事故に合った場合は機能を損なっている可能性があるためベルト一式を交換してください。
●妊娠中の女性や疾患のあるかたのベルトの着用は、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師にご相談ください。

2 車を運転するときに



メーターのはたらき
速度計……27
積算距離計……27
燃料計……27
区間距離計……27
水温計……27
エンジン回転計……27

表示灯、警告灯
方向指示器表示灯……28
前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯……28
充電警告灯……28
油圧警告灯……29
ブレーキ警告灯……29
排気温警告灯……29
差動制限装置(デフロック)作動表示灯……29
警告灯の電球切れの点検……29

スイッチの使いかた
エンジンスイッチ……30
ライトスイッチ……30
方向指示器スイッチ……31
ワイパー／ウォッシャー液噴射スイッチ……32
非常点滅表示灯スイッチ……33
荷台作業灯スイッチ……33

エンジンのかけかた、運転のしかた
駐車ブレーキ……34
エンジンのかけかた……34
変速レバー(チェンジレバー)の操作……36
差動制限装置(デフロック)……38
切り換えレバー(セレクトレバー)の操作……39
オートマチック車の運転のしかた……41

メーターのはたらき

❶速度計

走行速度をkm／hで示します。

速度警報装置 注文装備

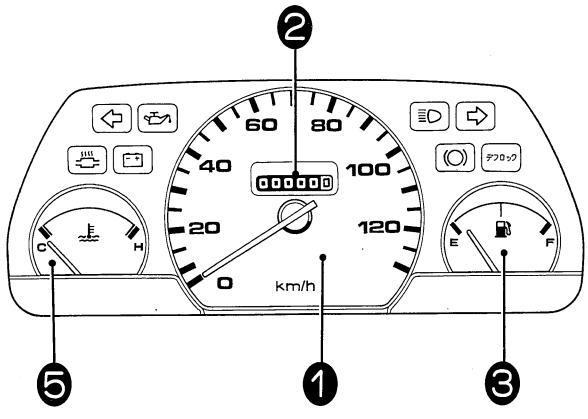
約80km／h以上になると警告音を発します。

❷積算距離計

走行した累計をkmで示します。

エンジン回転計非装備車の右端の数字は100mの単位です。

エンジン回転計非装備車



❸燃料計

エンジンスイッチの位置に関係なく常に燃料の残量を示します。

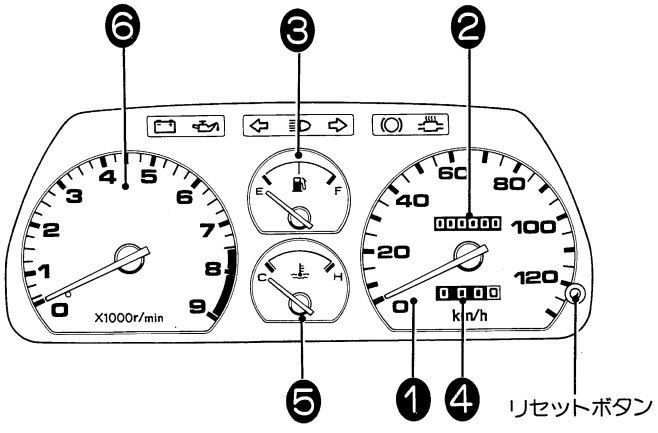
〝E〟に近づいたら早目に補給してください。

アドバイス

●燃料補給後、エンジンスイッチを〝ON〟にしてから正しい残量を示すまでしばらく時間がかかります。

燃料補給口について →16ページ

エンジン回転計装備車



❹区間距離計（トリップメーター）

TOWN

区間距離を知りたいとき、リセットボタンを押して〝0〟に戻し使用します。

❺水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

走行中は目盛の赤いマークより左側をさすのが正常です。

アドバイス

●万一、針が赤いマークに入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき →68ページ

❻エンジン回転計

TOWN

1分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス

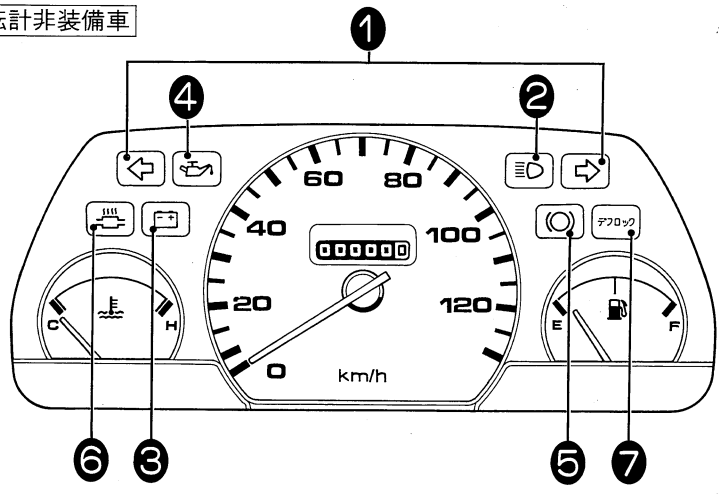
●限界回転数以上の赤色表示部（レッドゾーン）に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速（シフトダウン）するときには注意してください。

限界回転数…7500rpm

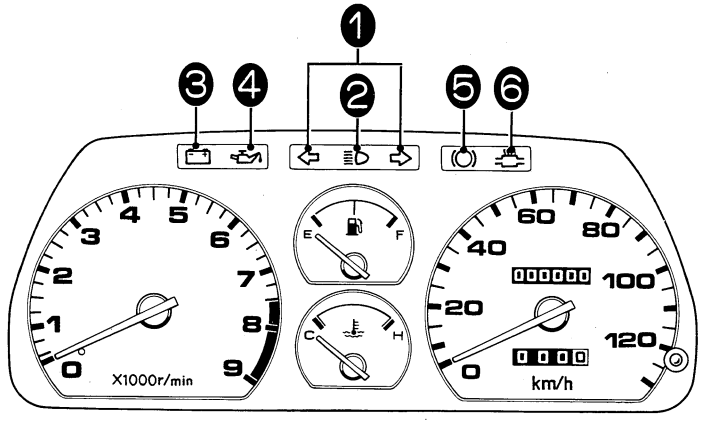
警告灯は異常のシグナル。

表示灯、警告灯

エンジン回転計非装備車



エンジン回転計装備車



❶方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

アドバイス

●電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅が異常になります。

電球の交換 →69ページ
電球のワット数 →96ページ

❷前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯

前照灯が上向きのときに点灯します。

❸充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

アドバイス

●万一、運転中に点灯したときはただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

発電機ベルトの点検 →19・79ページ

④油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

アドバイス

- エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダ販売店へご連絡ください。
  エンジンオイル量の点検 →19・78ページ
- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

⑤ブレーキ警告灯

駐車ブレーキがかかっているときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

アドバイス

- 万一、駐車ブレーキレバーを引いても点灯しないとき、戻しても消灯しないとき、走行中点灯したときは、ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。
  ブレーキ液量の点検 →21ページ

⑥排気温警告灯

触媒装置の温度が異常に高いときに点灯します。

アドバイス

- 充電警告灯が点灯すると排気温警告灯も同時に点灯します。この場合は触媒装置の異常を知らせているのではなく、充電系統の異常を知らせています。

走行中に点灯したときは、枯草などのもえやすいもののない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

アドバイス

- 走行中に一度点灯した警告灯は、触媒装置の温度が下がっても修理するまで消灯しません。最寄りのホンダ販売店に連絡してください。または触媒装置保護のため急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km／h以下の速度で、最寄りのホンダ販売店まで走行し点検を受けてください。
  触媒装置について →13ページ
- 警告灯が点灯したまま運転を続けると触媒装置を焼損することがあります。

⑦差動制限装置（デフロック）作動表示灯

デフロック　ATTACK

差動制限装置がデフロック状態に切り換わると点灯します。

差動制限装置（デフロック）について →38ページ

警告灯の電球切れの点検

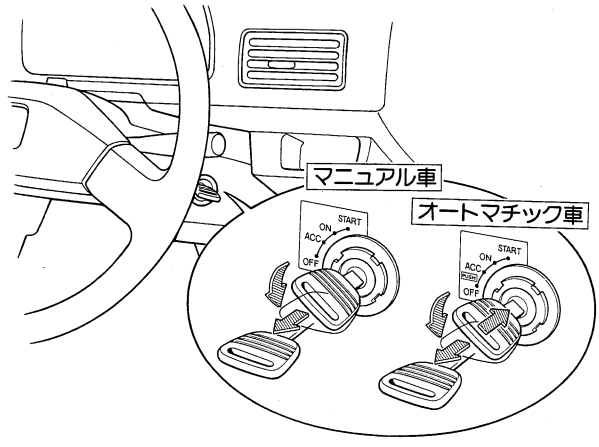
エンジンスイッチを〝ON〟位置にしたとき、左記の警告灯類が点灯するのが正常です。

- 充電警告灯（エンジン始動後消灯）
- 油圧警告灯（エンジン始動後消灯）
- ブレーキ警告灯
  （駐車ブレーキを解除すると消灯）
- 排気温警告灯（エンジン始動後消灯）

スイッチ操作も、運転の基本。

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ



キーの抜き差しをする位置です。オートマチック車は、〝ACC〟の位置でキーを押し込んで〝OFF〟位置まで回してキーを抜いてください。

アドバイス
●キーは確実に差し込んで操作してください。

〝ACC〟 エンジンをかけずにラジオを聞ける位置です。

〝ON〟 エンジンがかかっているときの位置です。

アドバイス
●エンジンを止めた状態で〝ON〟の位置のまま、長時間放置しないでください。バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。

〝START〟 エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に〝ON〟の位置に戻ります。

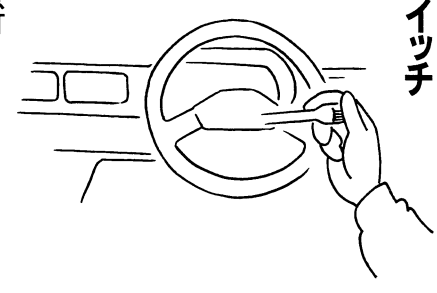
●キーインターロック

オートマチック車

キーを抜くときは、切り換えレバーをPに入れます。

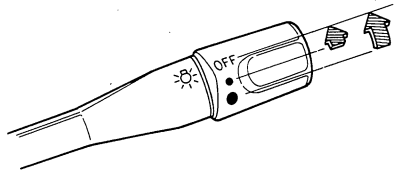
アドバイス
●切り換えレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが〝ACC〟の位置から〝OFF〟の位置まで回らないので、キーを抜くことができません。

ライトスイッチ



●ライトの点灯

エンジンスイッチの位置に関係なくつぎのように点灯します。



ライト名 / スイッチ位置	前照灯	車幅灯・尾灯・番号灯 計器類照明灯
OFF	——	——
●	——	点　灯
●	点　灯	点　灯

●ライトの消灯

ライトスイッチを〝OFF〟の位置にすると消灯します。

●前照灯の上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

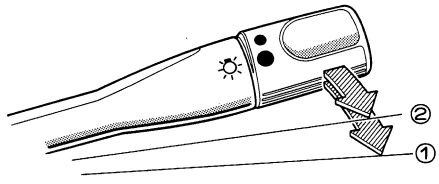
レバーを①の位置(〝カチリ〟と音がする)まで引くと上向き下向きの切り換えができます。遠くまで照らしたいとき上向きにします。表示灯(→28ページ)が点灯して上向きであることを知らせます。

アドバイス
●対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適切なときは下向きにします。

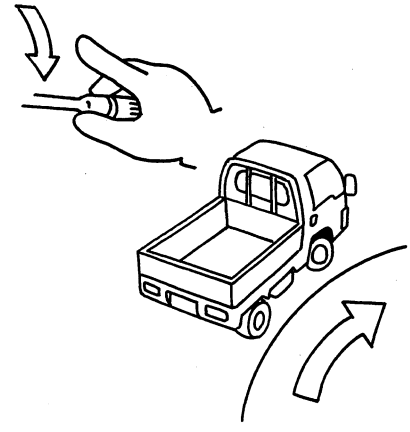
●追越合図

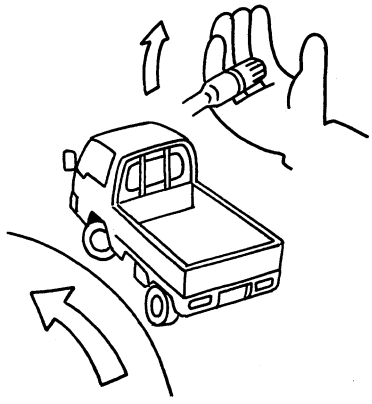
レバーを軽く②の位置まで引いたり離したりすると前照灯の上向きが点滅します。先行車に合図を送るときに使います。

アドバイス
●前照灯が上向き(ハイビーム)のときは作動しません。

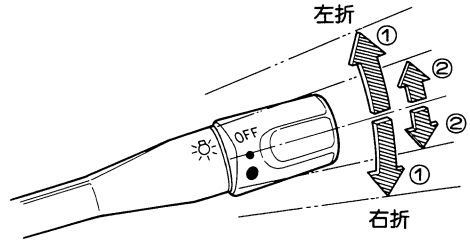


方向指示器スイッチ



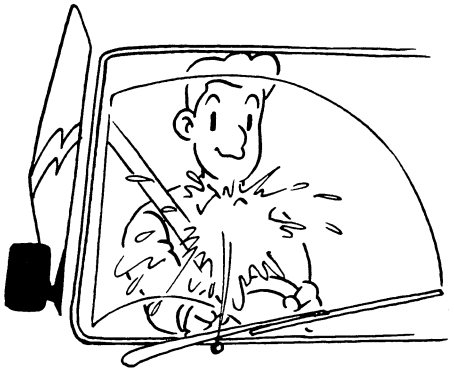


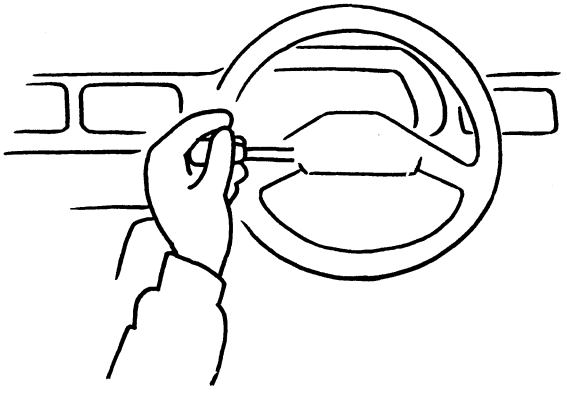
ふだんは①の位置で使います。この位置ではハンドルの切り角が小さいときには自動で戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。

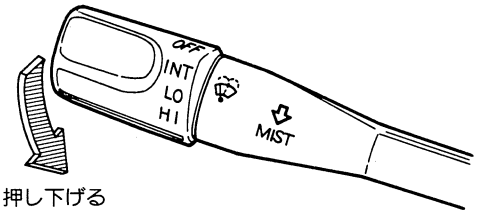


正しい操作で安全ドライブ。

ワイパー／ウォッシャー液噴射スイッチ



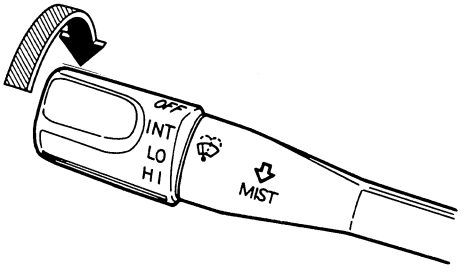




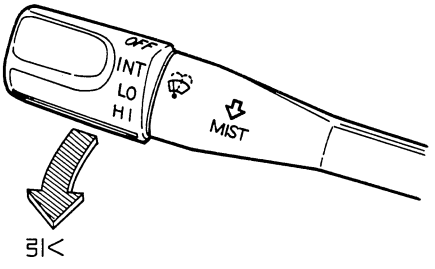
押し下げる

〝*MIST〟（ミスト）…レバーを押し下げている間、ＨＩ（高速）で作動します。

*ＭＩＳＴ（ミスト）とは英語で“もや、霧”という意味です。



〝ＯＦＦ〟……停止。
〝ＩＮＴ〟（間欠）……雨量の少ないとき。
タイプ別装備　約5秒ごとに作動します。
〝ＬＯ〟（低速）　……普通雨量のとき。
〝ＨＩ〟（高速）　……雨量の多いとき。



引く

前面ガラスが汚れて見にくいとき、レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

ウォッシャー液の補給　→ 82 ページ

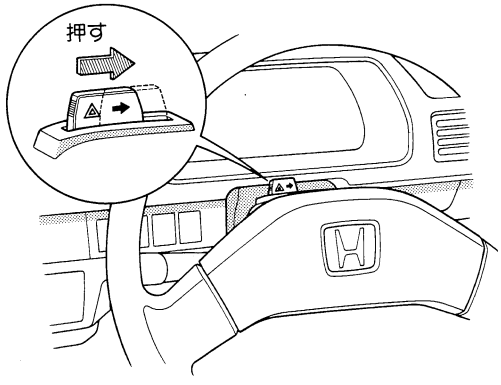
アドバイス

●ワイパーを止めるときは、エンジンスイッチが〝ON〟のままワイパースイッチを〝OFF〟にしてください。ワイパーを正しい位置で止めるためです。
●ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動かしてください。空ぶきはガラス面に傷をつけたり、ワイパーを傷めたりします。
●ウォッシャー液が出ないときは噴射スイッチを切ってください。ウォッシャー液が空のままで動かすとポンプの故障の原因となります。
●寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターで前面ガラスを暖めてください。→50ページ
凍りついたまま動かすとワイパーの故障の原因となります。

注意

●寒冷時、ウォッシャー液を噴射するときは先にヒーターを使って前面ガラスを暖めてください。吹きつけられた液が凍結し視界をさまたげるのを防ぐためです。→50ページ

非常点滅表示灯スイッチ



スイッチを右へ押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。故障でやむを得ず路上駐車するとき使います。

アドバイス

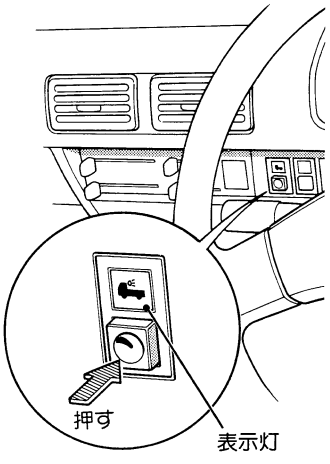
●非常時にのみお使いください。完全充電の新しいバッテリーでも約2時間以上使うとバッテリーの容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

注意

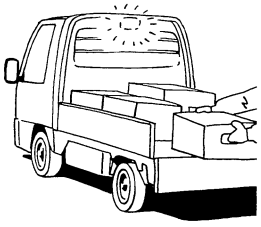
●非常点滅表示灯を使った後は確実にスイッチを戻してください。確実に戻さないと方向指示器がはたらきません。

荷台作業灯スイッチ

タイプ別装備



エンジンスイッチが〝ACC〟または〝ON〟位置のとき、スイッチを押すと同時に表示灯が点灯し、荷台作業灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。



アドバイス

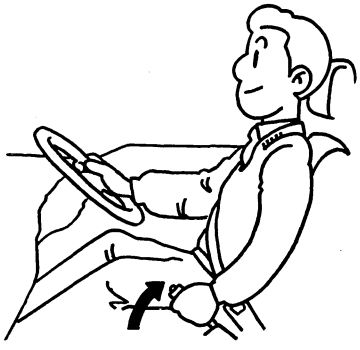
●走行中は、必ず消灯してください。
●長時間の使用はさけてください。新しいバッテリーでも約5時間以上使うとバッテリーの容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
また、容量の大きい電球は使用しないでください。

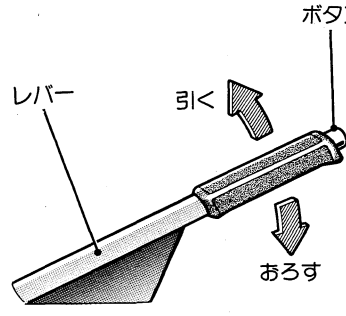
正しい操作で、エンジンスタート。

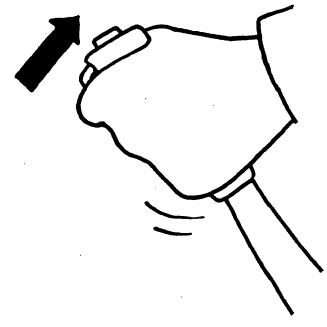
エンジンのかけかた 運転のしかた

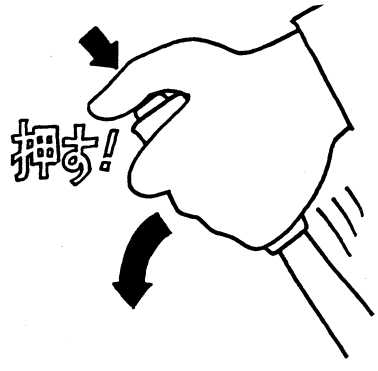
駐車ブレーキ

レバーをいっぱいに引けば後輪ブレーキがききます。戻すときはレバーを軽く引きあげながら、レバー先端のボタンを押し込み、そのまま下に完全におろします。









アドバイス

●駐車するとき、必ず駐車ブレーキをかけてください。

寒冷時の駐車ブレーキの取り扱い →94ページ

注意

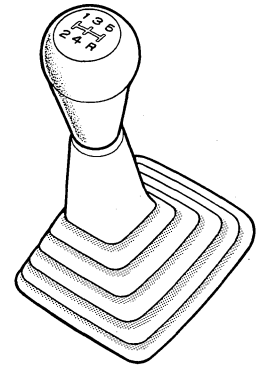
●ブレーキを完全にきかせるため、レバーを引くときはボタンを押さずに操作してください。

エンジンのかけかた

●エンジンをかけるまえに

〈マニュアル車〉

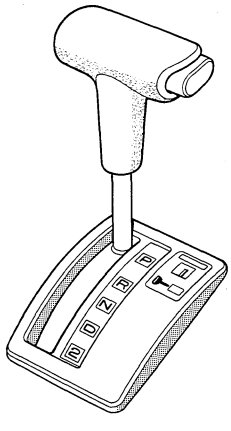
駐車ブレーキをかけ、変速レバーをⓃ(ニュートラル)にしてください。



変速レバーの操作 →36ページ

〈オートマチック車〉

駐車ブレーキをかけ、切り換えレバーがⓅの位置にあることを確認してください。



切り換えレバーの操作 →39ページ

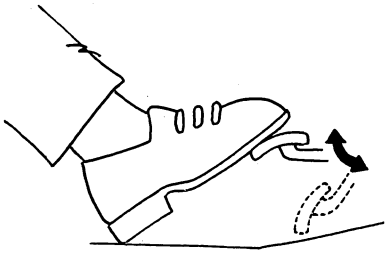
●かけかた

注意

- 換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒をおこす危険があります。
- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、必ずホンダ販売店で点検を受けてください。

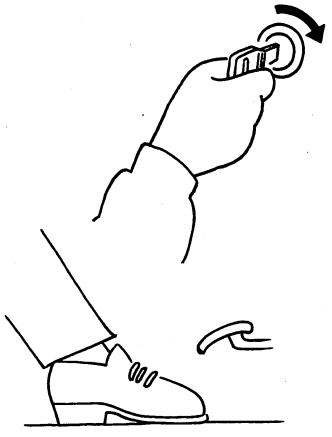
〈エンジンが冷えているとき〉

1. エンジンを始動するまえにアクセルペダルを左表にもとづいてゆっくりいっぱいに踏み込んで離す動作を繰り返します。



外気温度	踏む回数
暖かいとき(5℃以上)	1
寒いとき(5～－15℃)	2～3
特に寒いとき(－15℃以下)	3～4

2. アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



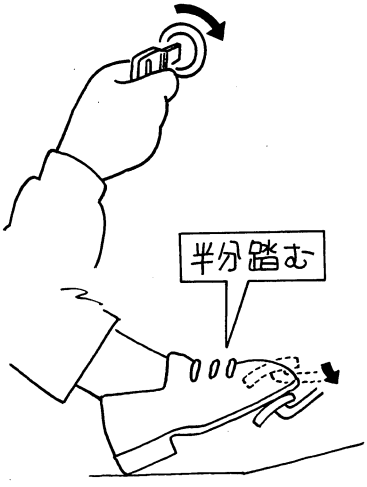
3. エンジン始動後はチョークの働きによりエンジン回転が高くなります。気温によりちがいますが数分間で暖機が完了し、エンジン回転が自動的にアイドリング近くまで下がります。

アドバイス

- 始動しなかったときは、もう一回だけアクセルペダルをいっぱいに踏み込んで離してから再始動してください。
  もしそれでも始動しないときは、アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。そのときアクセルペダルをパタパタさせないでください。点火プラグがぬれて始動がむずかしくなります。

〈エンジンが暖まっているとき〉

1. アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。そのときアクセルペダルを何度もパタパタさせないでください。



2. エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。

アドバイス

- ライトスイッチ、ファンスイッチは〝OFF〟にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを〝OFF〟の位置に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- 寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機が完了してから走行してください。

スピードに合わせてギヤチェンジ。

変速レバー(チェンジレバー)の操作

マニュアル車

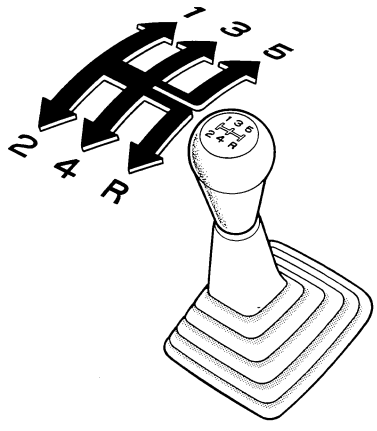
●変速レバー

変速するときはクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速レバーを確実に操作します。

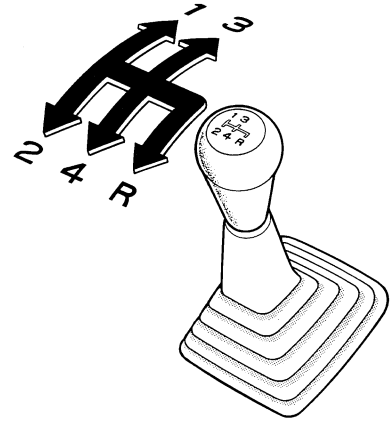
アドバイス

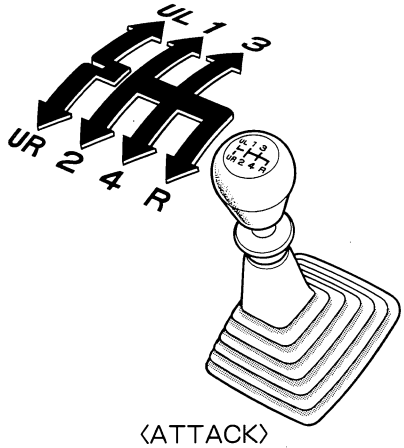
- ⑤から®(後退)へは直接、変速できません。一度Ⓝ(ニュートラル)へ戻してから変速してください。
- トランスミッションを傷めないために®には車が完全に停止してから変速してください。

5速車



4速車

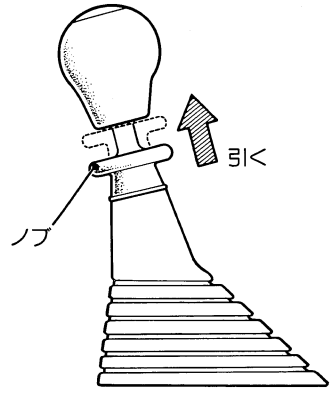




〈ATTACK〉

〈ATTACK〉

UL(超低速前進)、UR(超低速後退)への変速は、車が完全に停止した状態でノブを引きあげながら操作します。



アドバイス

- UL(ウルトラロー)、UR(ウルトラリバース)は、超低速走行を必要とするときにご使用ください。
- ULからURへは直接、変速できません。ノブを引きあげながら変速してください。

●速度範囲

平坦地における各変速位置での速度範囲は左の表を参考にしてください。

(単位km/h)

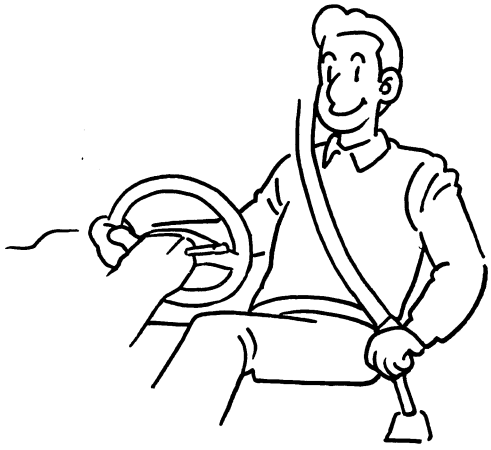
変速位置	速度範囲		
	4速車	4速車 (ATTACK)	5速車
UL		0～10	
1速	0～25	0～25	0～25
2速	10～45	10～45	10～45
3速	20～70	20～70	20～70
4速	30～	30～	30～
5速			40～

アドバイス

- 上の表は空車時の速度範囲です。積載するとエンジンに負担がかかるので、登坂時は早目に一段下のギヤにしてください。
- エンジンを過回転させないため、上限速度を守って走行してください。
- 1000km走行するまではエンジン保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

注意

- 法定速度を守って走行してください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。シフトダウンする際の車速には十分注意してください。



レバー操作は、運転の基本。

差動制限装置(デフロック)

ATTACK

積雪路、砂地、ぬかるみなどで車輪が空転して動けなくなったとき、動力を左右後輪に等しく伝達して脱出しやすくする装置です。

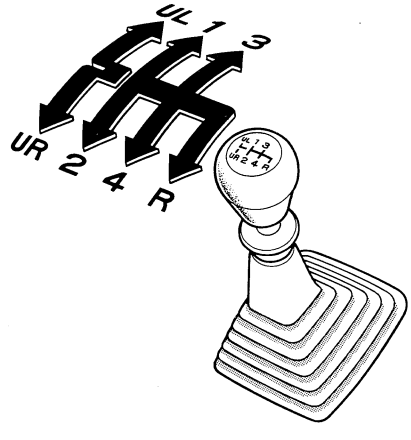
変速レバーがUL(ウルトラロー：超低速前進)またはUR(ウルトラリバース：超低速後退)の位置でのみデフロックがはたらきます。



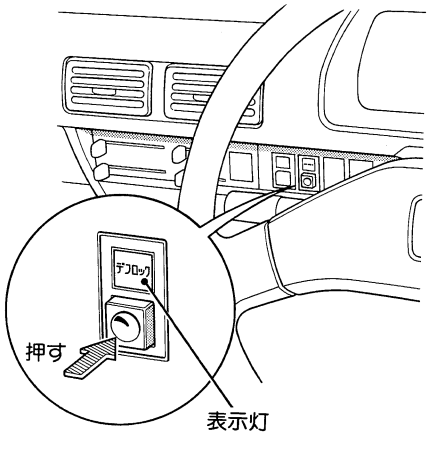
●デフロックの切り換え操作

1. 変速レバーをULまたはURの位置にします。

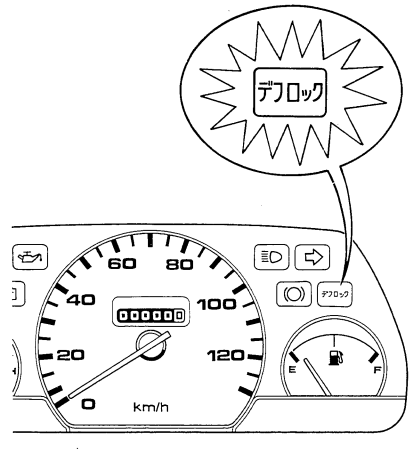
変速レバーの操作　→36ページ



2. デフロックスイッチを押して〝ON〟にします。〝ON〟のときスイッチ部の表示灯が点灯します。



3. デフロック状態に切り換わると、計器盤の表示灯(→29ページ)が点灯します。



4. デフロックスイッチをもう一度押すと、〝OFF〟になりスイッチ部の表示灯が消灯します。デフロックが解除すると、計器盤の表示灯が消灯します。

アドバイス

●デフロックスイッチを押しても切り換わらないときには、アクセルペダルを踏むなどして車輪を少し回転させてください。

アドバイス

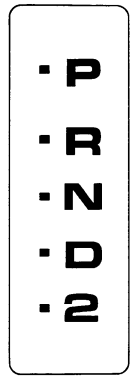
●トランスミッションを傷めないために、車輪が止まってから、デフロックスイッチを操作してください。

●変速レバーがULまたはURの位置以外のときは、デフロックスイッチを〝OFF〟にしておいてください。

切り換えレバー（セレクトレバー）の操作

オートマチック車

●それぞれの位置のはたらき



P **駐車**および**エンジンを始動**する位置。
キーを抜く位置。

アドバイス

●切り換えレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが〝ACC〟から〝OFF〟の位置まで回らないので、キーを抜くことができません。

R 車を**後退（バック）**させる位置。
チャイムが鳴り、切り換えレバーがRに入っていることを知らせます。

N ニュートラル**（動力が伝達されない状態）**およびエンジン始動できる位置。

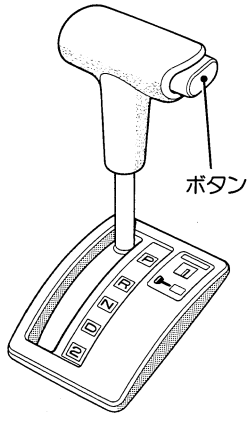
アドバイス

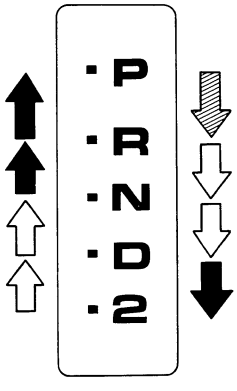
●Nの位置でも始動できますが、車輪を固定できるPの位置で行ってください。

D **通常の走行**をする位置。

2 強力な**エンジンブレーキ**が必要なときや、登坂時に2速固定で走行するときに使う位置。

●切り換えレバーの動かしかた





⇩ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを**押して**レバーを操作します。

⇧ボタンを**押さずに**レバーを操作します。

⬇ボタンを**押して**レバーを操作します。

つづく

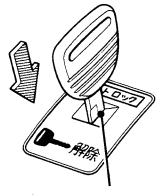
レバー操作は、運転の基本。

アドバイス

- 切り換えレバーの操作は各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- エンジンスイッチが〝ACC〟または〝OFF〟のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
- Pのときは、先にボタンを押したままブレーキペダルを踏んでも、ボタンが押し込めないので、レバーを操作できないことがあります。
- いつもボタンを押して操作すると、意に反してPR2にいれてしまうおそれがあります。⇧の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

注意

- 万一、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられないときは、エンジンスイッチからキーを抜き、シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。



シフトロック解除穴

●速度範囲

レンジ	速度範囲	変速範囲
D	0 km/h～	1⇄2⇄3速
2	0～70 km／h	2速

アドバイス

- 走行中、2への切り換えは、エンジンを過回転させないため2の速度範囲内で行ってください。
- 1000 km走行するまではエンジン保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

注意

- 法定速度を守って走行してください。

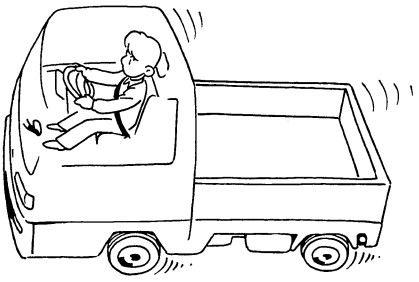


オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

●クリープ現象とは

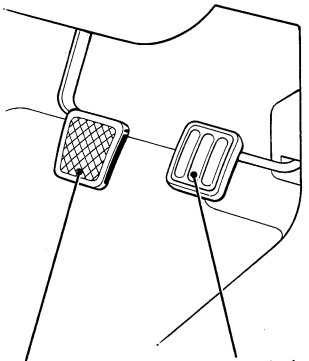
エンジンがかかっているとき、切り換えレバーがPまたはN以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジン回転数が高くなるアイドルアップ時には、クリープ現象が強くなります。



エンジン始動

P

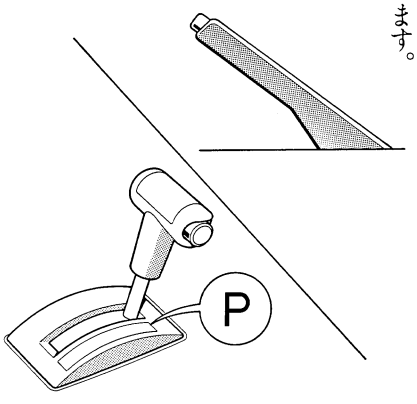
1. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



アドバイス

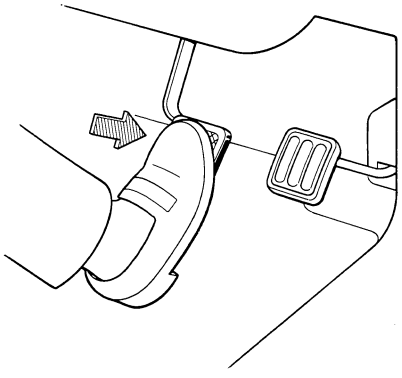
●アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えないため、それぞれのペダルを右足で踏み、位置を確認して足におぼえさせておくことが重要です。

2. 駐車ブレーキがかかっていることと切り換えレバーがPにあることを確認します。



3. 右足でブレーキペダルを踏んだまま始動してください。
ただし、始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

エンジンのかけかた →35ページ



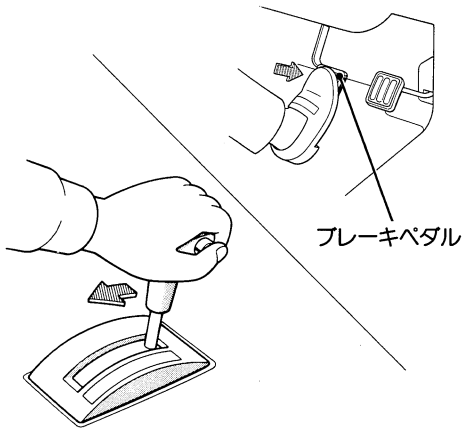
正しい操作で、発進そして走行。

発進

D 前進

R 後退

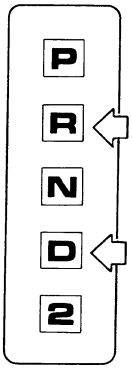
1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま切り換えレバーを前進はD、後退はRに入れます。



アドバイス

- ブレーキペダルを踏まないと、レバーをPから他の位置に切り換えられません。
- レバーがRに入っていると、チャイムが鳴ります。

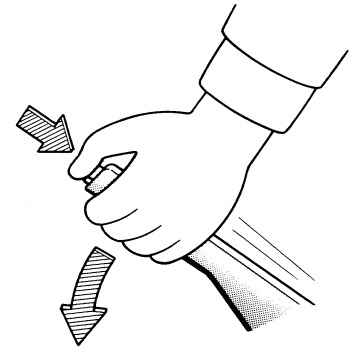
2. レバー位置を目視により確認します。



注意

- レバーの操作は、必ずブレーキペダルを踏んで車が動き出さないようにした状態で行ってください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジン回転数が高くなるアイドルアップ時には、クリープ現象が強くなり車が動こうとする力が強まるので、ブレーキペダルをしっかり踏んでいることが必要です。
発進する場合は、徐々にブレーキペダルを離してください。
- アクセルペダルを踏み込んだままレバーを操作しないでください。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

3. 駐車ブレーキを解除します。



4. ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくり踏んで発進します。

注意

- マニュアル車は発進時の速度を、クラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車は、アクセル操作のみで行うので、アクセル操作は慎重に行ってください。

急な坂道での発進

1. 車が動き出さないよう駐車ブレーキをかけたままブレーキペダルを離します。
2. アクセルペダルをゆっくり踏みながら、車が動くことを確認してから駐車ブレーキを解除して発進します。

走行

通常走行（発進から高速まで）

D

Dでは、アクセルペダルの踏み加減と速度により1速から2速、3速と自動的に変速されます。

山間走行（登坂、降坂）、エンジンブレーキが必要なとき

2

2では、2速に固定されます。

注意

- 走行中にNに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かないため、思わぬ事故の原因になります。また、Nにしても燃費の差はありません。

●キックダウンとは

走行中アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。これをキックダウンといいます。

加速したいとき　アクセル

Dでは、アクセルペダルを踏み込むと、踏み加減と速度により自動的に低速ギヤに変速され、加速します。

急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし急加速されます。
（速度が50km／h以上のときは、キックダウンしません。）

アドバイス

- 上り坂などで速度を維持するためにアクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、エンジン回転が上昇することがあります。

急な下り坂や長い下り坂では

2を使ってエンジンブレーキをかけます。

注意

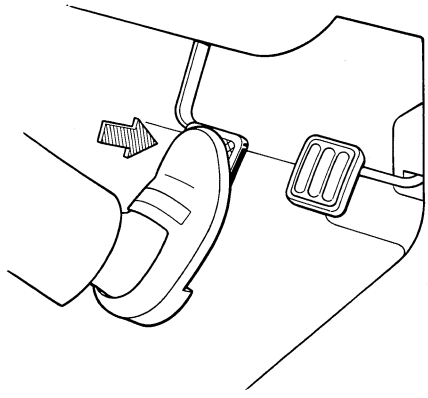
- 前進から後退、後退から前進するときは車を完全に停止させてから、ブレーキペダルを踏んだまま切り換えレバーを操作してください。
  車が完全に停止しないうちにレバーを操作すると、トランスミッションが破損します。
- 高速走行中に2に入れないでください。急激なエンジンブレーキがかかり、エンジンが過回転になり故障したり、車がスリップすることがあります。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

ブレーキペダルで確実に停止。

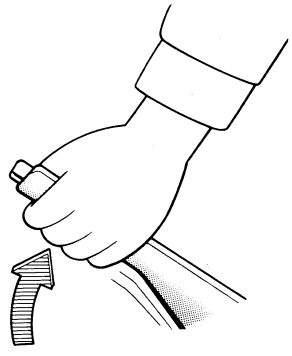
一時停止
（信号待ちなど）

D 2 または N

切り換えレバーは走行レンジのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。



停車時間が長くなりそうなときは、レバーをNにしてブレーキペダルを踏み続けます。さらに駐車ブレーキを併用すると確実です。

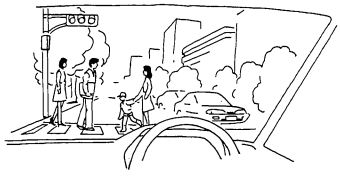


注意

- 切り換えレバーが走行レンジで、エアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなり、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出す性質（クリープ現象）が強まります。このような場合には、ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

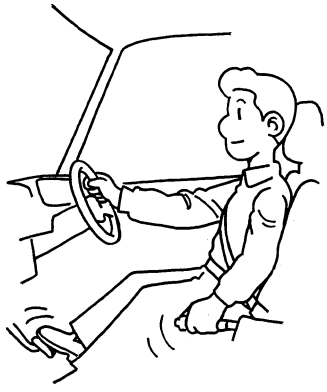
注意

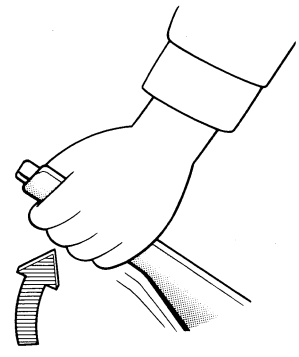
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でPまたはN以外に入れた状態で、アクセルペダルを踏みながら停止状態を保つことはやめてください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。
- 急な上り坂ではクリープ現象で車が前へ進もうとする力よりも後退しようとする力が大きくなるため、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏みさらに駐車ブレーキをかけて停止してください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
- 万一、切り換えレバーがPまたはN以外に入っていると思わぬ急発進の原因になります。
- 停車後、再発進するときは、思い違いのないように切り換えレバーが走行レンジにあることを確認してください。



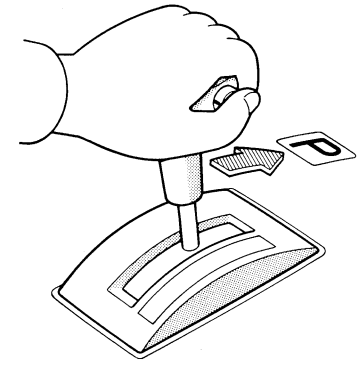
駐車 P

1. 車が完全に止まったらブレーキペダルを踏んだまま駐車ブレーキをかけます。





2. 切り換えレバーをPに入れます。



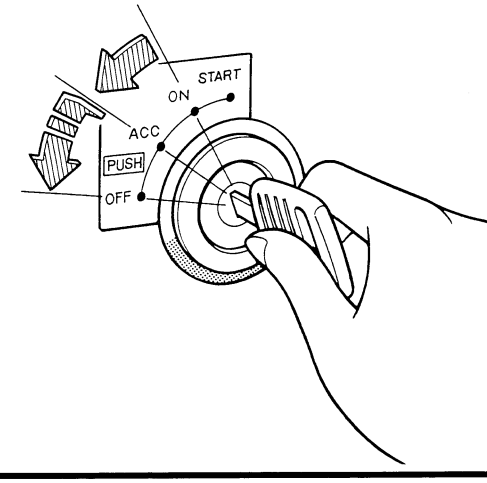
アドバイス

- 切り換えレバーがPのときは、後輪が固定されます。駐車の際は必ずレバーがPに入っていることを確認してください。

注意

- 車が完全に止まらないうちにPに入れると、急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッションが破損します。
- エンジンをかけたまま車から離れないでください。誤って切り換えレバーがP以外に入っていたりすると、車がひとりで動き出す危険があります。

車から離れるときは、必ずエンジンを止めます。



アドバイス

- 切り換えレバーがP以外のときは、キーが〝ACC〟の位置から〝OFF〟の位置に回らないので、キーを抜くことができません。

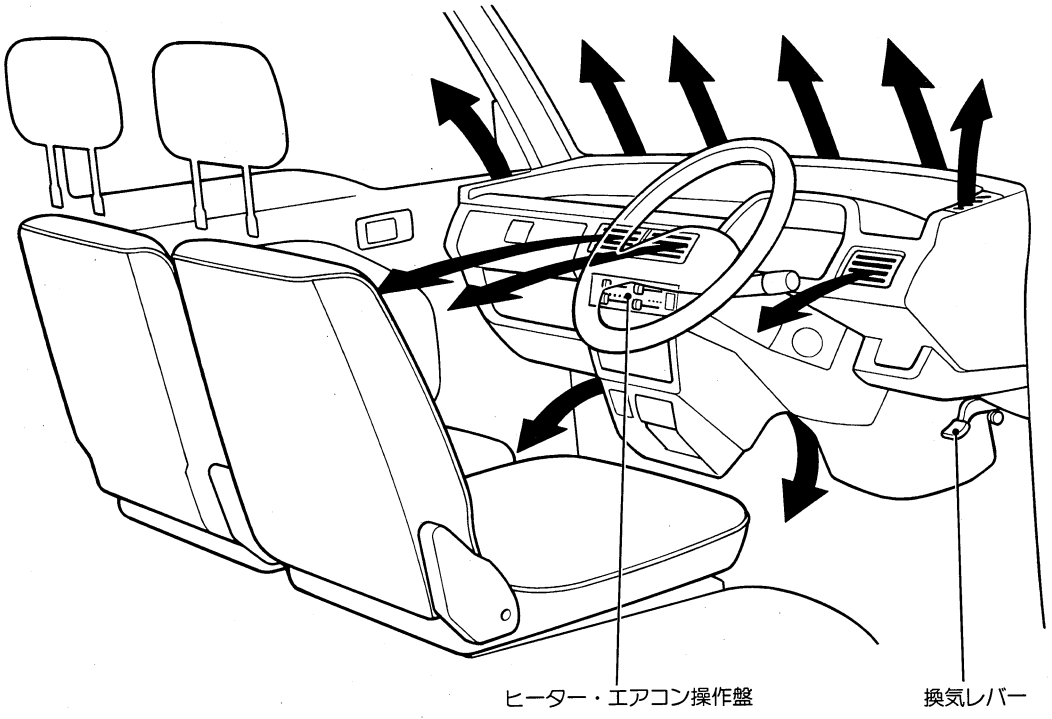
3 ドライブを快適にする装備



ヒーター・エアコン
各部の操作のしかた……47
ヒーター・エアコンの使いかた……49

室内装備品
アンテナ……52
ラジオ……52
AM／FM一体式時計付
カセットステレオ……53
室内灯……57
シガレットライター……57
灰皿……58
サンバイザー……58
小物入れ……58
小銭入れ（コインポケット）……59

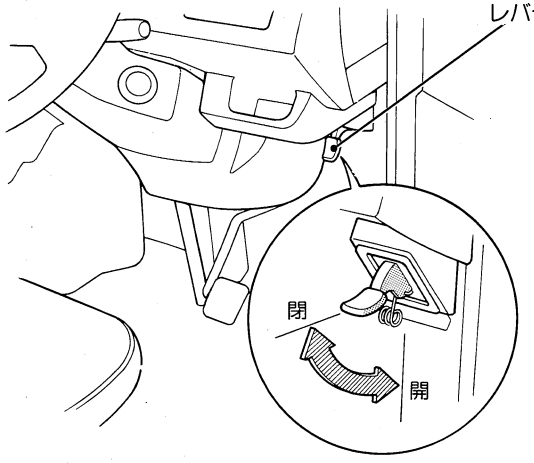
ヒーター・エアコン



各部の操作のしかた

●換気レバー

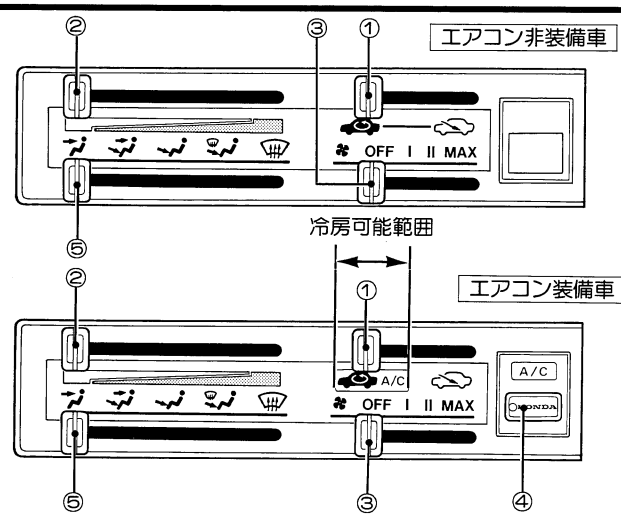
走行中にレバーを〝開〟にすると、外気が導入されます。



アドバイス

●冷房または暖房するときはレバーを〝閉〟にしてください。

正しい操作で快適空間。



①内外気切り換えレバー

〃〃で内気循環になり、〃〃で外気導入になります。

アドバイス

- トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときは一時的に内気循環にしてください。
- 通常の暖房時はガラスの曇りを防ぐため、外気導入で使ってください。
- エアコン装備車の場合、冷房や除湿暖房時は、冷房可能範囲内(水色の範囲)でお使いください。この範囲外では、エアコンが作動しません。

②温度調節レバー

レバーを左右に動かし、吹き出し風の温度を調節します。右に動かすと、吹き出し風の温度が高くなります。

③ファンスイッチ

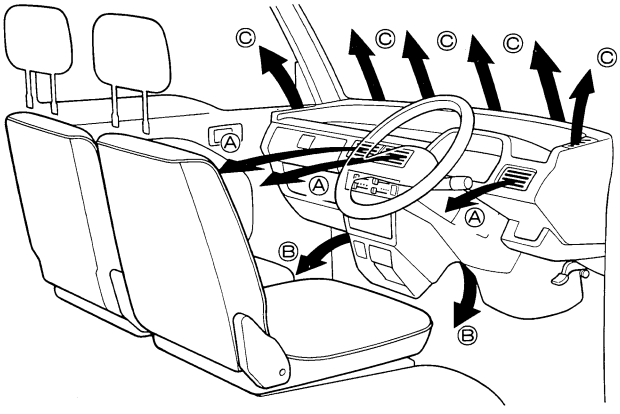
スイッチを左右に動かして、吹き出し風の量を調節します。

スイッチの位置	風量
OFF	停止
I	弱
II	中
MAX	強

④エアコンスイッチ

エアコン装備車

内外気切り換えレバーが冷房可能範囲内(水色の範囲)で、ファンスイッチがはたらいているとき(弱・中・強の位置)、エアコンスイッチを押すとスイッチが入り、表示灯が点灯します。もう一度押すと切れます。冷房や除湿暖房をするときに使います。



⑤吹き出し口切り換えレバー

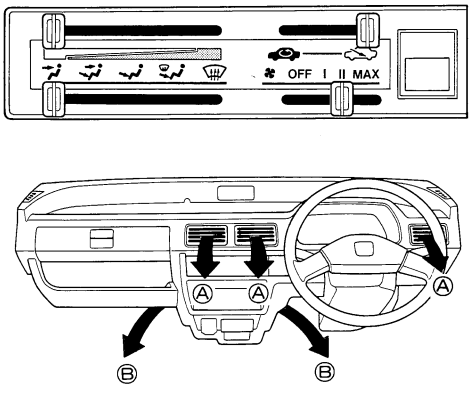
レバーを操作し、吹き出し口を調節します。

レバー位置	吹き出し口と風量比率
	Ⓐ Ⓑ Ⓒ

ヒーター・エアコンの使いかた

●換気

〈吹き出し口切り換えレバーによるとき〉

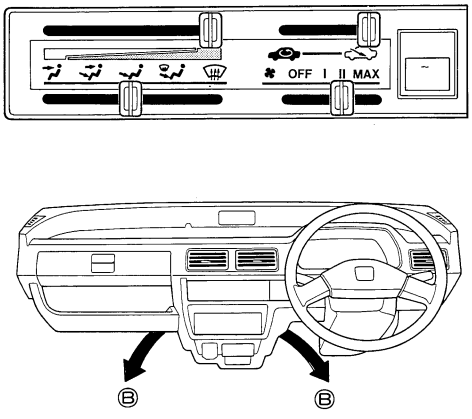


各レバーを図の位置にし、ファンスイッチを入れるとⒶから外気が吹き出します。吹き出し口切り換えレバーを〝〟の位置にするとⒷからも吹き出します。

〈換気レバーによるとき〉

走行中換気レバー(→47ページ)を〝開〟の位置に動かすと、外気を導入できます。

●暖房



各レバーを図の位置にし、ファンスイッチを入れると温風がⒷから吹き出します。

アドバイス

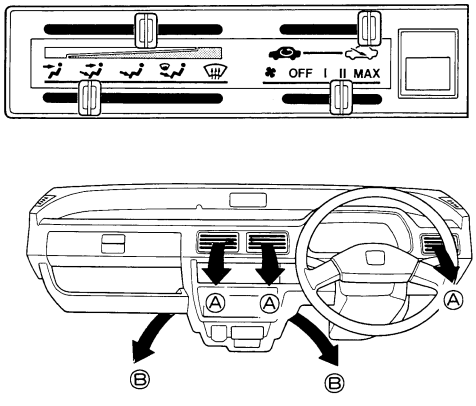
●温度調節レバー、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。

急速に車内を暖めたいときは内外気切り換えレバーを〝〟(内気循環)にし、温度調節レバーを右いっぱいにしてファンスイッチを〝MAX〟(強)にします。

注意

●内気循環で使い続けると窓ガラスが曇り、視界を妨げて危険です。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

●頭寒足熱暖房



各レバーを図の位置にします。ファンスイッチを入れるとⒷから温風が、Ⓐからは比較的温度の低い風が吹き出します。

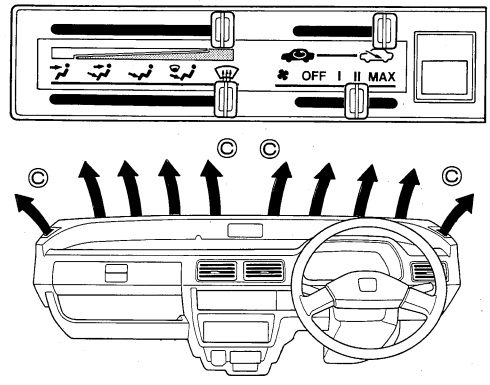
アドバイス

●温度調節レバーは図の中央位置付近に、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。

上下風量の比率は吹き出し口切り換えレバーを動かすことにより調節できます。〝〟の位置付近では、右にレバーを動かすと足元の風量が多くなります。

正しい操作で快適空間。

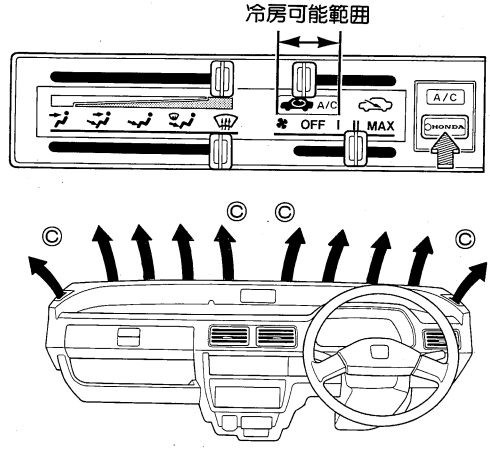
●前面／側面ガラス霜取り（デフロスター）、曇り取り



各レバーを図の位置にし、ファンスイッチを入れると©から温風が吹き出します。夏期の曇り止めには温度調節レバーを適度に調節します。

●除湿暖房、曇り止め

エアコン装備車



エアコン装備車は、各レバーを図の位置にし、エアコンスイッチ、ファンスイッチを入れると除湿された温風が©から吹き出します。

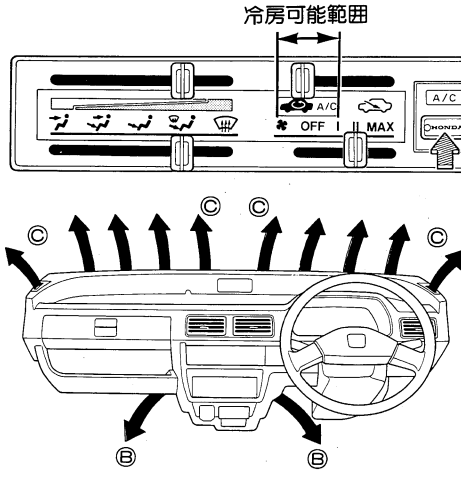
注意

- エアコンスイッチを入れているときには、温度調節レバーを左端（最大冷房）付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあります。

アドバイス

- 換気が必要なときは、内外気切り換えレバーを冷房可能範囲内（水色の範囲）で操作してください。

梅雨時など湿度の高いとき、除湿された温風が吹き出し、前面／側面ガラスの曇り止めに効果があります。



各レバーを図の位置にし、エアコンスイッチ、ファンスイッチを入れると除湿された温風がⒷ・©から吹き出します。

アドバイス

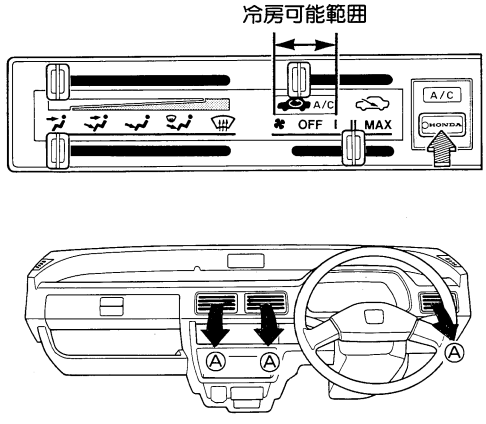
- 温度調節レバー、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。
- 換気が必要なときは、内外気切り換えレバーを冷房可能範囲内（水色の範囲）で操作してください。

春・秋などの雨天で曇りやすいときに使います。除湿され、乾燥した空気で暖めますので、曇り止めに役立ちます。

●冷房

エアコン装備車

各レバーを図の位置にし、エアコンスイッチ、ファンスイッチを入れると冷やされた空気がⒶから吹き出します。



アドバイス

- 温度調節レバー、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。
- 通常は内外気切り換えレバーは、〃（内気循環）位置でお使いください。
  換気が必要なときは、内外気切り換えレバーを冷房可能範囲内（水色の範囲）で操作してください。換気中は外気が導入されるので、冷房効果は下がります。

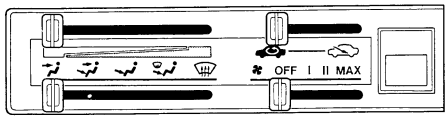


アドバイス

- 炎天下に駐車していたときは、熱気を追い出すため窓を開け、冷房を開始してください。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。

●使用しないとき

各レバーを図の位置にします。



●冷房を常用しない場合の手入れ

エアコン装備車

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房してください。

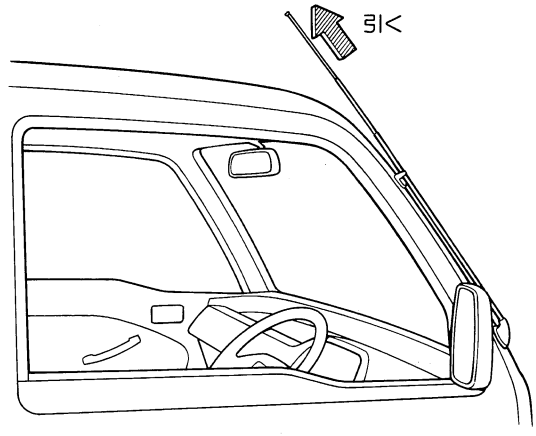
アドバイス

- 室内の温度が低いときは、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

室内装備品

アンテナ

タイプ別装備



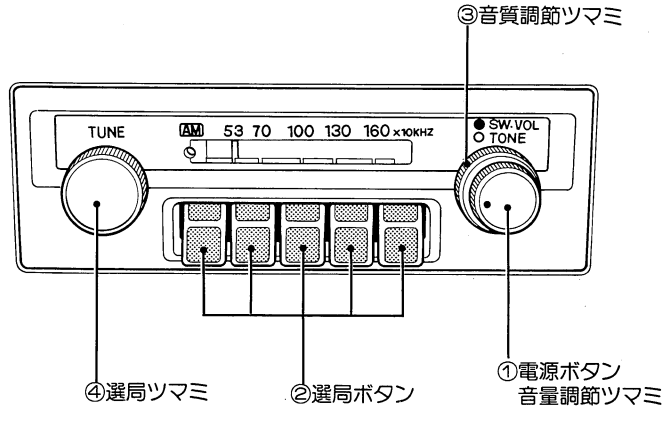
ラジオを聞くときはアンテナをいっぱいまで伸ばします。

アドバイス

●屋根の低い場所、洗車場などでは必ずアンテナを収納してください。アンテナを曲げたりすると伸縮性を損います。

ラジオ

タイプ別装備



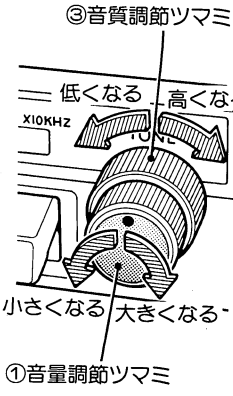
●電源

エンジンスイッチが〝ACC〟または、〝ON〟位置のとき、①のボタンを押せば電源が入り、もう一度押せば切れます。

●選局操作

②のボタンを押すと、あらかじめセットされた放送が受信できます。

●音量、音質調節



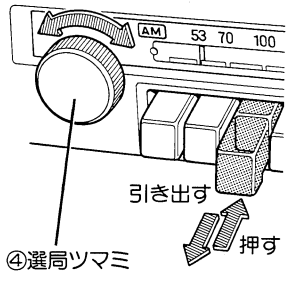
アドバイス

●運転中の音量は車外の音が聞こえる程度でお使いください。

●マニュアル選局

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局以外を聞く場合は、④のツマミを回すことにより受信できます。

●ワンタッチ選局の記憶操作

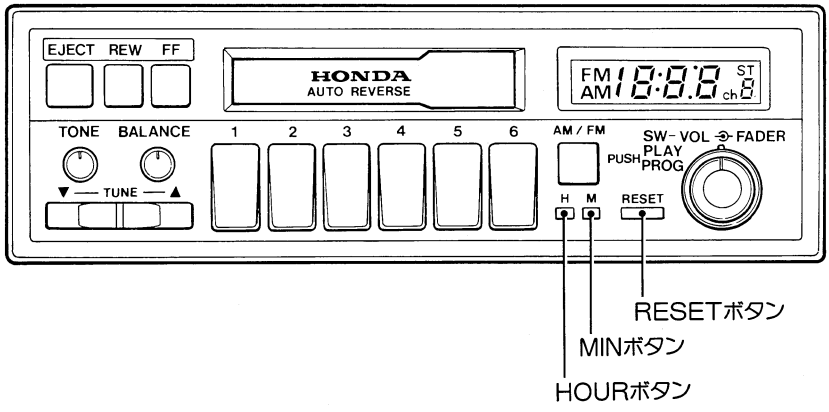


④のツマミで希望の放送局の周波数に合わせます。

②のボタンを引き出し押し込むことにより、希望の放送局がセットされます。同じ要領ですべてのボタンにセットできます。AM5局までセットできます。

AM/FM一体式時計付カセットステレオ

タイプ別装備



●時計

〈表示の合わせかた〉

「時」の調整

〝HOUR〟ボタンを押している間「時」の早送りができます。

「分」の調整

〝MIN〟ボタンを押している間、「分」の早送りができます。

「時報合わせ」

時報と同時に〝RESET〟ボタンを押すと時報に合わせることができます。

(例) 1：01～1：29の場合は1：00に
1：30～1：59の場合は2：00になります。

アドバイス

●「秒」表示はありませんが、〝RESET〟ボタンを押すと0秒から作動を始めます。
また、〝MIN〟ボタンを押すのを止めたときより、0秒から作動を始めます。

●バッテリーの取り外し、ヒューズ切れなどで電源が切れ、再び電源が接続されると〝I：00〟の表示で点滅します。
正しい時刻に合わせてください。

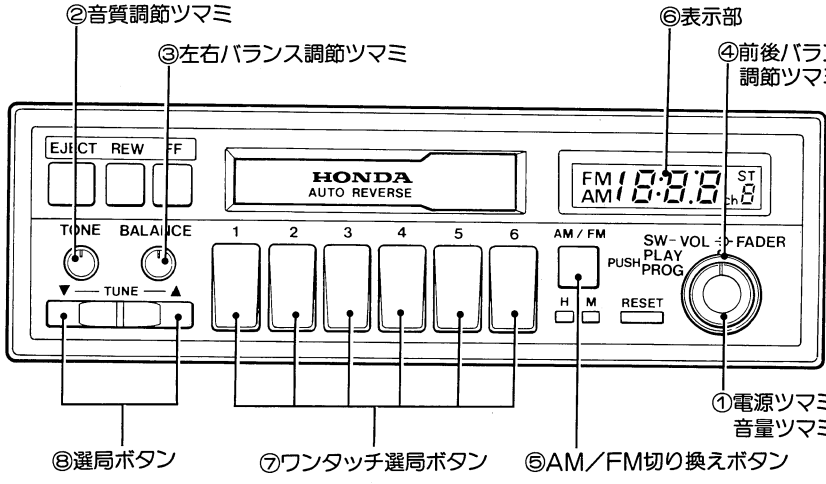
〈時刻表示が不要のとき〉

〝RESET〟ボタンを5秒間以上押しつづけることによって、左表のように時刻表示を消すことができます。

時刻表示時の状態	表示
ラジオを聞いているとき	時刻表示が消え受信周波数が表示されます。
テープ演奏中	時刻表示が消えます。
その他	時刻表示が消え〝－H－〟が表示されます。

再度表示させたいときは、〝RESET〟ボタンを5秒間以上押しつづけてください。
この場合、正しい時刻に合わせてください。

●ラジオの使いかた



〈電源〉
エンジンスイッチが〝ACC〟または〝ON〟位置のとき、①のツマミを右へ回すと電源が入ります。

〈音量調節〉
①のツマミで調節します。

アドバイス
●運転中の音量は車外の音が聞こえる程度でお使いください。

〈音質調節〉
②のツマミを左右に回して音質を調節します。
右に回せば、高音が強調され、左に回せば低音が強調されます。

〈バランス調節〉
③のツマミを左右に回すと、左右スピーカーの音量バランスが調節できます。

アドバイス
●④のツマミを左右に回すと、前後スピーカーの音量バランスが調節できますが、この車はフロント2スピーカー装備車ですので、ツマミは図の位置でお使いください。

〈AM／FMの切り換え〉
⑤のボタンを押すとAM／FMが交互に切り換わり、⑥の表示部にバンド表示灯が点灯します。

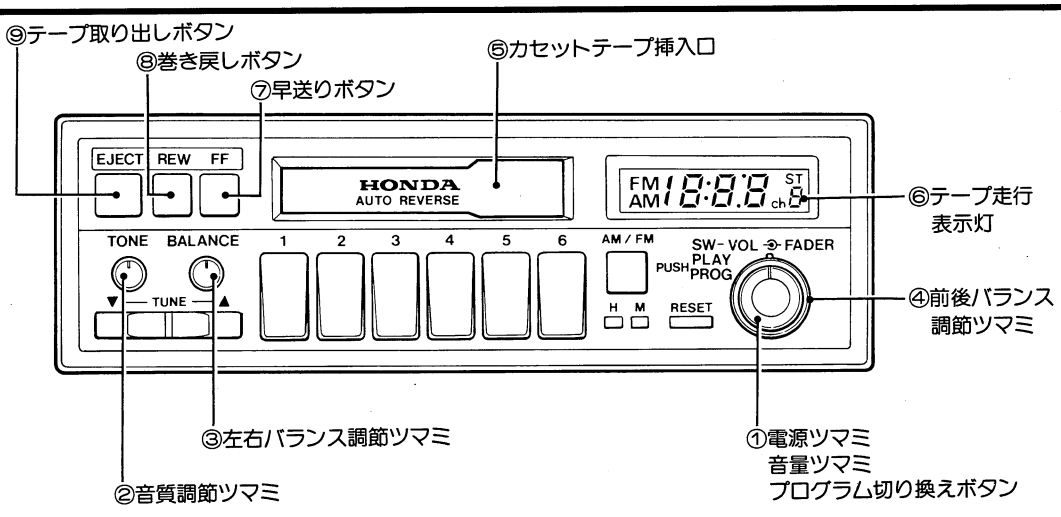
〈ワンタッチ選局操作〉
⑦のボタンを押すと、あらかじめセットされた放送局が受信できます。
FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、⑥の表示部に〝ST〟（FMステレオ表示灯）が点灯します。

〈選局ボタンの操作〉
放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局以外を聞く場合に操作します。
⑧のボタンを1秒以上押すと自動選局し、放送を受信すると止まります。右側のボタンを押すと周波数の高い方へ移動し、左側を押すと低い方へ移動します。
手動選局するときは⑧のボタンに軽く触れます。触れるたびに受信周波数が少しずつ変わり、選局できます。

〈ワンタッチ選局の記憶操作〉
⑧のボタンで選局します。選局したあと⑦のボタンを2秒以上押すと、⑥の表示部に〝ch〟が表示され、記憶できます。
同じ要領で全てのボタンに記憶できます。
AM、FMとも6局まで記憶できます。

アドバイス
●⑦・⑧のボタンを押すと、選局された周波数が数秒間表示された後自動的に時計表示となります。
●一度電源が切れた場合（バッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど）、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

●カセットプレーヤーの使いかた



〈電源〉

エンジンスイッチが〝ACC〟または〝ON〟位置のとき、①のツマミを右へ回し、カセットテープを⑤に差し込めば自動的にテープ演奏が開始されます。

〈音量調節〉

①のツマミで調節します。

アドバイス

●運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でお使いください。

〈音質調節〉

②のツマミを左右に回して音質を調節します。

右に回せば、高音が強調され、左に回せば、低音が強調されます。

〈バランス調節〉

③のツマミを左右に回すと、左右スピーカーの音量バランスが調節できます。

アドバイス

●④のツマミを左右に回すと、前後スピーカーの音量バランスが調節できますが、この車はフロント2スピーカー装備車ですので、ツマミは図の位置でお使いください。

〈テープ走行表示〉

演奏面により、⑥のテープ走行表示灯が左表のように表示されます。

演奏面	表示変化
テープ上面	
テープ下面	

早送り時には、表示変化が速くなり、巻き戻し時には、表の逆の表示変化になります。

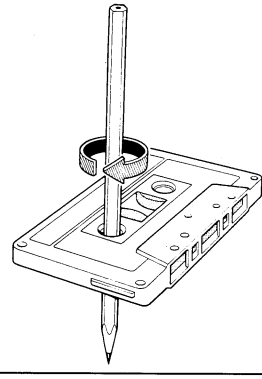
気くばり装備いろいろ。

〈早送り、巻き戻し〉
早送りは⑦のボタンを押し、巻き戻しは⑧のボタンを押します。
早送り、巻き戻しを止めるときは①のボタンを押します。

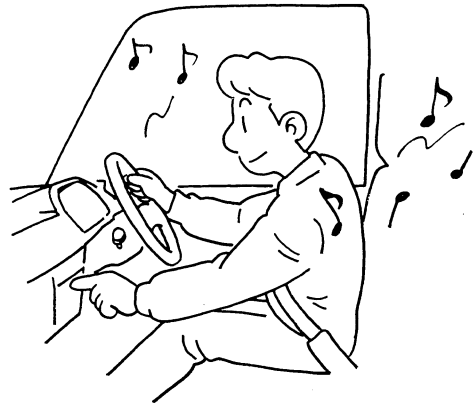
〈演奏の停止〉
⑨のボタンを押してカセットプテープを取り出します。テープ演奏が停止すると、ラジオ放送に切り換わります。
テープ演奏中にエンジンスイッチを〝OFF〟にすると、テープは差し込まれた状態で電源が切れますが、⑨のボタンを押すと取り出すことができます。

〈プログラムの切り換え〉
テープの片面の演奏が終わると、自動的にもう一面のテープ演奏を開始します。演奏の途中で切り換えたいときは、①のボタンを押してください。

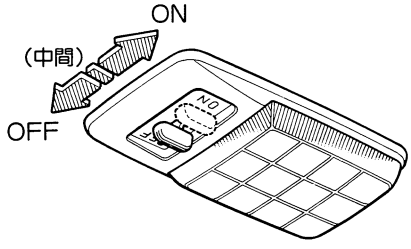
アドバイス



- CI-20テープは非常にうすいため、伸びたり、巻き付いたりして故障の原因となりますのでご使用は避けてください。
- カセットプレーヤーを使わないときは、カセットテープを取り出してください。
- カセットテープはケースに入れ、ほこりや直射日光を避けて保管してください。
- カセットテープは、鉛筆などでたるみを取ってから差し込んでください。
- 音が歪んだ場合は、市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。
- カセットテープを差し込んで演奏されずに押し出されてしまう場合は、カセットテープの変形やラベルのはがれが考えられます。無理な使用は故障の原因となりますので避けてください。



室内灯



〝ON〟
ドアの開閉に関係なく点灯します。

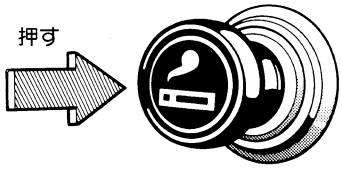
(中間)
運転席ドアを開いたときのみ点灯します。

〝OFF〟
ドアの開閉に関係なく消灯します。

シガレットライター

タイプ別装備

ライターを押し込んで手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。



ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。

注意

●シガレットライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
・ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
・ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
・ライターのさし込み口からは、ホンダ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

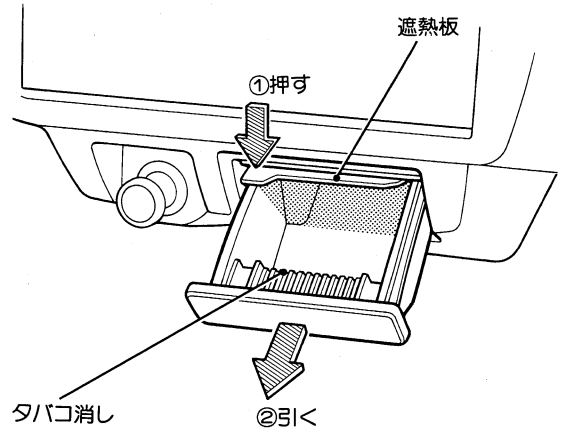
注意

●他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりするおそれがあります。
●ライターを押し込んでから30秒以上たっても戻らないときは、故障のおそれがありますので手で引き出し、ホンダ販売店で点検を受けてください。

気くばり装備いろいろ。

灰皿

清掃するときは遮熱板を下に押さえながら取り外します。

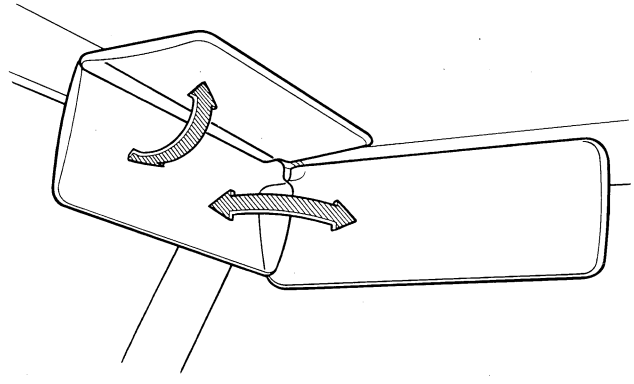


注意

●タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。タバコの火が燃え広がるおそれがあります。

サンバイザー

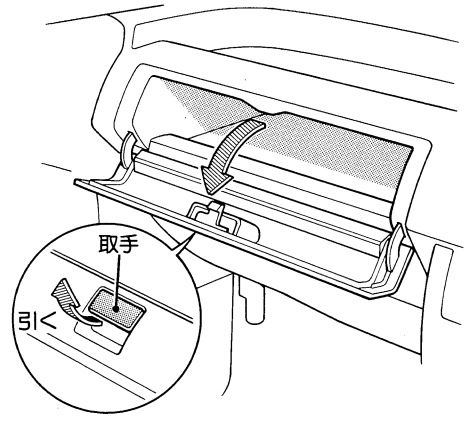
サンバイザーを横に移動するときは、一度前方におろしてから行います。



小物入れ

●グローブボックス

取手を引いて開けます。



注意

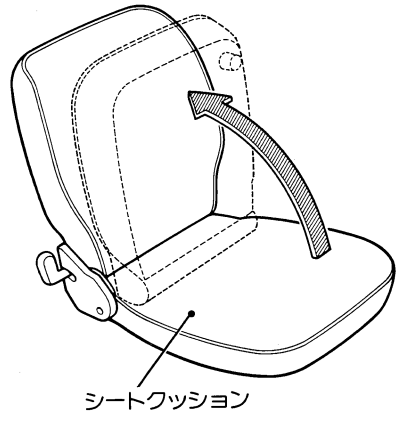
●走行中は、グローブボックスのふたを必ず閉めておいてください。万一のとき、グローブボックスのふたや内部の小物が思わぬ危険物となります。

●シートクッションポケット

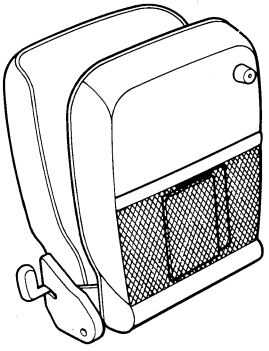
タイプ別装備

助手席シートクッションを起こします。

はね上げシート →24ページ



メモ帳などの薄物を入れておくのに便利です。



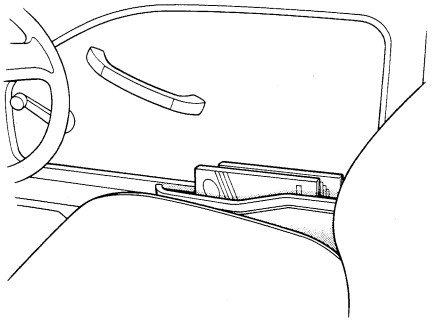
注意

●シートクッションを元に戻すときや戻した後で飛び出すおそれがある物は入れないでください。

●ドアポケット

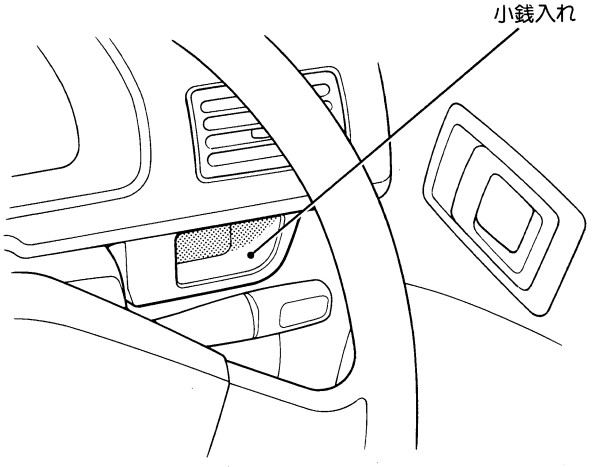
タイプ別装備

地図などを入れておくのに便利です。



小銭入れ(コインポケット)

小銭などを入れておくと、有料道路の料金所などで便利です。



4 万一のとき



工具
格納場所……61
工具……61

故障したとき
高速道路で故障したとき……62
踏切でエンストしたとき……62
発炎筒について……62
故障の修理について……63
けん引について……63

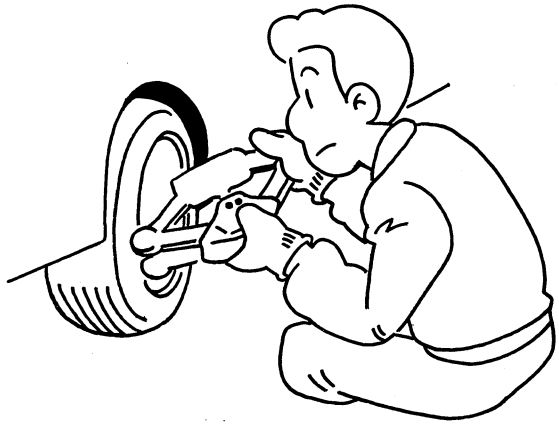
パンクしたとき
ジャッキの脱着……65
スペアタイヤの脱着……65
タイヤ交換……66

バッテリーあがりのとき……67

オーバーヒートしたとき……68

ライト類が点灯しないとき
ヒューズの交換……68
電球（バルブ）の交換……69

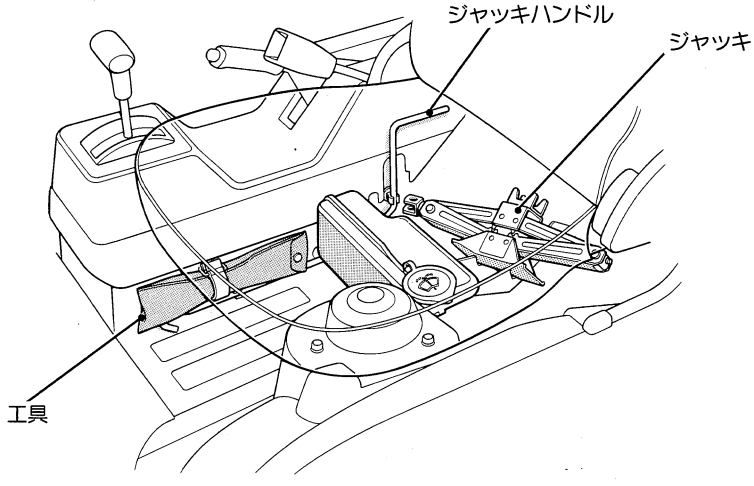
工具



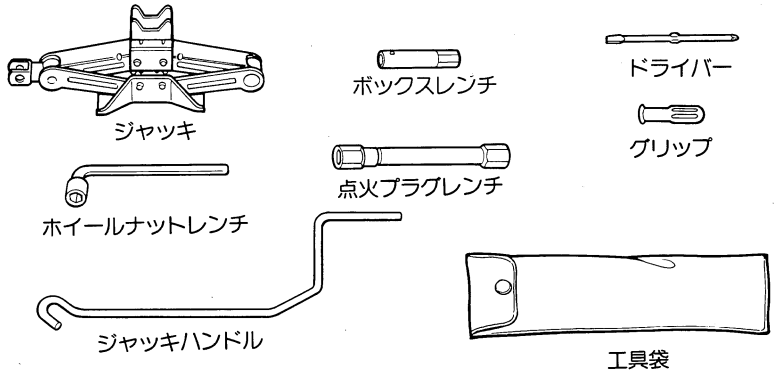
格納場所

助手席シートクッションを引き起こします。

はね上げシート →24ページ



工具



アドバイス

●スペアタイヤ、工具類は走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。

万一のときは、あわてず、すばやく。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を置いて表示してください。

踏切でエンストしたとき

1. 付近に人がいる場合は、押してもらってください。



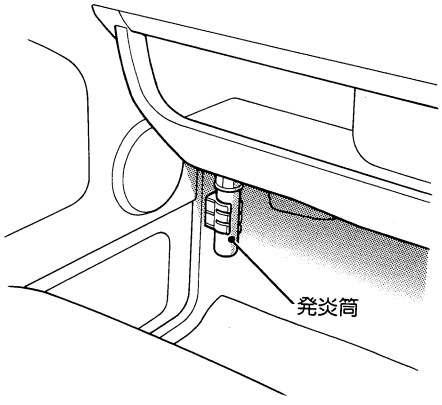
2. 急を迫られているときは、ただちに助手席足元に備え付けられている発炎筒で合図をしてください。

3. マニュアル車で急を要するときは、ギヤを2速に入れて、クラッチペダルを踏まずにスターターを回し、抜け出してください。

アドバイス
- オートマチック車は、スターターを回して車を動かすことはできません。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。



アドバイス
- 発炎筒を使うときは非常点滅表示灯も点滅させてください。
- 使いかたは、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。

注意
- お子さまにいじらせないでください。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けると火傷の危険があるので避けてください。
- ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使うと火災を招く危険があるので避けてください。
- トンネル内で使うと視界を悪くするので危険です。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。
- 発炎筒は有効期限があるので事前に確認しておいてください。

故障の修理について

ホンダ販売店へお申しつけください。
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもホンダ販売店へご連絡ください。
所在地、電話番号については別冊の「整備手帳」をご覧ください。



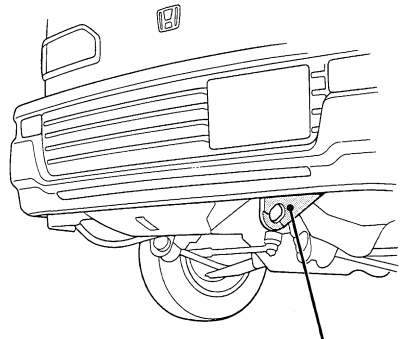
けん引について

●ロープ取り付け部

けん引したり、けん引されたりするときにはロープ取り付け部を利用します。

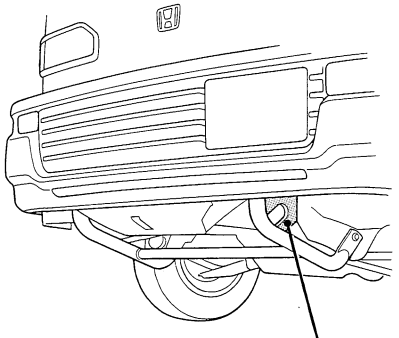
〈前部〉

2WD車



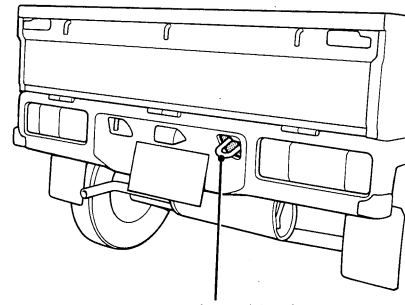
ロープ取り付け部

4WD車



ロープ取り付け部

〈後部〉



ロープ取り付け部

アドバイス

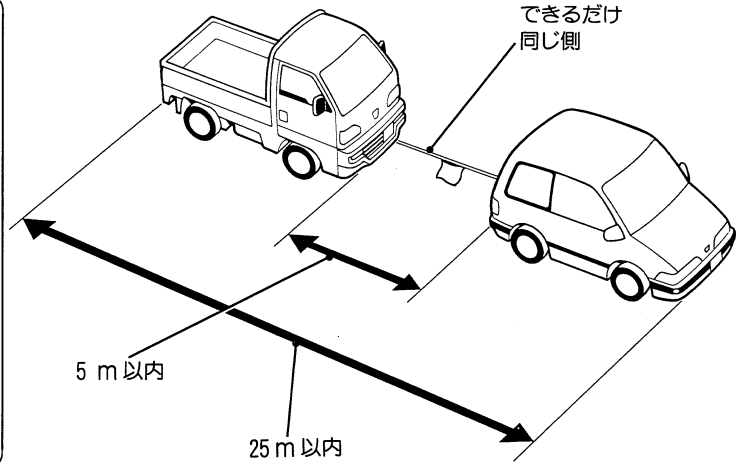
- 他の部分へロープなどをかけないでください。
- ロープ取り付け部はけん引にのみお使いください。
- けん引時はロープ取り付け部に大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

自分でできる応急処置。

●けん引されるとき

けん引されるときは、次の方法で行ってください。ただし、デフロック装備車の場合、必ずデフロックを解除しておいてください。

差動制限装置（デフロック） →38ページ



アドバイス

●けん引車の制動灯に注意して、ロープをたるませないようにしてください。また、ロープには白い布（0.3 m平方以上）を必ず付けてください。

3. 駐車ブレーキを解除し、けん引されます。

アドバイス

●速度は30 km／h以下でけん引してください。

〈オートマチック車〉

1. トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。

トランスミッションオイル量の点検 →83ページ

2. エンジンをかけ、切り換えレバーを一度Dにしてから Nにします。

エンジンのかけかた →35ページ

3. エンジンスイッチを〝ACC〟または〝ON〟の位置にします。
4. 駐車ブレーキを解除し、けん引されます。

アドバイス

●トランスミッションを破損させないため、必ず2の操作をしてください。
速度は30 km／h以下、走行距離は80 km以内でけん引してください。
エンジンがかからなかったり、切り換えレバーが動かない場合は、必ず四輪とも持ち上げてけん引してください。

〈マニュアル車〉

1. 変速レバーをN（ニュートラル）にします。
2. エンジンスイッチを〝ACC〟または〝ON〟の位置にします。

アドバイス

●二輪駆動への切り換えかたは、ガソリンタンク後方のボディ面にあるラベルに表示してあります。

四輪駆動車で前輪のみまたは後輪のみを持ち上げてけん引されるときは、必ず二輪駆動へ切り換えてください。

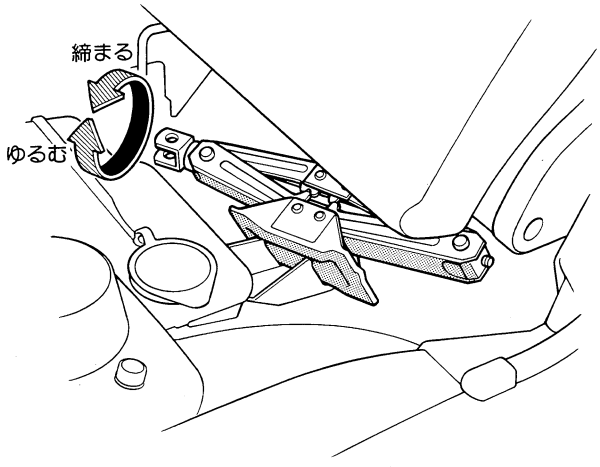
注意

●エンジンが停止しているとブレーキ倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
エンジンをかけないでけん引される場合は、十分注意してください。
●長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。
●四輪駆動車の場合、動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪とも持ち上げてけん引してください。

パンクしたとき

ジャッキの脱着

助手席シートクッションを直立するまで引き起こし(→24ページ)、ジャッキをゆるめて外します。



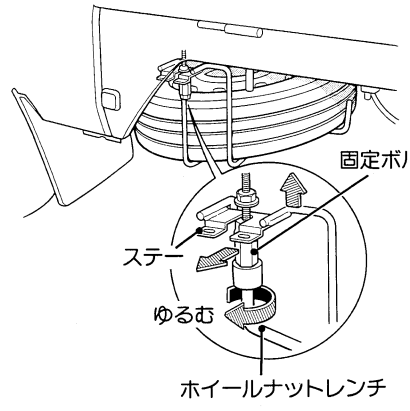
アドバイス

●ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。

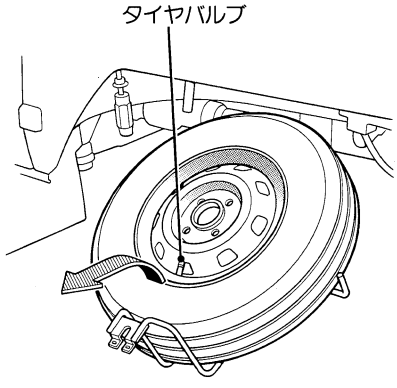
スペアタイヤの脱着

●取り外し

固定ボルトをホイールナットレンチでゆるめてから、ステーを持ち上げ、固定ボルトを溝から外します。



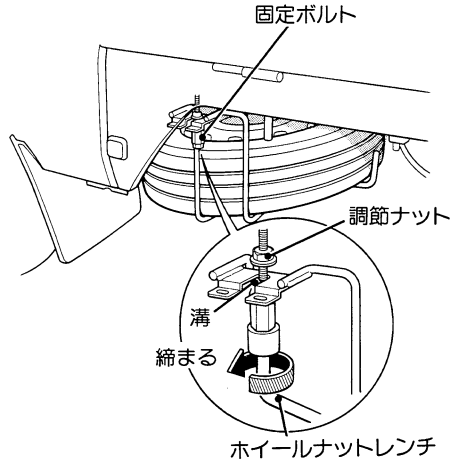
スペアタイヤを取り出します。



●取り付け

タイヤバルブ部を上に向けて取り付けます。

固定ボルトを溝の奥まで入れ、固定ボルトをホイールナットレンチで締め付けます。



アドバイス

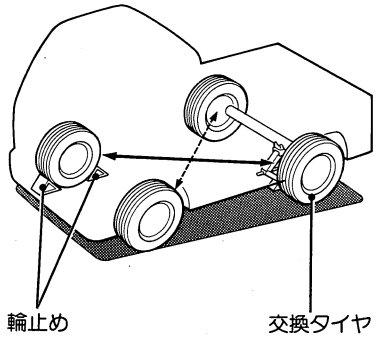
●ゆるみ、ガタがある場合は、取り付け部の変形などを確認し、異常がなければ、調節ナットを回して上にあげ、更にボルトを締め付けます。

注意

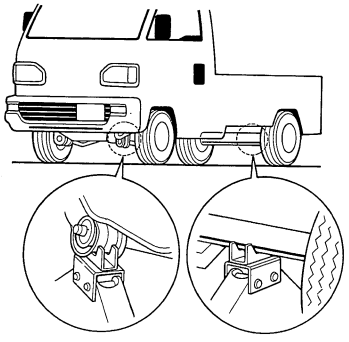
●スペアタイヤが万一ゆるみ等により、取り付けが不安定な状態になっていると、走行中の脱落により思わぬ事故となり危険です。
取り付け後は、取り付け状態を十分に確認してください。

タイヤ交換

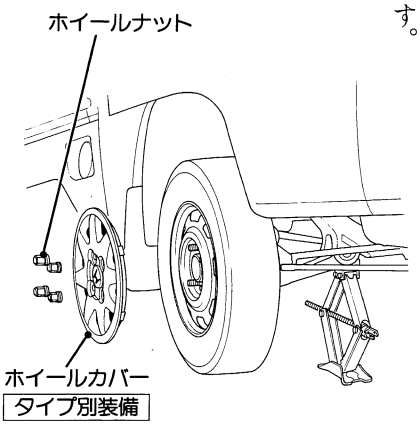
1. 車を安全な場所に停め、工具類、スペアタイヤを取り出します。
2. 駐車ブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。



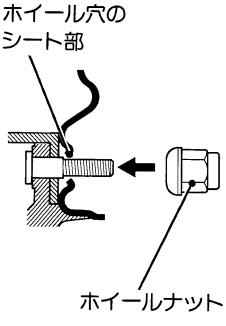
3. スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。
4. ジャッキは図の部分の交換するタイヤに近い位置にかけます。



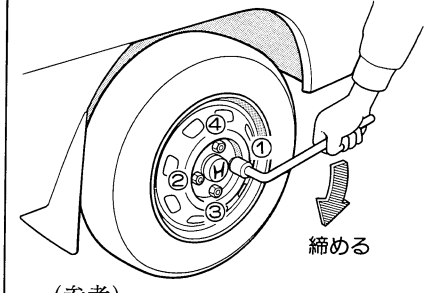
5. ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめます。
6. ジャッキハンドルを使ってタイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。
7. ホイールナット、ホイールカバー(タイプ別装備)を外し、タイヤを交換します。



8. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



9. ジャッキを下げ、図の番号順に2~3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。



(参考)

ホイールナット締付けトルク	10.0~12.0 kg-m

アドバイス

- ホイールカバー(タイプ別装備)は、ホイールナットを外さないと取り外しができません。ドライバーなどで無理にこじらないでください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締めないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

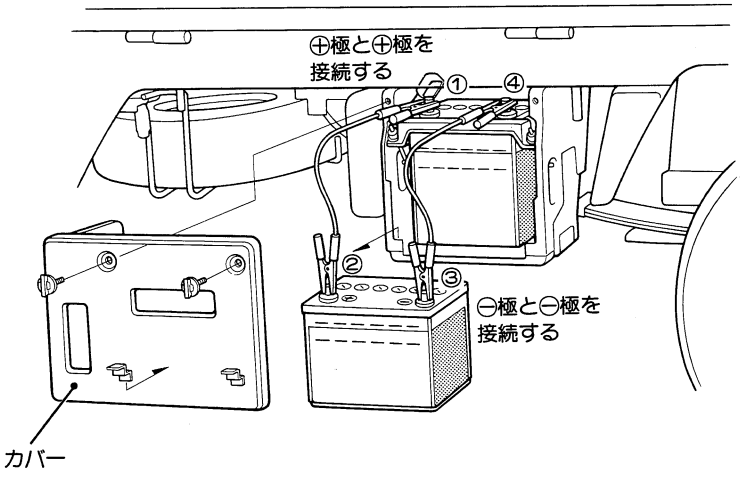
タイヤの空気圧 ↓98ページ

- パンクの修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダ販売店で点検を受けてください。

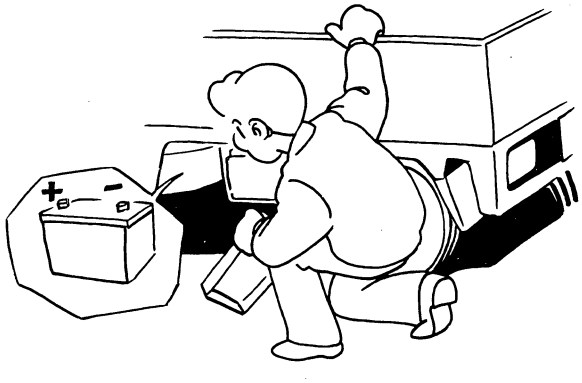
注意

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
  ホイール交換に際しては、必ずホンダ販売店にご相談ください。
- 必ず指定サイズおよび同一種類のタイヤを使ってください。
  指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 四輪駆動車は四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
- タイヤ交換は安全のため地面の硬い平らな所で他の交通に十分注意して行ってください。
  必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- ジャッキを使うときは安全のため、必ず指定された位置にかけ、乗っている人は降りてもらい、また荷物はおろしてください。
- 車がジャッキだけで支えられているときはエンジンをかけたり、車の下に入ったりしないでください。

バッテリーあがりのとき



他のバッテリーを利用してエンジンをかけるときは、荷台左下のカバーを取り外し、図の番号順にコードを接続し、エンジン始動後は逆の順序でコードを取り外してください。



注意

- 放電したバッテリーに他のバッテリーを接続してエンジンを始動するときは、⊕⊖極を間違えないように注意してください。
- バッテリーの充電をするときは、すべてのキャップを外してください。
- 充電中は換気に十分注意し、換気の悪い場所では行わないでください。
- バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
  バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。

正しく対処で、安全ドライブ。

オーバーヒートしたとき

1. 車を安全な場所に停め、エンジンをかけたままにします。
このとき、冷却ファン(→18ページ)が作動していることを確認してください。

アドバイス
- 万一、ファンが作動していない場合は、エンジンを止めて自然冷却し、すみやかにホンダ販売店で点検を受けてください。

2. 水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。

3. エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。
冷却装置の点検　→18ページ

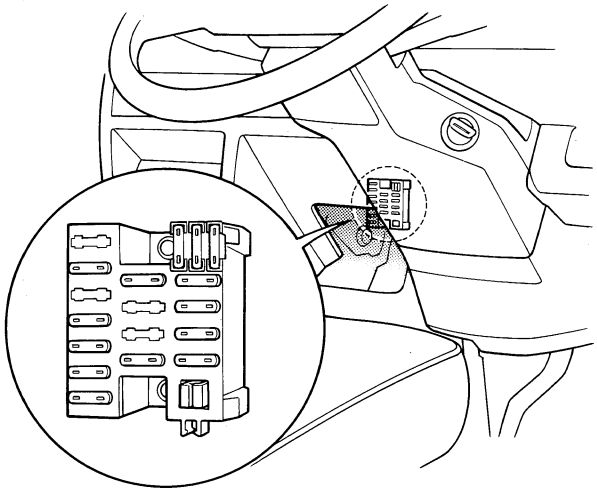
4. 冷却水量が不足していたら補給します。
冷却水の補給　→81ページ

注意
- 水温が高いときラジエーターキャップを外さないでください。
冷却水には圧力がかかっているので蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

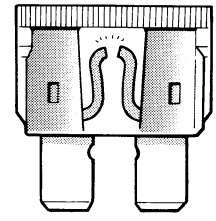
ライト類が点灯しないとき

ヒューズの交換

エンジンスイッチを〝OFF〟位置にし、故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認し、ヒューズが切れていないかを点検します。



ヒューズが切れた場合は、ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。



アドバイス
- 交換してもまたヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますのでホンダ販売店で点検を受けてください。

注意
- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。
配線コードなどを焼損させる原因となります。

電球(バルブ)の交換

電球切れが確認された場合には、次の要領で交換します。

アドバイス

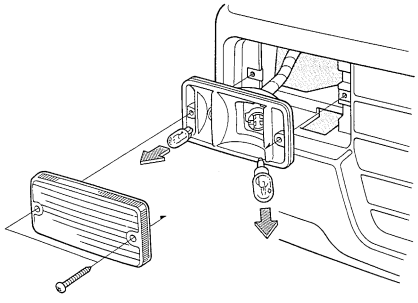
- レンズを取り付けるときは、ネジを締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときは、ワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数 →96ページ

- ハロゲンバルブ(ヨウ素入り電球)を交換するときには、電球の表面に手などが触れないようにしてください。
使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短かくなります。
万一、触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。

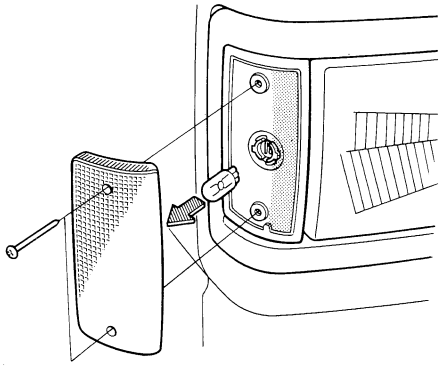
●前面方向指示器／前面非常点滅表示灯、車幅灯

ネジをゆるめてレンズを外し、電球を抜き取ります。



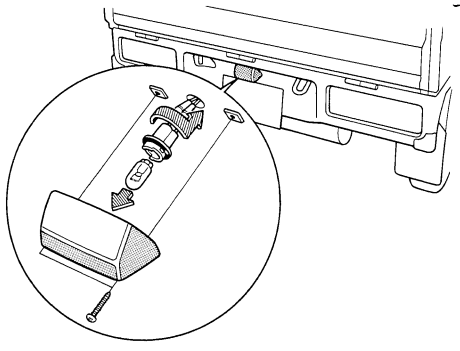
●側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

ネジをゆるめてレンズを外し、電球を抜き取ります。



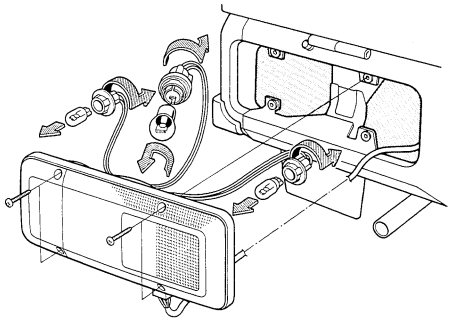
●番号灯

ネジをゆるめランプ本体を外し、電球を抜き取ります。



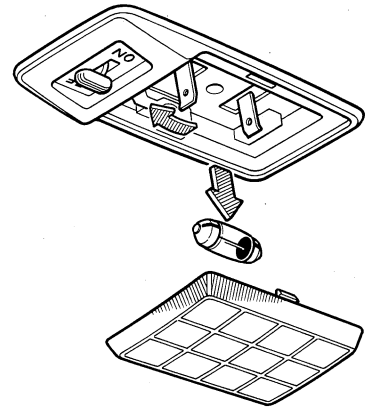
●制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯、後退灯

ネジをゆるめランプ本体を外します。ソケットを左へ回して外し、電球を外します。



●室内灯

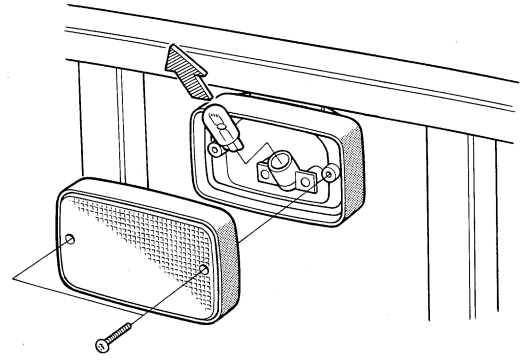
レンズを外し、電球を外します。



●荷台作業灯

タイプ別装備

ネジをゆるめレンズを外し、電球を抜き取ります。



Memo

5 車の手入れ



6か月点検
点検項目……73

簡単な整備
エンジンオイルの補給……80
冷却水の補給……81
ウォッシャー液の補給……82
ブレーキ液の補給……82
トランスミッションオイル量の点検……83
バッテリー液の補給……83
バッテリー端子部の清掃……84
タイヤの位置交換
（タイヤローテーション）……85
エアクリーナーろ紙部の清掃・交換……85
ワイパーブレードラバーの交換……86
塗装の手入れ……86
内装の手入れ……88
エアコンの手入れ……88
冬期の整備……89

6か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、法令によって定められています。自家用軽貨物車には6か月、12か月、24か月の3種類があり、6か月点検にはⒶとⒷの項目があります。

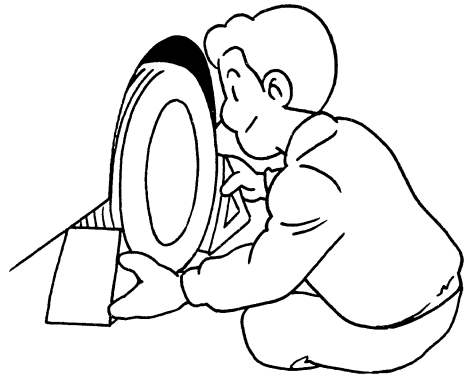
Ⓐ…点検を行うに当たって、自動車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。

Ⓑ…点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取り外しを伴うもの。

ご自身で6か月点検のⒶ項目を行う場合は、次頁以降の点検方法に基づき作業してください。

アドバイス

- 点検結果は所定の用紙に記録する必要があります。ご自身で出来ない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。
- 点検結果の記録用紙(定期点検整備記録簿)は、別添整備手帳に綴込まれています。記録は2年間保存してください。



点検するときは安全に十分注意してください。

注意

- 静止状態での点検は安全のため平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
- 換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。
- 走行して点検するときは周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- ジャッキアップして点検するときは、適切なジャッキを使ってください。(お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみに使うものです。)

点検項目

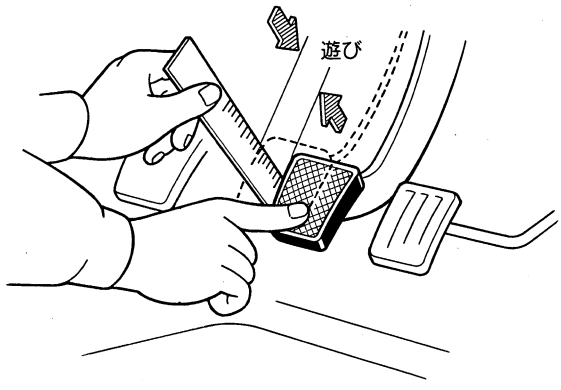
ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間……74
ブレーキのきき具合……74
駐車ブレーキレバーの引きしろ……75
ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態……75
リザーバータンクの液量……75
タイヤの空気圧……76
タイヤの亀裂、損傷……76
タイヤの溝の深さ、異状な摩耗……76
タイヤの金属片、石、その他の異物……77
クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間……77
バッテリーの液量……78
エンジンオイルの汚れ、量……78
冷却水の量……78
発電機ベルトのゆるみ、損傷……79
灯火装置、方向指示器の作用……79

念入り点検、安全確保。

ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間

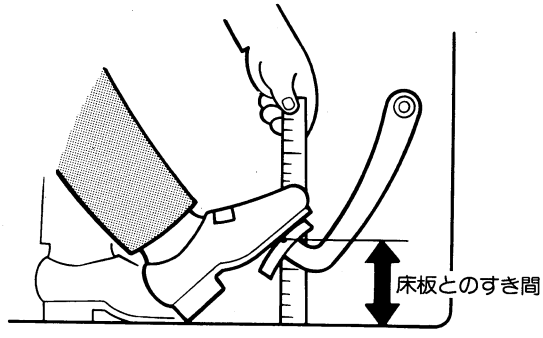
●遊び

エンジンを停止させた状態で、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのちに、ブレーキペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量(遊び)を定規などで点検します。遊びは1～10㎜が適正です。



●床板とのすき間

エンジンを始動し、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く(踏力20㎏)5秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。床板とのすき間は101㎜以上が適正です。



注意

●踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。
ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

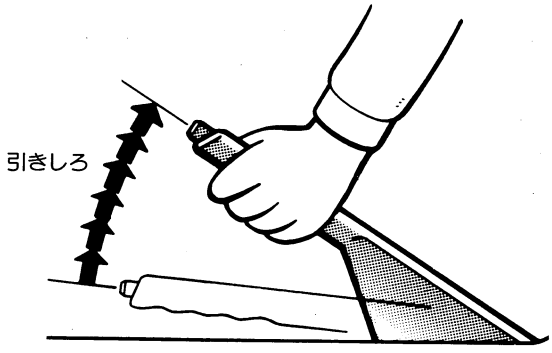
ブレーキのきき具合

乾燥した路面で低速走行して、ブレーキテストを行い、きき具合が十分か、片ぎきがないかを点検します。



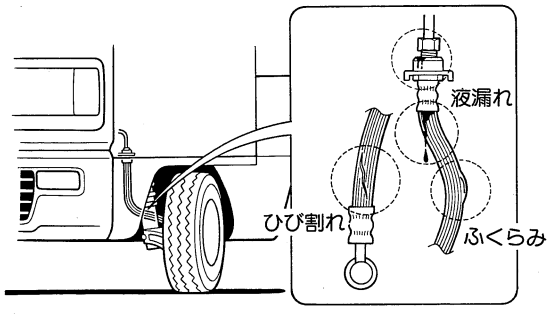
駐車ブレーキレバーの引きしろ

レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて（操作力20kg）、8～12回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。



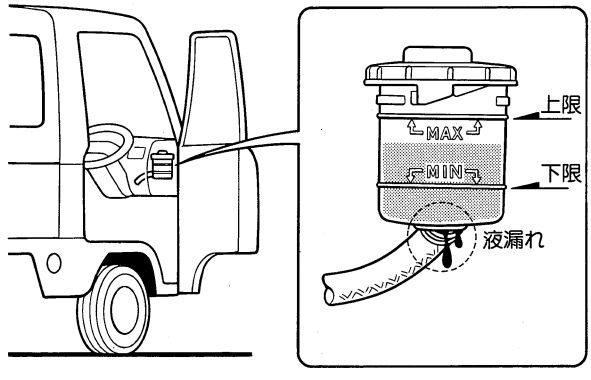
ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態

ハンドルを左と右にそれぞれいっぱいに切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。また、ホースが車体などと接触していないかやホースの接続部から液漏れがないかも点検します。
次に、右側のフロントブレーキについても左側同様に点検します。



リザーバータンクの液量

運転席開口部のカバーを外し、リザーバータンクの液量が上限（MAX）と下限（MIN）の間にあるか、タンク周辺から液漏れがないかを目視や手でさわって点検します。



アドバイス

●液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。
ブレーキ液の補給 →82ページ

●ブレーキ液量の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

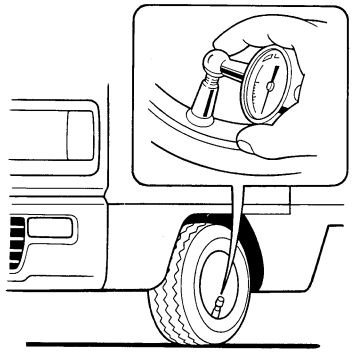
各部にわたって念入りチェック。

タイヤの空気圧

走行前、タイヤが冷えているときにタイヤゲージで空気圧を点検します。

(単位kg/cm²)

サイズ ＼ 空気圧	一般及び高速走行時共			
	2名＋100kg以下		定積載	
	前輪	後輪	前輪	後輪
5.00-12-4PR ULT	1.8	2.0	2.0	2.4
145R12-6PR LT	1.8	2.0	2.0	2.4

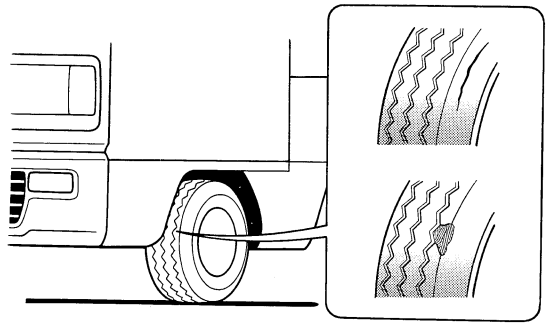


アドバイス

●スペアタイヤの空気圧は基準値より0・2kg／cm²くらい高めにしておき、使うとき調整してください。

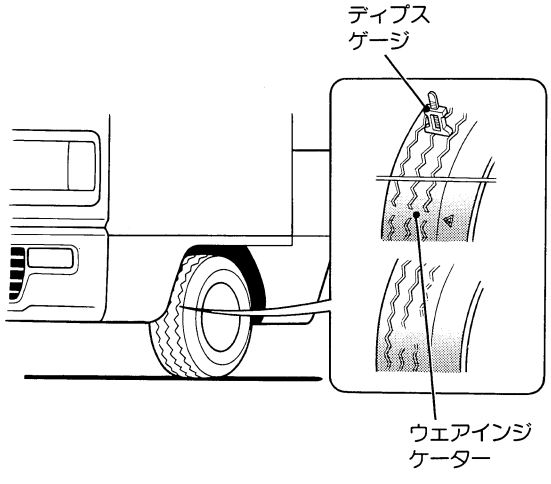
タイヤの亀裂、損傷

タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。



タイヤの溝の深さ、異状な摩耗

タイヤの接地面に表示されているウェアインジケーター(摩耗限度表示)またはディプスゲージ(またはノギス)により溝の深さが1・6㎜以上あるかを点検します。タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視により点検します。



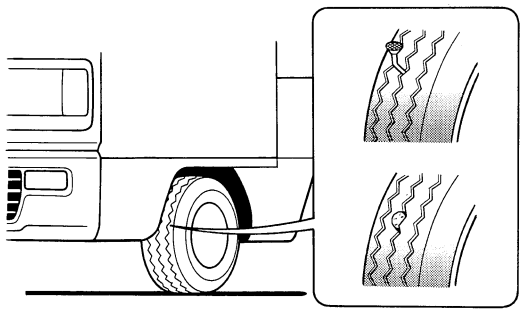
アドバイス

●ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1・6㎜だけ浅くなっています。

●高速走行時(80km／h以上)の場合は安全のため溝の深さは2・4㎜以上を厳守してください。(145R12-6PR LTタイヤのみ)

タイヤの金属片、石、その他の異物

タイヤの接地面と両側面に釘や異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないかを目視や手でさわって点検します。

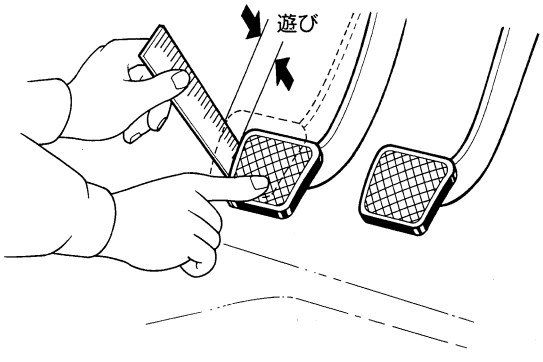


クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間

マニュアル車

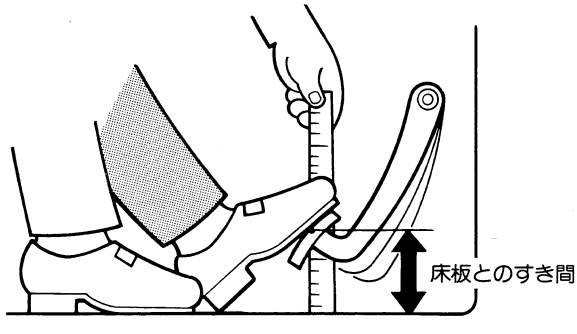
●遊び

クラッチペダルを手で抵抗を感じるまで押したときの移動量(遊び)を定規で点検します。
遊びは15~25㎜が適正です。



●切れたときの床板とのすき間

駐車ブレーキをいっぱいに引き、エンジンを始動します。
アイドリング状態でクラッチペダルをいっぱいに踏み込み、ギヤを1速に入れたのちペダルを徐々に離し、クラッチがつながる直前の状態(エンジン音が変化したり振動が発生したりします)でペダルと床板とのすき間を点検します。
切れたときの床板とのすき間は79㎜以上が適正です。



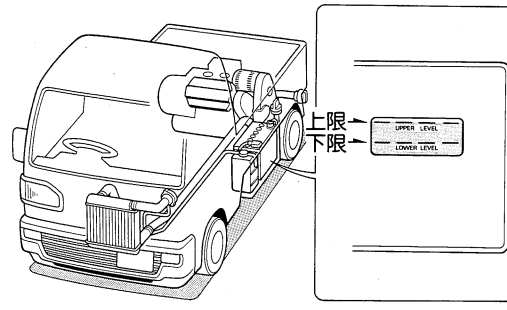
アドバイス

●車が発進しないように必ず駐車ブレーキをかけてください。

各部にわたって念入りチェック。

バッテリーの液量

バッテリーの液面が各槽とも上限と下限の間にあるかを目視により点検します。



バッテリー液の補給 →83ページ

注意

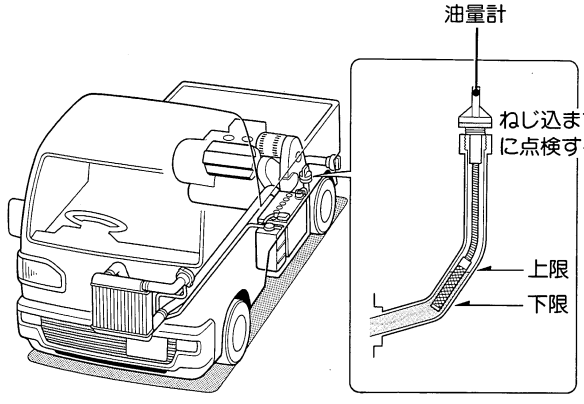
- バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断を受けてください。

エンジンオイルの汚れ、量

エンジンを停止させ、油量計（オイルレベルゲージ）により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

また、油量計に付着したオイルを手でさわるか、または布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

エンジンオイルの補給 →80ページ



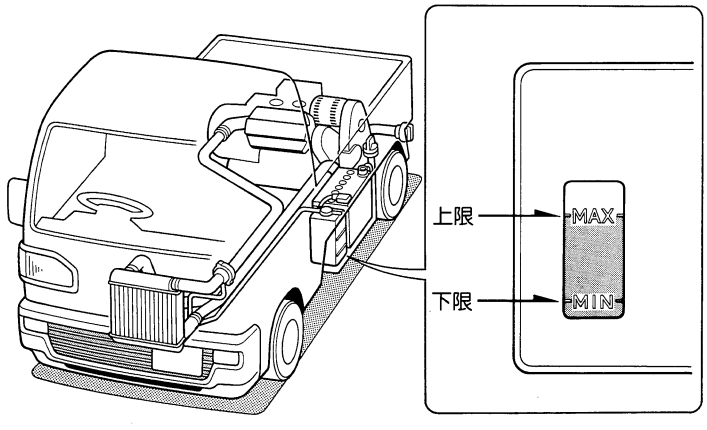
アドバイス

- 点検は平らな場所でエンジンを始動する前か、またはエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

冷却水の量

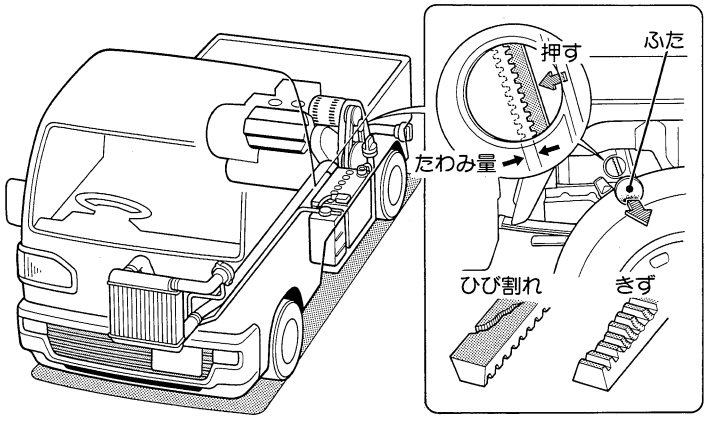
ラジエーターリザーバータンク内の冷却水量が上限（MAX）と下限（MIN）の間にあるかを目視により点検します。

冷却水の補給 →81ページ



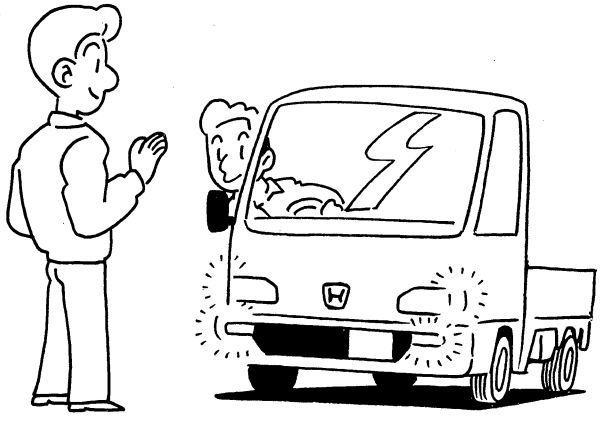
発電機ベルトのゆるみ、損傷

点検窓のふたを外し、発電機ベルトの中央部を強く押して(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。ベルトのたわみ量は9～11㎜が適正です。



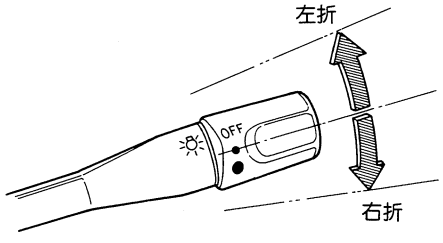
灯火装置、方向指示器の作用

前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。
前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯(エンジンスイッチが〝ON〟の状態で確認)、番号灯などを作動させ、点灯、または点滅するかを目視により点検します。
各灯器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

エンジンスイッチを〝ON〟にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



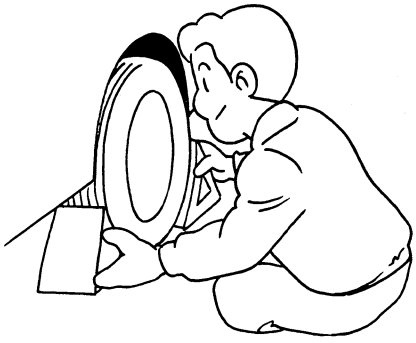
適正品を適量補給。

簡単な整備

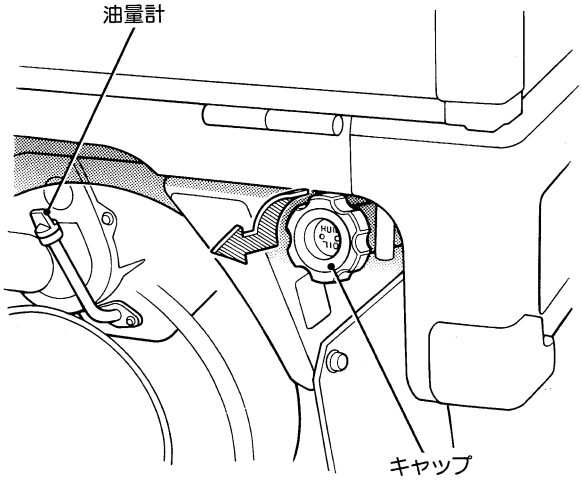
整備の際には次のことに注意してください。

注意

- 安全な場所を選んで行ってください。
- 適切な工具を使ってください。
- 安全のためエンジンは停止状態で行ってください。
- 駐車ブレーキレバーを十分に引き、輪止めをするなどして、車を動かないようにして行ってください。
- 自動車をリフトアップするときには、適切なジャッキを使ってください(車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時にのみ使うものです)。



エンジンオイルの補給



キャップを回して取り外し、油量計で確かめながら上限まで補給します。補給後、キャップは確実に締め付けます。補給がすんだらエンジンをかけ、1分間アイドリングした後、エンジンを停止し、3分以上たってから再度、油量計で確かめます。

アドバイス

- 作業は平坦な場所で行ってください。
- 補給するときは、キャップ部からゴミなどが入らないようにしてください。

推奨オイル…

ホンダ純正オイル(4サイクル四輪車用)

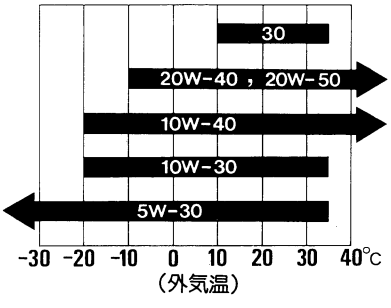
ウルトラU(API SE級 SAE 10W-30)

ウルトラGX(API SF級 SAE 10W-30)

ウルトラLTD(API SG級 SAE 10W-30)

ウルトラGOLD(API SG級 SAE 5W-30)

またはAPI SE級以上のエンジンオイルで、気温に応じた粘度のものを左表にもとづきお使いください。

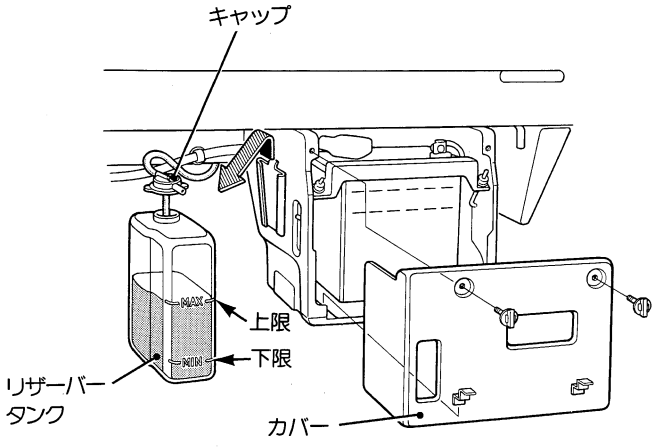


アドバイス

- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使わないでください。

冷却水の補給

カバーを外し、リザーバータンクを上へずらして取り外します。リザーバータンクのキャップを外し、タンクの上限（MAX）まで補給します。

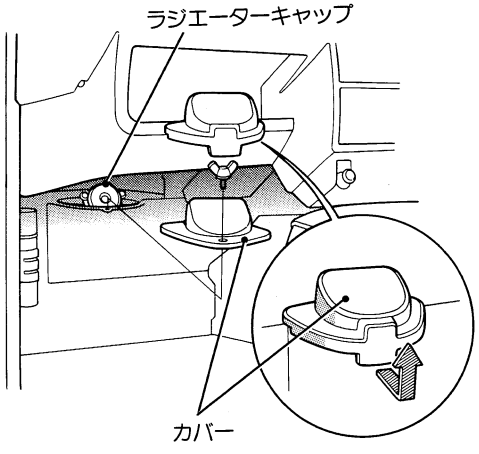


指定液の濃度を30%（寒冷地50%）にしてお使いください。

指定液：ホンダ純正
ウルトララジエーター液

液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますがエンジン温度に関係なく上限（MAX）まで補給します。

リザーバータンクに冷却水がないときは助手席足元のラジエーターにも補給します。カバーを外しラジエーターキャップを回して外し、ラジエーターの口元まで冷却水を補給します。



アドバイス

- 上限（MAX）を越えて補給しないでください。
- ラジエーター原液を規定濃度に薄めるときは上水道（軟水）を使ってください。
- 指定以外のラジエーター液や不適当な水を使うと、錆などの原因となります。

アドバイス

- 冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。必ずホンダ販売店で点検を受けてください。

注意

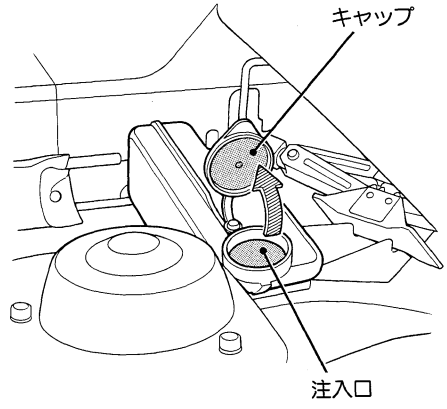
- 水温が高いときラジエーターキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。水温が下がってから、布切れなどでキャップを包み、静かに開けてください。



適正品を適量補給。

ウォッシャー液の補給

助手席シートクッションを引き起こし(↓24ページ)、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れて水で薄めます。

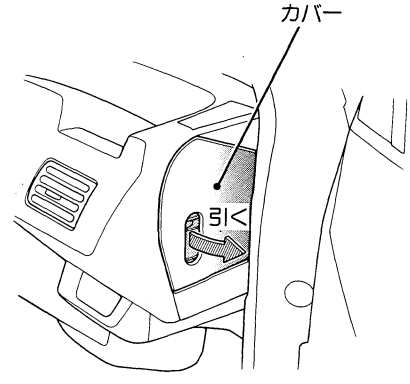


アドバイス

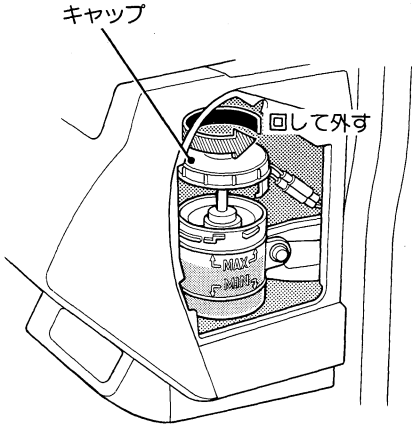
- 〝ホンダウォッシャー液〟には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。
  ウォッシャー液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシャー液の容器に記載してあります。
  粗悪品や不凍液を使うと塗装面などに害をあたえます。

ブレーキ液の補給

1. ブレーキ液が不足している場合は、運転席ドア開口部のカバーを外します。



2. リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までブレーキ液を補給します。



3. 補給後はキャップを確実に締め付けます。

指定液：ホンダブレーキフルード DOT3またはDOT4

アドバイス

- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給するときはこぼさないようにしてください。車体にこぼしたときは、すぐにふき取ってください。塗装面を傷めますので水できれいに洗い流してください。

アドバイス

- ブレーキ液量の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。
  ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

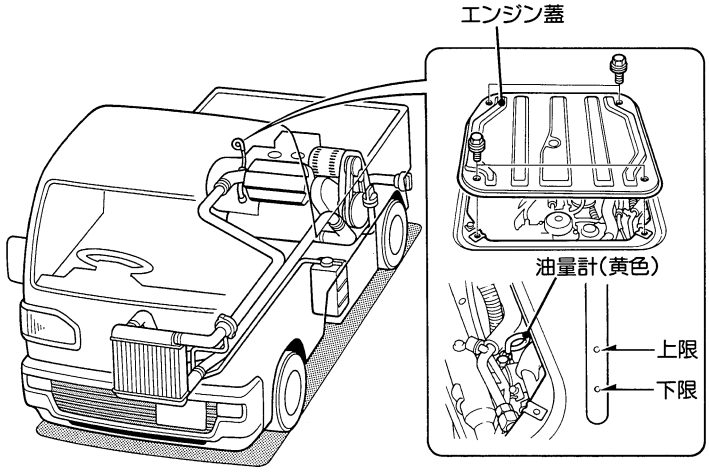
注意

- ブレーキ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄品を混用しないでください。ブレーキのきき具合やブレーキ系統に悪影響を与え危険です。
- 補給の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。小さなゴミでも混じるとブレーキがきかなくなるおそれがあります。

トランスミッションオイル量の点検

オートマチック車

1. エンジン蓋を取り外します。



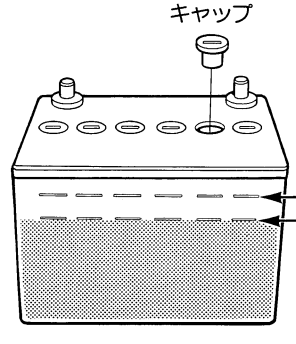
2. エンジン停止後1分以内に油量計(オイルレベルゲージ)により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

アドバイス

- 点検するときは、車を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
- 油量が下限より下がっていたら、ただちにホンダ販売店で補給、点検を受けてください。

バッテリー液の補給

1. バッテリー液が不足している場合は、キャップを回して外し、各槽とも上限までバッテリー補充液(蒸留水)を補給します。
2. 補給後はキャップを確実に締め付けます。



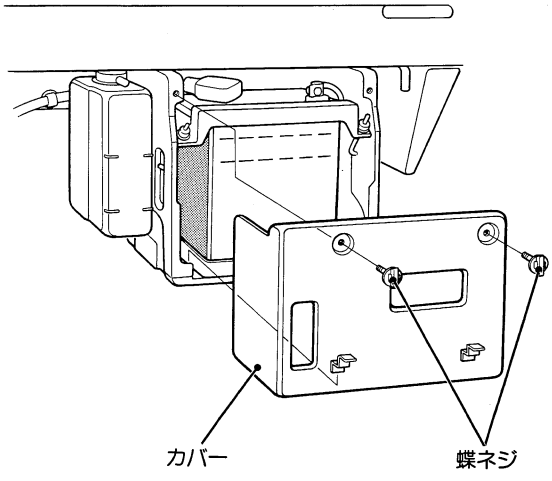
注意

- バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

バッテリー端子部の清掃

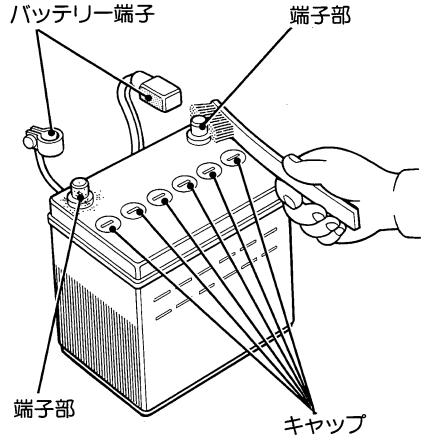
アドバイス
- 作業は必ずエンジンを停止させて行ってください。

1. 蝶ネジをゆるめカバーを取り外します。



2. 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。端子に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃します。

アドバイス
- 清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように、注液口のキャップは締めておいてください。



3. 端子部の腐食が著しい場合は、端子部を取り外して、ワイヤーブラシ、サンドペーパーでみがきます。

アドバイス
- ショートによる火花の発生を避けるため端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。
  取り付ける場合は、プラス側の端子(赤色)から取り付けてください。
- 端子部にゆるみが生じないよう確実に締め付けてください。

4. 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを塗布します。

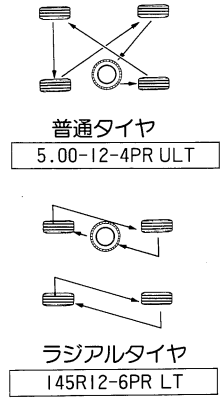
注意
- バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
  バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

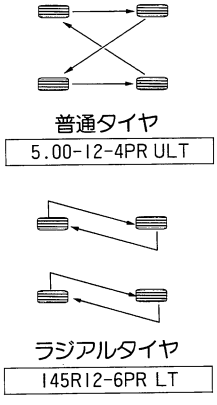
5000kmごとにタイヤの位置を交換します。

同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

〈スペアタイヤを使う場合〉



〈スペアタイヤを使わない場合〉



エアクリーナーろ紙部（エレメント）の清掃・交換

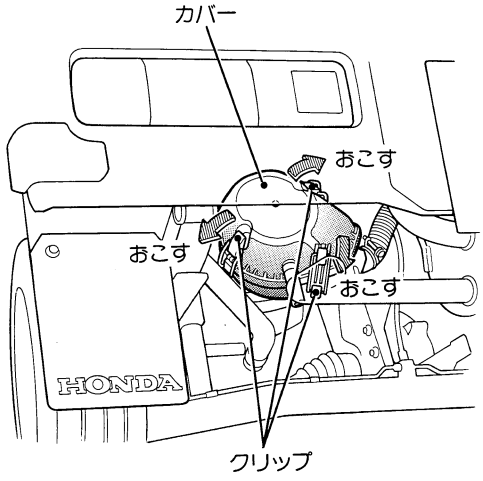
●清掃

アドバイス

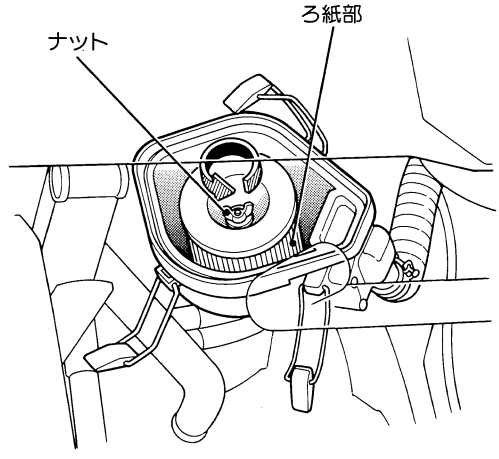
●ほこりの多い地区では早めに清掃、交換してください。よごれたまま使うと燃費不良や加速不良などの原因となります。

清掃時期
12か月ごと

1. クリップをおこし、カバーを取り外します。



2. 中央のナットを外し、ろ紙部を取り出します。ろ紙部の内側から圧縮空気を吹きつけてホコリを取ります。



●交換

推奨交換時期
40、000kmごと

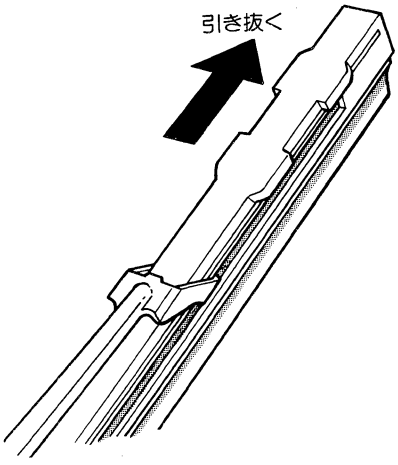
清掃と同じ要領でろ紙部を取り外し、交換します。

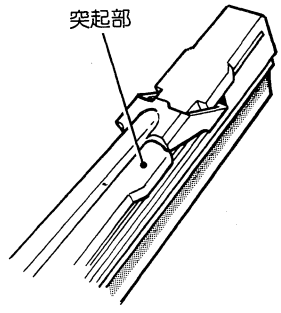
外装手入れで化粧万全。

ワイパーブレードラバーの交換

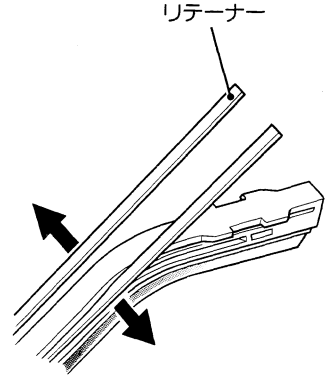
ラバーが傷んでいると、ふきむらがあるばかりでなくウィンドーガラスを傷付けることがありますので、早めに交換してください。

1. ブレードの突起部が外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。

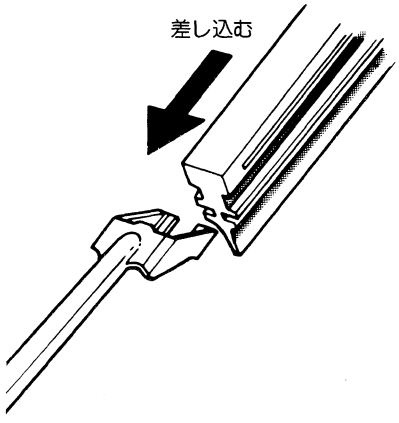




2. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付けます。



3. 突起部と反対側からラバーをブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



アドバイス

●左右のワイパーブレード、ラバー、リテーナーは長さが異なります。取り付けるときは、左右を間違えないように注意してください。

塗装の手入れ

●お車を美しく保つために

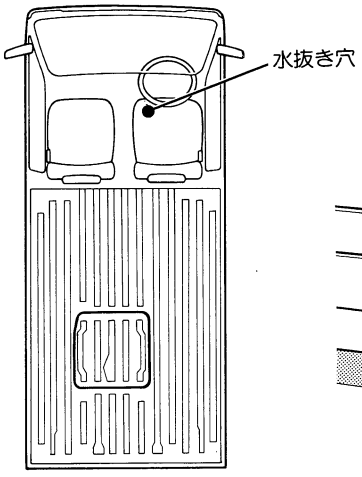
1. 走行後は塗装面に付着したほこりを、毛ばたきなどではらい落としましょう。
2. 次の場合は必ず洗車してください。
●凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
●海岸地帯を走行したとき。
以上のときは車体の下廻り、フェンダーの内側を特に念入りに洗ってください。
●コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついた場合。
化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とし、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
ポリシングワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。
3. 少なくとも月に一度は洗車してください。
4. とび石などによる塗装の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
5. 保管・駐車は風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。

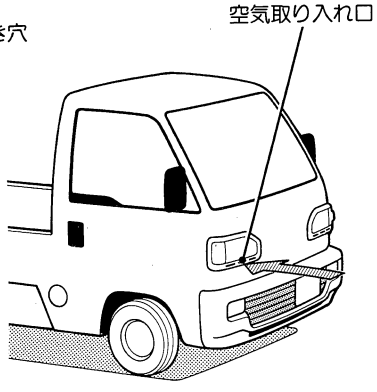
●洗車のしかた

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗います。
2. よごれがひどい個所は中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
3. 水が、かわかないうちにふき取ります。

アドバイス

- 自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。特にホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使用しないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗ってください。
- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。





●ワックスがけのしかた

月に1回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。
車体表面に水の残っていないことを確認し、日陰または車体表面が体温以下になっているとき行います。
ワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

アドバイス

- みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
- バンパーの塗装されていない部分に塗装面用ワックスが付着すると、目地に入り白くなります。この場合はブラシなどで洗い落としてください。ワックスは目地につまらないホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

●樹脂塗装部品について

樹脂塗装部品(バンパーなど)にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。すみやかに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダ販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

エアコンも整備も、定期的に。

内装の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔かい布でよく落としてください。

アドバイス

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。

●液体芳香剤、レザークリーナーについて

液体芳香剤、レザークリーナーはその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、ひび割れをおこすことがあります。取り扱いには十分ご注意ください。

アドバイス

- 液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。芳香剤のご使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。
- レザークリーナーを使用したあとは、必ずかわいた布で軽くふきとってください。

また使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

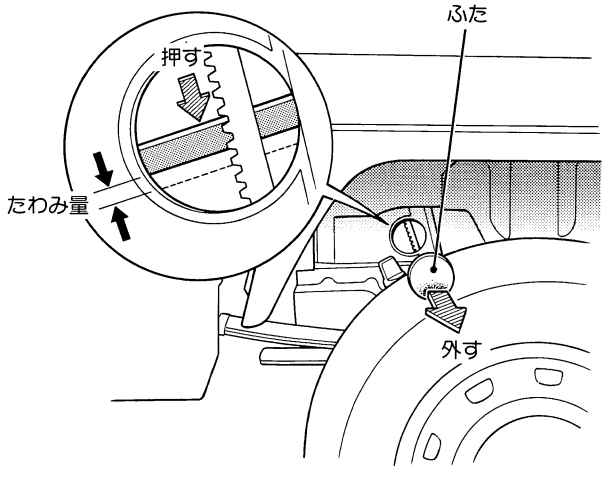
エアコンの手入れ

●ベルトの点検

点検窓のふたを外し、ベルトの中央部を強く押して(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。

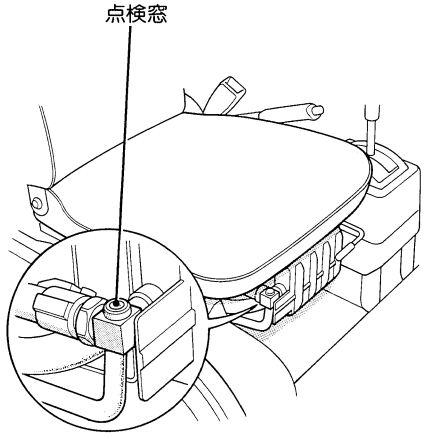
このときベルトに傷がないかも調べます。

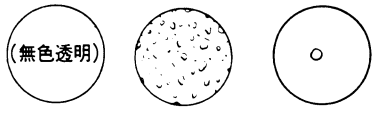
ベルトのたわみ量は9～12㎜が適正です。



●冷媒(ガス)量の点検

冷媒(ガス)が不足していると冷房性能が低下します。エンジン回転を少し上げて2～3分間冷房した後、点検窓で点検します。





冷媒量適正
(ほとんど透明です。エンジン回転を上げ下げすると気泡が流れることがあります。)

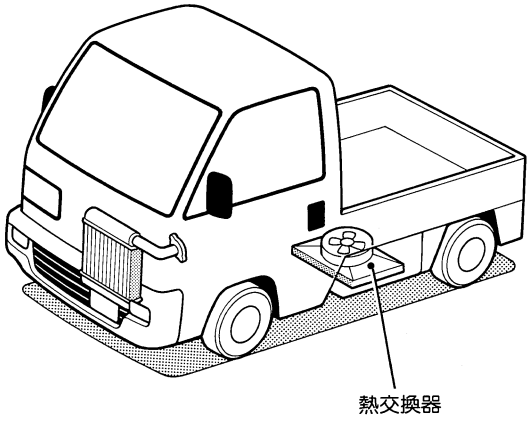
冷媒量不足

冷媒なし

冷媒(ガス)量が不足している場合は、ホンダ販売店で点検、補充を受けてください。

●熱交換器の清掃

洗車の際は、熱交換器に付着している泥やゴミ等を、水を強くかけて洗い落とし、通気性をよくします。

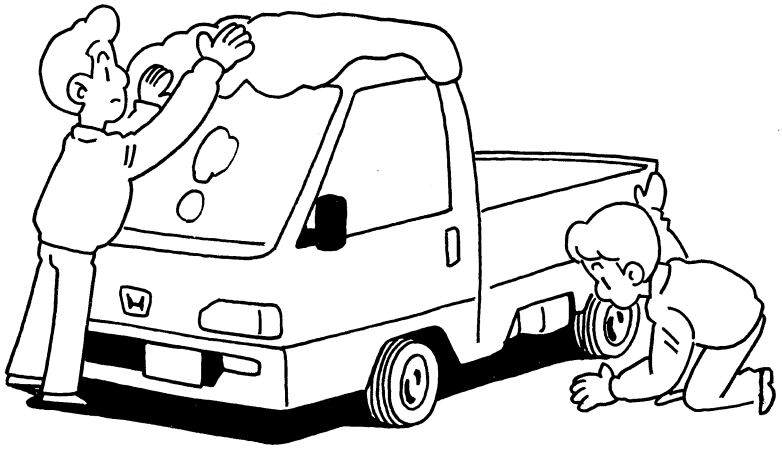


冬期の整備

●バッテリーについて

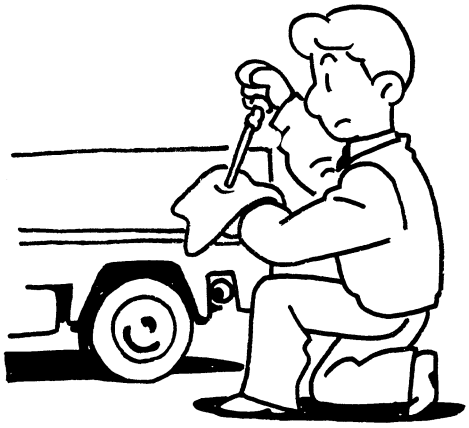
気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

バッテリー液量の点検 →78ページ
バッテリー液の補給 →83ページ



●エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。



●冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

冷却水の補給 →81ページ

●ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度をあげてください。

ウォッシャー液の補給 →82ページ

6 車との上手なつきあいかた



純正部品……91
車にあった部品の使用……91
経済走行のために……91
積雪・寒冷時の取り扱い
走行前の点検について……92
タイヤチェーン、スノータイヤについて……92
車の積雪について……93
ドアの凍結について……93
ワイパーについて……94
乗車について……94
ブレーキについて……94
滑りやすい路面について……94
雪の付着について……94
駐停車について……94
駐車ブレーキについて……94

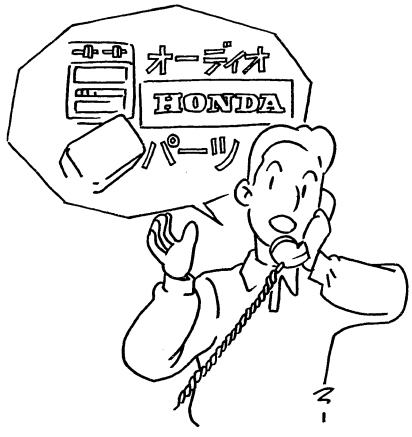
純正部品

車の性能、品質を維持するために、ホンダ車に最も適したホンダ純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。
ホンダ販売店でお求めになれます。
純正部品には、つぎのマークがついています。



車にあった部品の使用

車の性能や機能に影響する個所にはホンダ純正部品以外は使わないでください。
また、車の改造は法律に触れることはもちろん、思いがけない事故を起こす場合があります。
ラジオ、カーステレオ、アクセサリー部品などを装着する場合でも、装着に際してはホンダ販売店にご相談ください。



経済走行のために

アドバイス

- 不必要な急加速、急減速などアクセルペダルをバタつかせるような運転をしないでください。
- 高速道路でも不必要な高速走行は避けましょう。
- 変速位置の選択は走行速度に応じて適切に行ってください。
  マニュアル車 ↓37ページ
  オートマチック車 ↓40ページ
- 変速レバー操作はクラッチペダルをいっぱいに踏みこんで行い、クラッチペダルの足のせ運転、半クラッチの連続使用をしないでください。
- 長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。
- 車間距離は十分取り、不必要な急ブレーキをかけないでください。

冬場の使用には、いっそうのいたわりを。

積雪、寒冷時の取り扱い

北海道全域、東北や北陸の積雪地域および山岳地やスキー場などの局地的な厳寒・多雪地域が対象となりますが、その他の地域においても冬期の取り扱いの参考としてください。

走行前の点検について

「運行前点検」の際に左記の点検も行ってください。

1. 車の下廻りをのぞき、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。
2. ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

アドバイス

●特に寒暖の差がはげしいときは念入りに点検してください。

タイヤチェーン、スノータイヤについて

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたはスノータイヤを装着してください。スノータイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。

アドバイス

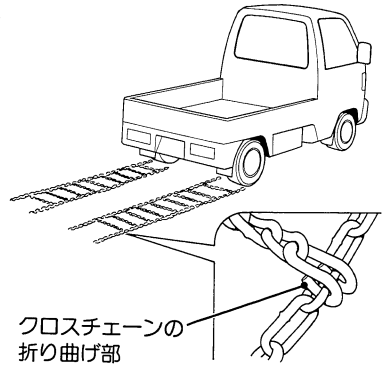
●地方条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

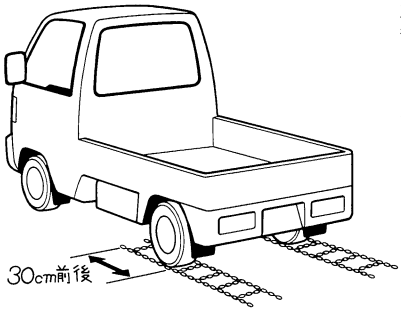


●標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

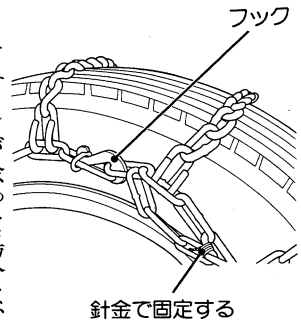
チェーンは後輪に取り付けてください。

1. 前輪を直進状態にします。
2. クロスチェーンの折り曲げ部が下側になるようにしてチェーンを後輪のすぐ後に敷きます。
3. 先端のフックから30cm前後の位置まで後輪を移動させます。



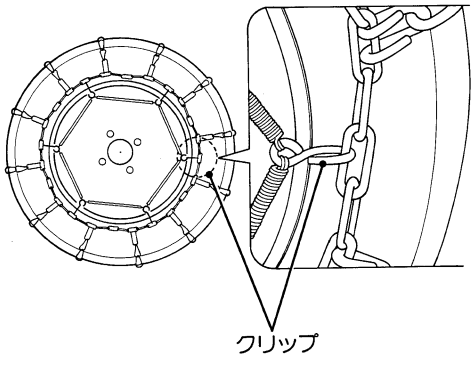


4. チェーンをタイヤにまきつけていっぱいに引き内側のフックを先に連結して次に外側のフックを連結します。



5. 連結してチェーンが余った場合は、ボディなどに当たるのを防ぐために針金で固定します。

6. チェーンバンドのクリップを外向きにしてチェーンをいっぱいに張ります。



7. 試走してチェーンの取り付け状態を確認します。

●指定チェーンサイズ

お求めはホンダ販売店にお申しつけください。

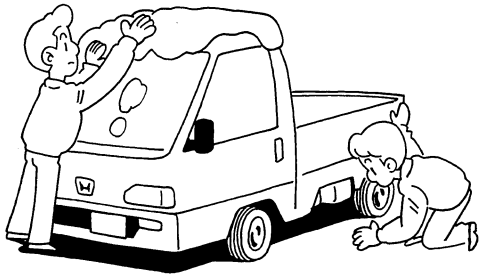
タイヤサイズ	指定チェーンサイズ
5・00-12-4PR ULT	45161
145R12-6PR LT	45170

注意

- タイヤチェーンはタイヤに合った適正なサイズのものを、必ず後輪に装着してください。
  サイズの合わないチェーンを使ったり、前輪に装着すると、ブレーキの配管やフェンダを破損し危険です。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには安全のためつぎの速度以下で運転してください。
  雪道、凍結路……30km／h以下
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。
- スノータイヤを装着したときには安全のため、高速走行は避けてください。

車の積雪について

屋根に積った雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。
氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。



ドアの凍結について

ドアが凍結したとき、無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
ドアまわりの水分は、凍結防止のためによく拭き取ってください。

アドバイス

- 凍結するおそれがあるので、ドアキー穴部には、湯をかけないでください。

細心注意で控えめ運転。

ワイパーについて

ワイパーブレード(ゴム部)がガラス面に張りついた状態やガラス面に着氷、積雪した状態でワイパーを動かすと、ワイパーブレードを損傷したり、ワイパーモーターの故障の原因となります。必ず取り除いてから動かしてください。
また屋外に駐車するときは、ワイパーアームを起こしてください。雪の重みでアーム取り付け部がこわれることがあります。

乗車について

靴にこびりついた雪は、乗車時よく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。



ブレーキについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

アドバイス

●万一、ブレーキのききが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにホンダ販売店で点検を受けてください。

滑りやすい路面について

雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りして方向性を失い危険です。

雪の付着について

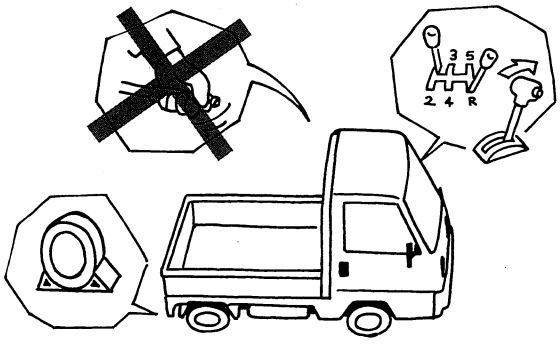
雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。
また、雪道を走った後は足まわりにこびりついた泥、雪は落してください。
その際、鋭利なものでたたいたりして、車を傷つけないようにしてください。

駐停車について

落雪や積雪の重みで、車の屋根などがへこむことがあります。駐停車するときは、軒下や樹木の下などには止めないでください。

駐車ブレーキについて

駐車するときは駐車ブレーキ装置の凍結を防ぐため、駐車ブレーキを使わないでください。マニュアル車はギヤをⓇ(後退)か1速に、オートマチック車はⓅに入れ、輪止めをしてください。



Memo

サービスデータ

項目		サービスデータ
点火プラグ※1	タイプ	NGK: BKR5E-11 / [BKR6E-11] / BKR7E-11　NIPPONDENSO: K16PR-U11 / [K20PR-U11] / K22PR-U11　□内は標準装備。
	電極のすき間(mm)	1.0～1.1
発電機ベルト	たわみ量(mm)	9～11(10kgの荷重)
エアコンベルト	たわみ量(mm)	9～12(10kgの荷重)
ブレーキペダル	遊び(mm)	1～10
	床板とのすき間(mm)	101以上(踏力20kg)
クラッチペダル	遊び(mm)	15～25
	床板とのすき間(mm)	79以上(クラッチが切れたとき)
駐車ブレーキレバー	引きしろ	8～12ノッチ(操作力20kg)
ウォッシャータンク	容量(ℓ)	1.5
バッテリー	容量(AH)	24(5)：マニュアル車に標準 28(5)：オートマチック車に標準
電球(バルブ)	W(ワット)数	前照灯(ハロゲンバルブ)……12V－60/55W 前面方向指示器/前面非常点滅表示灯…12V－18W 車幅灯……12V－5W 側面方向指示器/側面非常点滅表示灯…12V－5W 後面方向指示器/後面非常点滅表示灯…12V－18W 番号灯……12V－5W 制動灯/尾灯……12V－27/5W 後退灯……12V－18W 室内灯……12V－5W 荷台作業灯……12V－18W
燃料	使用燃料	無鉛ガソリン
	タンク容量(ℓ)	37

※1：ISO(国際標準化機構)規格品を使用しています。(ISO)のマークがついています。

Service Data

項目		サービスデータ	
タイミングベルト※2	推奨交換時期	100,000kmごと	
エンジンオイル	交換時期	10,000kmごとまたは6か月ごとのどちらか早い方	
	推奨オイル	ホンダ純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラU（API SE級 SAE 10W-30）ウルトラLTD（API SG級 SAE 10W-30） ウルトラGX（API SF級 SAE 10W-30）ウルトラGOLD（API SG級 SAE 5W-30）	
	規定量（ℓ）	オイル交換時	2.5
		オイル、オイルフィルター同時交換時	2.7
エンジンオイルフィルター	推奨交換時期	10,000kmごと	
トランスミッションオイル	交換時期	40,000kmごと	
	推奨オイル	マニュアル	ホンダ純正オイルウルトラU（4サイクル四輪車用、API SE級、SAE10W-30）またはホンダ純正オイルウルトラMTF
	指定液	オートマチック	ホンダ純正ATF
	規定量（ℓ）	マニュアル（交換時）	1.2 1.4（ATTACK）
		オートマチック（交換時）	2.5
フロントデファレンシャルオイル（4WD車）	交換時期	40,000kmごと	
	指定オイル	ハイポイドギヤオイルAPI GL 4または5相当、SAE90	
	規定量（ℓ）	0.50（交換時）	
冷却水	推奨交換時期	2年ごと	
	指定液	ホンダ純正ウルトララジエーター液	
	規定濃度	30%（寒冷地50%）	
	規定量（ℓ）（交換時リザーバータンク0.75ℓ含む）	6.5：マニュアル 7.1：オートマチック	
ブレーキ液	指定液	ホンダブレーキフルードDOT 3またはDOT 4	
エアクリーナーろ紙部（エレメント）	清掃時期	12か月ごと	
	推奨交換時期	40,000kmごと	

※2：推奨交換時期は、運転席ドア開口部のラベルにも表示してあります。
このラベルには、交換実施日とそのときの走行距離が記入されます。

サービスデータ

タイヤサイズ			5.00-12-4PR ULT	145R12-6PR LT
タイヤ空気圧 (kg/cm²) 一般・高速走行時共	2名＋100kg以下	前輪	1.8	
		後輪	2.0	
	定積載	前輪	2.0	
		後輪	2.4	
※リムサイズ	スチールホイール		12×3.50B	
	アルミホイール		12×3½J	
タイヤの残溝の深さ(mm)			1.6以上	1.6(高速走行時：2.4)以上
タイヤの位置交換時期(タイヤローテーション)			5,000kmごと	

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずホンダ販売店にご相談ください。

乗車定員 (名)	2
最大積載重量 (kg)	350

Index

ア

アンテナ……52

イ

イグニッションキー……15
スイッチ（エンジンスイッチ）……30

ウ

ウェアインジケーター……21・76
ウォッシャー液
冬期の整備……89
噴射スイッチ……32
補給……82
運行前点検……6・17

エ

エアクリーナーろ紙部（エレメント）の清掃・交換……85
エアコン
使いかた……47
手入れ……88
エンジンオイル
規定量……97
点検……19・78
フィルター……97
補給……80
冬期の整備……89
エンジン回転計……27
エンジンキー（キー）……15
エンジンスイッチ……30
エンジンのかけかた……34
エンジンブレーキ……12・43
エンスト……62

オ

オイル
エンジン
……（エンジンオイル）参照
フィルター交換時期……97
トランスミッション……97
フロントデファレンシャル……97
オートマチックトランスミッション
運転のしかた……41
オイル……97
オイル量の点検……83
切り換えレバー……39
オーバーヒート……68

カ

ガソリン……（燃料）参照
換気……7・49
換気レバー……47
間欠ワイパー……32
寒冷時の取り扱い……92

キ

キー……15
キーインターロック……30
切り換えレバー……39

ク

区間距離計……27
下り坂……12・43
曇り取り……50
クラッチペダル……36・77
グローブボックス……58

ケ

計器類（メーター）……27
警告灯……28
経済走行……91
けん引……59

コ

工具……61
後写鏡……22
後退灯
電球の交換……69
点検……20・79
ワット数……96
故障……62
小銭入れ（コインポケット）……59
小物入れ……58

サ

サービスデータ……96
坂道……12・43
差動制限装置……（デフロック）参照
サンバイザー……58

シ

シート……24
シートクッションポケット……59

さくいん

シートベルト……24
シガレットライター……57
室内灯……57
シフトレバー
　変速レバー……36
　切り換えレバー……39
シフトロック装置……10
ジャッキ……65
車幅灯
　電球の交換……69
　点検……20・79
　ワット数……96
充電警告灯……28
手動変速機（マニュアルトランスミッション）参照
純正部品……91
触媒装置……13
除湿暖房……50

ス

水温計……27
スイッチ
　ウォッシャー液……32
　エンジン……30
　方向指示器……31
　非常点滅表示灯……33
　ライト……30
　ワイパー……32
スパークプラグ（点火プラグ）……96
スピードメーター（速度計）……27
スペアタイヤ……65

セ

制動灯
　電球の交換……69
　点検……20・79
　ワット数……96
整備手帳……6・73
積算距離計……27
積雪時の取り扱い
　セレクトレバー（切り換えレバー）……39
　洗車……87
　前照灯
　　上向き表示灯……28
　　スイッチ……30
　タイヤ……92
セレクトレバー
　積雪時の取り扱い……92
　（切り換えレバー）……39
洗車……87
前照灯
　上向き表示灯……28
　スイッチ……30

ソ

速度計……27
速度範囲……37・40

タ

ターンシグナル
　……（方向指示器）参照
タイヤ
　位置交換……27
　空気圧（ローテーション）……85
　交換……20・76・98
　サイズ……66
　スペアタイヤ……98
　チェーン……65
　点検……92
　タコメーター（エンジン回転計）……20・76
暖房……27・49

チ

チェーン……92
チェンジレバー（変速レバー）……36
駐車……12・34・45・94
駐車ブレーキ
　警告灯……29
　点検……23・75
　取り扱い……34
　積雪、寒冷時の取り扱い……94

ツ

ツール（工具）……57

テ

停車……44
デファレンシャルオイル……97
デフロック
　作動表示灯……29
　スイッチ……38
　使いかた……38
点火プラグ……96
電球
　交換……69
　ワット数……96
点検
　運行前点検……6・17
　6か月点検……6・73

ト

ドア
　施錠、解錠……15
　積雪・寒冷時の取り扱い……93
　ドアポケット……59
灯火装置の点検……20・79
冬期の整備……89
塗装の手入れ……86
トランスミッションオイル……83・97
トリップメーター（区間距離計）……27

Index

ナ

内装の手入れ……88
ナンバープレート……20

ネ

燃料
使用燃料……9
燃料計……27
燃料タンク容量……16・96
燃料補給口……16
量の点検……23

ハ

パーキングブレーキ……(駐車ブレーキ)参照
排気温警告灯……29
灰皿……58
ハイビーム(前照灯上向き)
表示灯……28
ハザードスイッチ
(非常点滅表示灯スイッチ)……33
発炎筒……62
バッテリー
液の補給……83
液量の点検……78
端子部の清掃……84
バッテリーあがり……67
容量……96
冬期の整備……89
発電機ベルト……19・79
バルブ……(電球)参照
パンク……65
番号灯
電球の交換……69
点検……20・79
ワット数……96
反射器……20

ヒ

ヒーター……47
非常点滅表示灯スイッチ……33
尾灯
電球の交換……69
点検……20・79
ワット数……96
ヒューズ……68
表示灯……28

フ

フューエル……(燃料)参照
プラグ……96
ブレーキ
液の補給……82
液量……21・75
きき具合……74
警告灯……29
倍力装置……11
ペダル……23・74
積雪・寒冷時の取り扱い……94

ヘ

ヘッドランプ……(前照灯)参照
変速機オイル
(トランスミッションオイル)参照
変速レバー……36

ホ

方向指示器
スイッチ……31
点検……20・79
表示灯……28
電球の交換……69
ワット数……96
ホンダマチック3AT
……(オートマチックトランスミッション)参照

マ

マニュアルトランスミッション
オイル……97
変速レバー
(チェンジレバー)……36
万一のとき……60

ミ

水たまり走行……12
ミラー……(後写鏡)参照

メ

メーター……27

ユ

油圧警告灯……29
雪道走行……92

さくいん

ラ

ライトスイッチ……30
ラジオ……52
ラジエーター液……(冷却水)参照
ランプ……(電球)参照

リ

リザーバータンク
冷却水……19・78・81
ウォッシャー液……82

ル

ルームランプ(室内灯)……57

レ

冷却水
水量の点検……19・77
補給……81
冬期の整備……89
冷却装置……18
冷房……51

ロ

ロープ取り付け部……63
6か月点検……6・74

ヨ

四輪駆動車(4WD)について…9

ワ

ワイパー
スイッチ……32
ブレードラバーの交換……86
積雪・寒冷時の取り扱い……94
ワックスがけのしかた……87

Memo

Memo

お問い合わせ、ご相談はお買い求めのプリモ店もしくは全国共通のフリーダイヤル0120-112010（イイフレアイオ）で下記のお客様相談部がお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談部
〒107　東京都港区南青山２－１－１

地　区	郵便番号	所　在　地
札　幌	065	北海道札幌市東区本町２条10－2－29
仙　台	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1－10
東　京	107	東京都港区南青山２－１－１
名古屋	454	愛知県名古屋市中川区五月通4－22
大　阪	572	大阪府寝屋川市池田中町2－12
福　岡	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地が変更になることがありますのでご了承ください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、ホンダ
販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「整備手帳」の
〝ホンダのサービス網一覧〟をご覧ください。

30SJ6642
00X30-SJ6-6420

ⓃⓃ2000.07.N